町会活動に関する アンケート調査 報告書

平成29年３月　弘前市

Ⅰ 調査結果

目　次

Ⅰ．調査結果
1．町会長について・・・・・・・・・・01
2．町会費について・・・・・・・・・・05
3．町会の活動について・・・・・・・・07
4．町会の掲示板について・・・・・・・13
5．町会の課題について・・・・・・・・15
6．町会に加入しない世帯について・・・19
7．退会者対策・・・・・・・・・・・・27
8．役員の担い手確保のための工夫・・・29
9．町会活動に関わるきっかけづくり・・31
10．運営の見直し・工夫・・・・・・・・33
11．町会の特徴・参考となる取組や事例・35
12．町会長として思うこと・・・・・・・41

Ⅱ．資料集
1．市が行う町会活動支援事業一覧・・・・・・・・・・・・53
2．町会活動の活性化と加入促進について・・・・・・・・・・・55
3．市民アンケート調査結果・・・・60

調査概要

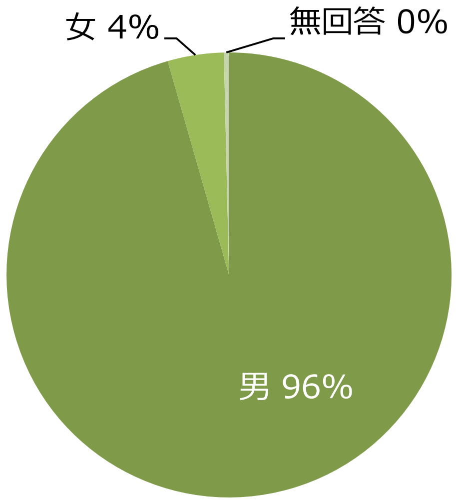
目　的	町会の活動状況を把握するとともに、町会運営や町会活動の取り組み事例を収集し、今後の町会活動活性化に係る取り組みの参考とするほか、各町会へ提供することにより町会活動の強化・充実を図るため、アンケート調査を実施する。
調査対象	弘前市内の333町会
調査方法	アンケート用紙を配布し、記入後回収
調査期間	平成28年10月27日（木）～11月25日（金）
回答町会数	273町会（回収率82.0%）

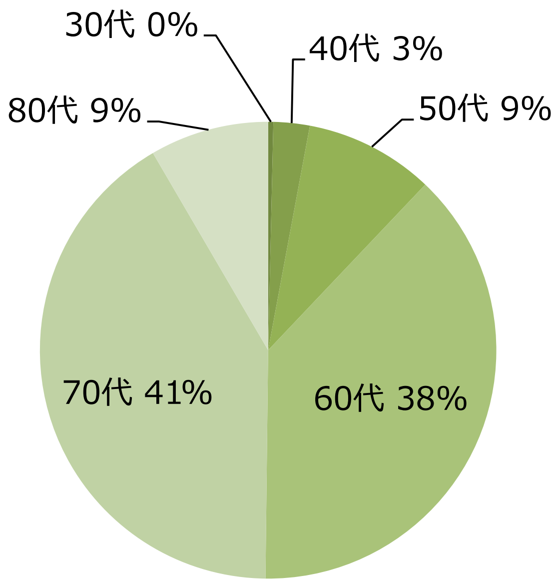
1

町会長について

問１　貴町会長の性別は？

	町会数	構成比（%）
男	261	96
女	11	4
無回答	1	0
合計	273	100





問２　貴町会長の年齢は？

	町会数	構成比（%）
20代	0	0
30代	1	0
40代	7	3
50代	25	9
60代	104	38
70代	113	41
80代	23	9
90代以上	0	0
合計	273	100

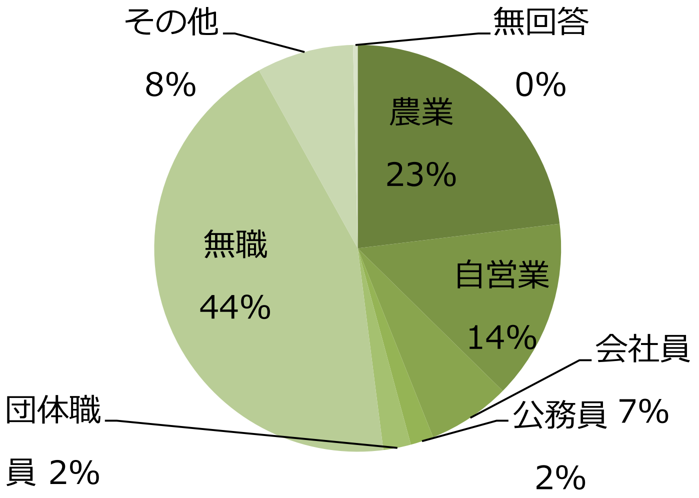
調査結果から

■ 町会長が女性であるとの回答が11件あり、割合は４%でした。

■ 年齢は70代が４割を占め、80代も１割程度を占めるなど、高齢傾向がうかがえます。

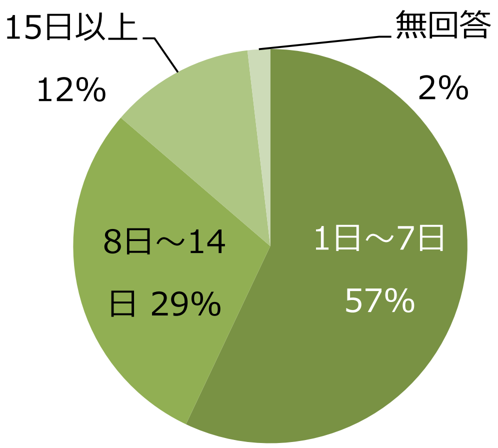
問３　貴町会長の職業は？

	町会数	構成比（%）
農業	63	23
自営業	39	14
会社員	18	7
公務員	5	2
団体職員	6	2
無職	120	44
その他	21	8
無回答	1	0
合計	273	100



■ その他

・会社役員　・社会福祉法人役員　・タクシー乗務員　・パート　・集合住宅管理人　・講師
・シルバー人材員　・嘱託員　・市議会議員　・写真業　・製造業

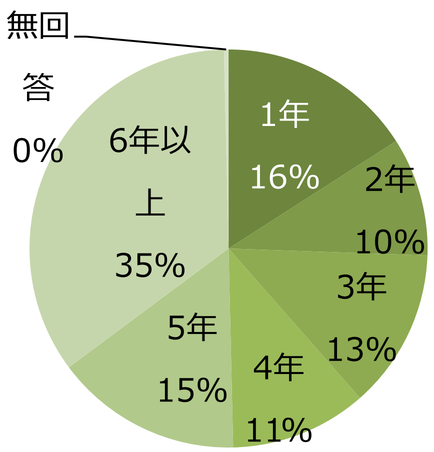


問4　貴町会長の月間従事日数は？

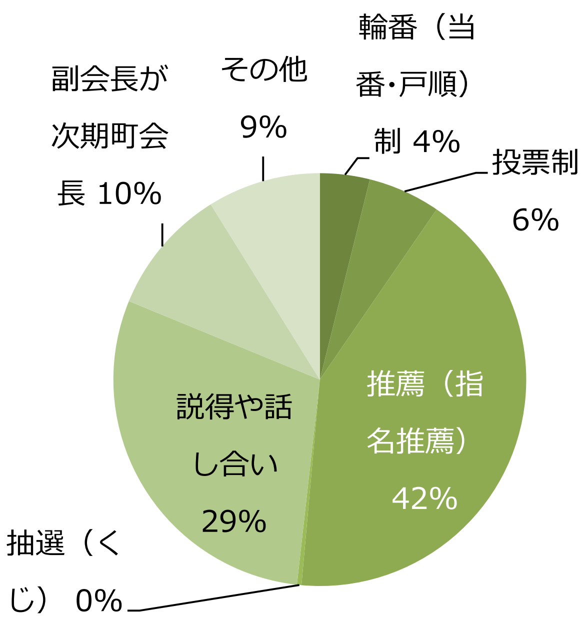
	町会数	構成比（%）
1日～7日	155	57
8日～14日	81	29
15日以上	32	12
無回答	5	2
合計	273	100

問５　貴町会長の通算在職年数は？

	町会数	構成比（%）
1年	43	16
2年	26	10
3年	35	13
4年	30	11
5年	42	15
6年以上	96	35
無回答	1	0
合計	273	100



■ 最長…40年　■ 平均…6年



問６　貴町会長の選出方法は？

	町会数	構成比(%)
輪番（当番・戸順）制	11	4
投票制	16	6
推薦（指名推薦）	118	42
抽選（くじ）	1	0
説得や話し合い	83	29
副会長が次期町会長	28	10
その他	25	9
合計	282	100

■ **その他（抜粋）**
・２年に１回の総会時に、推薦あるいは説得・話し合い
・各班から役員が輪番、役員の中から話し合いにより町会長を選出→総会で承認
・副会長が次期町会長と決めていても、実際はなかなかやる人がいなく、何人かに当たってみて説得や話し合いを何度かしたが、私が引き受けた
・前町会長死亡のため推薦されたが、総会の改選では後任者がなく選出されている状態
・前町会長急死により後の取り仕切る人おらず自薦
・副町会長が次期町会長だが、その限りではない
・規約では選挙となっている
・協議員（15名）の中より互選
・前会長から依頼を受けた
・町会役員の中での話し合い
・投票もしくは推薦によって選出
・班毎の輪番、その班の中で推薦
・役員会で推薦・総会提案し承認
・役員の成り手がないので困っている
・役員は投票制、役員により町会長推薦

調査結果から

■ 職業は、無職の方が４割を占めており、現役で仕事を持っている人には敬遠されていることがうかがえます。

■ 月間従事日数は、１日～７日の人が最も多いという結果でした。

■ 在職年数は、６年以上務めている人が約４割を占め、最長では40年、平均は６年でした。長期にわたって町会長を務めている人も多いことから、役員の成り手が不足していることがうかがえます。

■ 選任方法については、推薦(指名推薦)が最も多く、次いで説得や話し合い、副会長が次期町会長という結果でした。

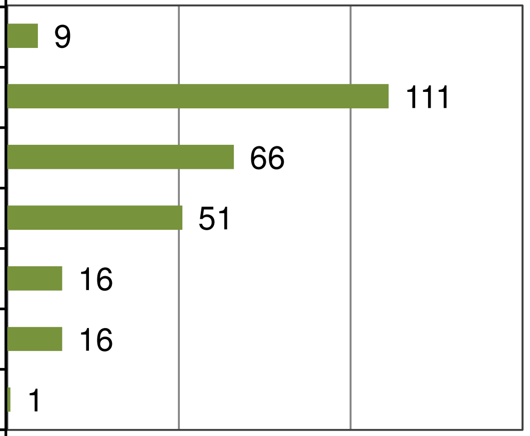
メモ

2 町会費について

問７　現在の町会費を教えてください。

■ **一般世帯（年額）**

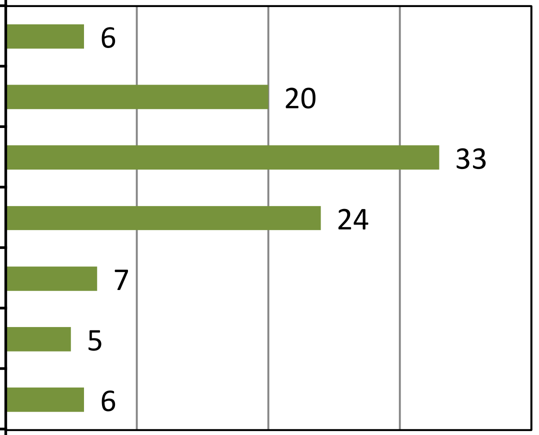
	町会数	構成比（%）
3,000円未満	9	3
3,000円～4,999円	111	41
5,000円～9,999円	66	25
10,000円～14,999円	51	19
15,000円～19,999円	16	6
20,000円～29,999円	16	6
30,000円以上	1	0
合計	270	100



■ 最大…35,000円　■最小…0円　■平均…7,975円

■ **事業所（年額）**

	町会数	構成比（%）
3,000円未満	6	6
3,000円～4,999円	20	20
5,000円～9,999円	33	32
10,000円～14,999円	24	24
15,000円～19,999円	7	7
20,000円～29,999円	5	5
30,000円以上	6	6
合計	101	100



■ 最大…50,000円　■最小…0円　■平均…9,819円

調査結果から

一般世帯の町会費について

■ 町会費の回答の中には、「3,000円～4,200円」のように、幅のある答えも見受けられました。集計を行うにあたり、このような回答は平均値をとることとしました（「3,000円～4,200円」の場合、3,600円とみなす）。また、月額で回答のあったものは、回答金額×12ヵ月分で年額を算出し集計しました。
■ 町会費の状況としては、年額3,000円～4,999円台に設定している町会が、111件あり、全体の４割を超え、最も多くなっています。
■ 会費の設定として、町会費の中に共益費を含んでいる町会（県営住宅）や消防用維持費などを含んでいる町会もありました。

事業所の町会費について

■ 町会費の回答の中には、事業所の規模等により「6,000円～24,000円」のように、幅のある答えも見受けられました。集計を行うにあたり、このような回答は平均値をとることとしました（「6,000円～24,000円」の場合、15,000円とみなす）。また、月額で回答のあったものは、回答金額×12ヵ月分で年額を算出し集計しました。
■ 事業所から町会費を集金している町会は、101件あり、年額5,000円～9,999円台に設定している町会が、全体の約30%で最も多くなっています。
■ このほか、「会社の寮：月1,000円」「協賛金として6,000円～30,000円」「月400円～可能額」「協力費として（徴収強要なし）：10,000円」などの回答もありました。

その他の町会費について

■ その他の会費の設定として、生活保護世帯や高齢者の一人暮らし世帯などに対し、減額措置を行っている町会も多数ありました。
■ また、アパートや借家・官舎入居世帯などについても、一般世帯とは別に会費を設定している町会も多くありました（アパート・借家世帯は月額300円〈一般世帯は月額400円〉など）。

■ **その他会費等（抜粋）　※すべて年額**
・会館維持費…1,000円　・助け合い会費…1,000円　・赤十字会費…500円
・神社維持金…2,500円　・積立金…6,000円　・空き家（管理者）…7,000円
・住宅共益費（電気料）…7,200円　・開業医…18,000円
・大企業…50,000円　・学校…70,000円
・篤志家…6,000円（一般会費4,800円）
・町会内敷地除排雪費…3,000円～12,000円
・テナント… 6,000円（小）、12,000円（一般）
・特級3,000円、準特級2,000円、１級1,500円、2級1,000円、3級800円、4級600円

3

町会の活動について

問８　貴町会活動の現状と今後取り組みたい活動、負担が大きいと思っている活動、他町会や他団体との連携について、該当する活動の欄に〇印をつけてください。（該当するものすべて選択）

活動項目	■ 現在行っている
1. 住民への連絡（町会独自の回覧板等）	245
2. 市・各種機関・団体からの文書の配布・回覧	259
3. 「広報ひろさき」の配布	264
4. 河川清掃や地域の清掃活動	221
5. 道路・公園の除草・管理	199
6. ごみ置き場の管理	230
7. 交通安全活動	144
8. 防災活動	77
9. 自主防災組織の設立	58
10. 防犯活動（パトロール活動等）	80
11. 地域除雪	143
12. 廃品回収	118
13. 一人暮らしの高齢者の見守り	190
14. 老人クラブ活動	155
15. 盆踊り、祭り、伝統行事等	127
16. 文化教養、趣味の講座、学習会等	76
17. 葬祭の手伝い	61
18. 親睦（旅行・納涼祭・忘年会等）	187
19. 運動会・文化祭	90
20. 子ども会活動	158
21. 子育て支援の場づくり	37
22. 学校教育への参加	134
23. 町会独自の広報誌発行	61
24. 掲示板を利用した情報発信	188
25. ホームページやSNSでの情報発信	7
26. 主要課題のアンケート調査	34
27. 神社への協力	180
28. 行政・議会への要望活動	97
29. その他	10

■　**その他（抜粋）**

・運動教室　・栄養教室、健康づくり体操　・共同墓地の管理等
・敬老大会　・国際交流活動　・集会所の運営
・町おこし活動　・町会レクリエーション（温泉施設での懇談）
・消防団活動の協力

活動項目	■ 今後行いたい
1. 住民への連絡（町会独自の回覧板等）	8
2. 市・各種機関・団体からの文書の配布・回覧	5
3. 「広報ひろさき」の配布	5
4. 河川清掃や地域の清掃活動	8
5. 道路・公園の除草・管理	7
6. ごみ置き場の管理	4
7. 交通安全活動	20
8. 防災活動	60
9. 自主防災組織の設立	72
10. 防犯活動（パトロール活動等）	29
11. 地域除雪	14
12. 廃品回収	15
13. 一人暮らしの高齢者の見守り	20
14. 老人クラブ活動	15
15. 盆踊り、祭り、伝統行事等	14
16. 文化教養、趣味の講座、学習会等	36
17. 葬祭の手伝い	17
18. 親睦（旅行・納涼祭・忘年会等）	11
19. 運動会・文化祭	11
20. 子ども会活動	14
21. 子育て支援の場づくり	31
22. 学校教育への参加	18
23. 町会独自の広報誌発行	28
24. 掲示板を利用した情報発信	16
25. ホームページやSNSでの情報発信	26
26. 主要課題のアンケート調査	36
27. 神社への協力	10
28. 行政・議会への要望活動	39
29. その他	0

■ 負担が大きいと感じている

活動項目	負担が大きいと感じている
1. 住民への連絡（町会独自の回覧板等）	11
2. 市・各種機関・団体からの文書の配布・回覧	27
3. 「広報ひろさき」の配布	21
4. 河川清掃や地域の清掃活動	18
5. 道路・公園の除草・管理	21
6. ごみ置き場の管理	23
7. 交通安全活動	11
8. 防災活動	25
9. 自主防災組織の設立	41
10. 防犯活動（パトロール活動等）	27
11. 地域除雪	52
12. 廃品回収	21
13. 一人暮らしの高齢者の見守り	12
14. 老人クラブ活動	12
15. 盆踊り、祭り、伝統行事等	22
16. 文化教養、趣味の講座、学習会等	16
17. 葬祭の手伝い	32
18. 親睦（旅行・納涼祭・忘年会等）	12
19. 運動会・文化祭	29
20. 子ども会活動	11
21. 子育て支援の場づくり	25
22. 学校教育への参加	14
23. 町会独自の広報誌発行	42
24. 掲示板を利用した情報発信	4
25. ホームページやSNSでの情報発信	48
26. 主要課題のアンケート調査	27
27. 神社への協力	13
28. 行政・議会への要望活動	3
29. その他	1

0 20 40 60

■ 現在、他町会や他団体と連携している

活動項目	現在、他町会や他団体と連携している
1. 住民への連絡（町会独自の回覧板等）	17
2. 市・各種機関・団体からの文書の配布・回覧	6
3. 「広報ひろさき」の配布	3
4. 河川清掃や地域の清掃活動	13
5. 道路・公園の除草・管理	12
6. ごみ置き場の管理	3
7. 交通安全活動	51
8. 防災活動	20
9. 自主防災組織の設立	3
10. 防犯活動（パトロール活動等）	38
11. 地域除雪	14
12. 廃品回収	43
13. 一人暮らしの高齢者の見守り	20
14. 老人クラブ活動	23
15. 盆踊り、祭り、伝統行事等	18
16. 文化教養、趣味の講座、学習会等	35
17. 葬祭の手伝い	3
18. 親睦（旅行・納涼祭・忘年会等）	7
19. 運動会・文化祭	66
20. 子ども会活動	35
21. 子育て支援の場づくり	20
22. 学校教育への参加	29
23. 町会独自の広報誌発行	2
24. 掲示板を利用した情報発信	4
25. ホームページやSNSでの情報発信	0
26. 主要課題のアンケート調査	0
27. 神社への協力	8
28. 行政・議会への要望活動	20
29. その他	0

0 20 40 60 80

活動項目	■ 今後、他町会や他団体と連携して行いたい
1. 住民への連絡（町会独自の回覧板等）	4
2. 市・各種機関・団体からの文書の配布・回覧	2
3. 「広報ひろさき」の配布	0
4. 河川清掃や地域の清掃活動	1
5. 道路・公園の除草・管理	2
6. ごみ置き場の管理	0
7. 交通安全活動	10
8. 防災活動	21
9. 自主防災組織の設立	21
10. 防犯活動（パトロール活動等）	15
11. 地域除雪	2
12. 廃品回収	6
13. 一人暮らしの高齢者の見守り	4
14. 老人クラブ活動	10
15. 盆踊り、祭り、伝統行事等	6
16. 文化教養、趣味の講座、学習会等	5
17. 葬祭の手伝い	4
18. 親睦（旅行・納涼祭・忘年会等）	3
19. 運動会・文化祭	10
20. 子ども会活動	8
21. 子育て支援の場づくり	13
22. 学校教育への参加	5
23. 町会独自の広報誌発行	3
24. 掲示板を利用した情報発信	2
25. ホームページやSNSでの情報発信	8
26. 主要課題のアンケート調査	8
27. 神社への協力	7
28. 行政・議会への要望活動	7
29. その他	0

0 10 20 30

調査結果から

現在行っている活動・今後行いたい活動について

■ 現在行っている活動は、「『広報ひろさき』の配布」「市・各種機関・団体からの文書の配布・回覧」「住民への連絡（町会独自の回覧板等）」の順で多くなっています。

■ また、「町会独自の広報紙発行」と回答した町会が61件あり、回答町会中、２割程度あることが分かりました。

■ 今後行いたい活動は、近年の大規模災害等による防災意識の高まりを反映してか、「防災活動」「自主防災組織の設立」を挙げる町会が多数ありました。

負担が大きいと感じている活動について

■ 負担が大きいと感じている活動は、「地域除雪」「ホームページやSNSでの情報発信」「町会独自の広報紙発行」「自主防災組織の設立」が多くなっています。

■ 「自主防災組織の設立」については、今後行いたい活動との回答が多い一方で、負担が大きいと感じている町会も多いことが分かります。

■ 「ホームページやSNSでの情報発信」については、２番目に回答が多く、役員・会員ともに高齢化している町会にとっては、大変な作業に感じられるためと考えられます。

現在、他町会や他団体と連携している活動について

■ 現在、他町会や他団体と連携している活動は、「運動会・文化祭」「交通安全活動」「廃品回収」「防犯活動（パトロール活動等）」を挙げる町会が多くなっています。これらの活動については、地区や小・中学校区単位で行っているものが多いためと考えられます。

今後、他町会や他団体と連携して行いたい活動について

■ 今後、他町会や他団体と連携して行いたい活動は、「防災活動」「自主防災組織の設立」が最も多く挙げられました。

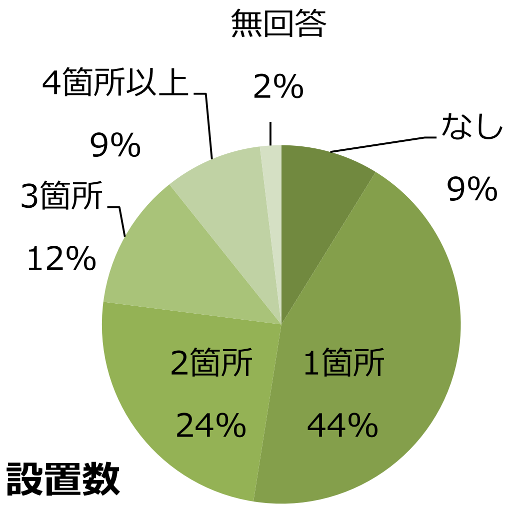
■ 調査結果を通して、これらについては、今後行いたい活動と挙げる町会は多いものの、実際に町会単独で行うには負担が大きいと感じ、他町会などと連携して行いたいと考えている町会が多いものと思われます。

4 町会の掲示板について

問９　貴町会が設置する掲示板はありますか？

	町会数	構成比（%）
ある	238	91
ない	23	9
合計	261	100

■ 最大…12箇所
■ 平均…2箇所



設置数

問10　掲示板にはどんなものを掲示していますか？（複数回答可）

	町会数	構成比（%）
市・各種機関・団体のポスター・チラシ	236	73
町会独自の掲示物	76	23
その他	13	4
合計	325	100

■ 町会独自の掲示物内訳（抜粋）
・町会行事・イベント等のポスター
・町会内の画家の方の絵を飾っている
・町会納涼祭、文化祭
・町内一斉草取り
・運動会、夏まつり、もちつき大会
・学区や地域の催し物等
・公民館行事や農業団体の行事など
・至急の回覧など
・自主防災避難訓練・親睦・子ども会活動・各種お知らせ
・青年部・婦人部
・選挙人名簿（町会役員）
・ねぷた運行、子ども会、資源回収
・宵宮、敬老大会等のお知らせ
・ラジオ体操、盆踊り

■ その他内訳（抜粋）
・神社の例大祭お知らせ、小学校
・学校から依頼された運動会等
・警察、小中学校のチラシ
・ごみ分別、犬・猫の放し飼い
・催事関係、学校、自衛隊、駐在所など
・他町会依頼の各運動について
・団体等から依頼のポスターを掲示
・薬物乱用防止、社会を明るくする運動等ポスター
・農協との連携で掲示
・町会内でのおくやみ
・防除組合

問11　掲示板をどのくらい活用していますか？

	町会数	構成比（%）
活用している	207	88
あまり活用していない	17	7
活用しているものとあまり活用していないものの両方がある	11	5
合計	235	100

問12　掲示板について今後どのように考えていますか？（複数回答可）

	町会数	構成比（%）
活用していきたい	182	58
あまり活用しない	6	2
新しいものに建て直ししたい	46	14
修繕したい	41	13
数を増やしたい	40	13
合計	315	100

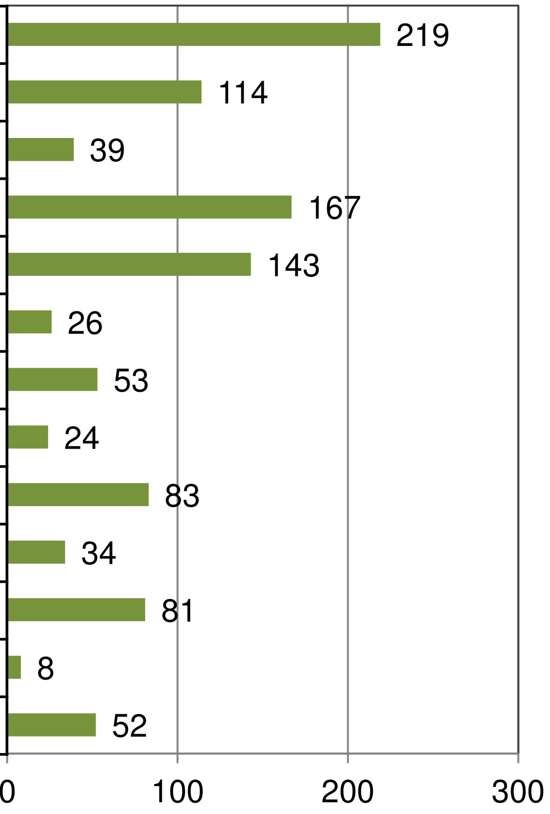
■ 修繕部分内訳（抜粋）
・裏板（ボード）
・大型化
・脚部腐食
・掲示板全体
・サッシを設置
・傾きかけている
・雨もれ、柱の補強
・マグネット式にしたい
・支柱、ガラス戸をつけたい
・掲示スペースを広げたい
・木製からアルミ製にしたい
・掲示板のサッシ枠、ガラスの割れ
・掲示板が経年変化により硬化
・掲示物が2～3日で飛んでしまう
・経年老朽化のため、全面新規交換したい
・雨除け（屋根）、掲示板の張り替え
・沈下によりガラス板の開閉が重たい
・木造のため柱の下部の取替え（腐食）
・屋根、支柱、土台など
・雨風に強いものにしたいが予算がない（補助金ほしい）

問13　掲示板の新設についてどのように考えていますか？

	町会数	構成比（%）
新設したい	18	46
新設は考えていない	21	54
合計	39	100

5 町会の課題について

問14　貴町会活動の課題は？（複数回答可）



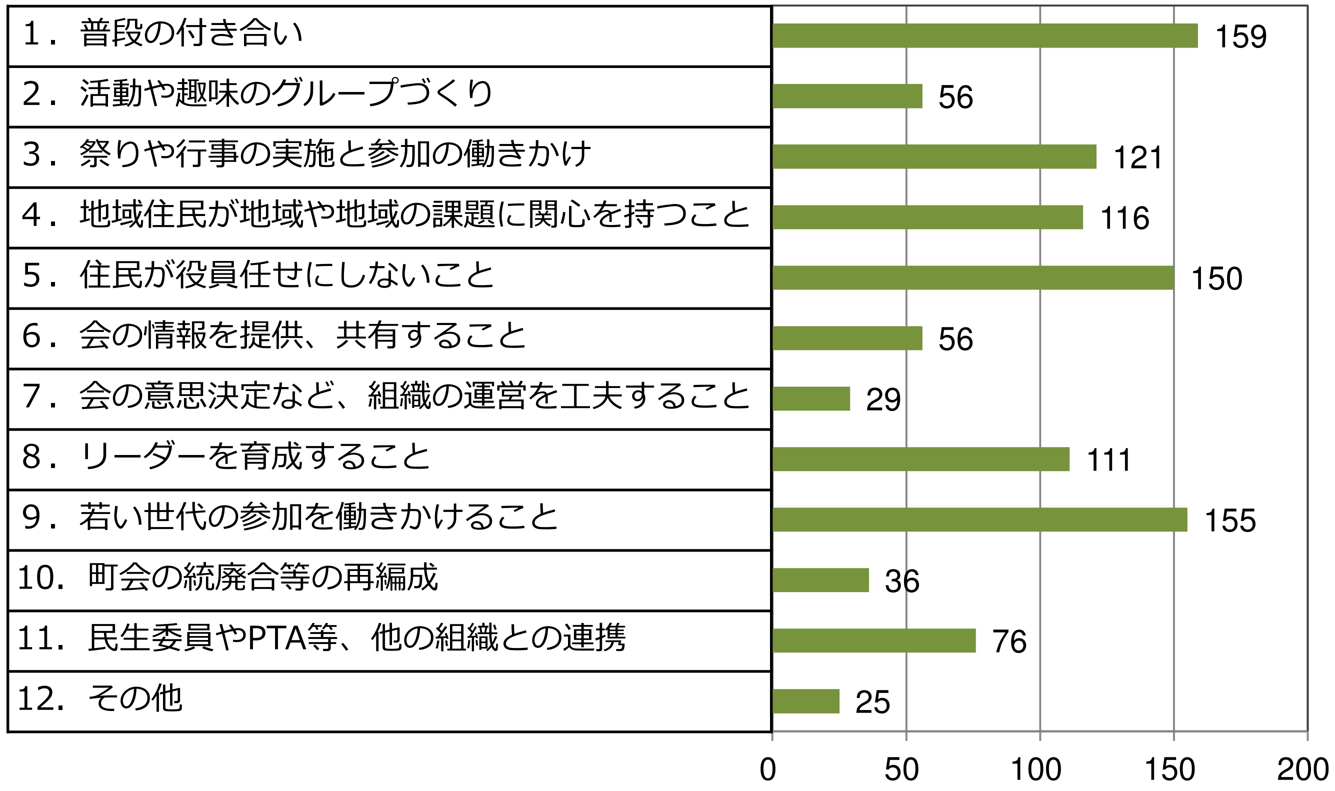
項目	回答数
1．役員の成り手が少ない（役員の高齢化・負担が重いなど）	219
2．住民の関心が低い	114
3．未加入世帯の増加	39
4．会員全体の高齢化	167
5．行事への参加者が少ない	143
6．会員同士の意見の合意形成、調整が難しい	26
7．個人情報保護の制約から、活動に支障が出ている	53
8．活動費の不足	24
9．ゴミ出しのマナー低下	83
10．集会や活動する場所がない	34
11．行政からの依頼事項が多い	81
12．課題はない	8
13．その他	52

■その他（自由記述）

分類	内容
役員の成り手・後継者不足	・役員の成り手が少ないので町会活動が停滞している現状である。町会活動の実践部隊である青年部の後継者難に苦慮している
	・役員は現在、会社勤め等で若い人には無理がある。会社を退職しても再雇用等でまた勤めるので成り手が少なくなってきている
	・一番は成り手が少ない（定年延長により働いている人が多く、定年後は趣味の生活などでなかなか町会活動に協力してくれない）
	・高齢のため役員になる人が不足の上、体調不良ですぐ辞退する人が多く、町会活動で頭を悩ませている
	・町会長の成り手がいない
	・防災組織の設立の案内をいただくが、役員の引き受け手がなく、設立に至らない
	・町会役員の確保に苦慮。また、役員にはなったものの、積極的な姿勢に欠ける面が多々見受けられ、組織全体の活性化不足につながっている。その他識者の参加が得られない（参加してもらえない）
	・役員の成り手が少なく、このままだと近い将来、自然消滅の恐れあり、または解散か。ごみ出しが有料になると不法投棄が増える恐れあり
負担増	・人口の高齢化での新しい活動が多すぎる。市民協働政策課はいつできたのか、知らせてください
	・行政、学校、地域団体（体協等）等の回覧物が多い
	・健康サポーター等依頼が多過ぎて町会の負担となっている
高齢化	・高齢者が多すぎる。子どもが少ない（地区の小学生ゼロ）。持病を持っている人が多すぎる
	・今は１人暮らしの高齢者が少ないので、民生委員の見守りで対応しているが、今後増加していくものと思われる。その時、町会としてどのような取り組みができるか、今からでも話し合いをしていきたい
	・町会員の高齢化が目立ってきており音響設備と暖房機器が必要不可欠だが、購入が厳しい状況にある

分類	内容
町会費	・町会そのものが少ないので、町会費がよその地区より高いと思われる
	・町会費の未納者があること
人口・世帯減少	・世帯数の減少問題
	・中年代（40代～60代）の住民が少なく、また、子どもが少ない（現在3人）…子ども会がない
	・学生向けのアパートが多く、町会参加の世帯が年々減少している
	・世帯減少。婦人会が高齢化のため解散。後継者なし
町会活動・行事への参加	・町会事業に参加することで、役員に選ばれるという先入観を持っている町会民が多いため今後の町会運営が気になる。高齢弱者が増える一方、除雪支援や町会で行う草刈など、協働による地域社会になれるか不安
	・30・40・50歳の人たちへの事業の効力が少ない
	・若い人または定年を迎えた人に話しても何かに理由をつけて断られる
	・若手（30～40歳代の親）の参加が少なく、次世代にうまく引き継げるか不安あり
	・地区運動会の参加人数が少ない
	・町会行事（新年会、旅行、総会等）の参加者は高齢者が多く、若い人たちが参加しやすいように、曜日、時間等を調整しても変化がない
	・近年、若い人の転出が多いが、実家があり、仲間意識が強く、また、消防団員になっているため、ねぶた等行事には積極的に参加している
	・総会出席人員が不足…構成80戸、出席16
住民意識・関心の低下	・交流の機会があるのにできていない、他との接触を必要としない会員が普通になってきている
	・市営住宅だが、低所得者優先（高齢者、母子家庭が多い）で入居させるのは分かるが、アパート感覚で入居しているため、もう少し市のほうで入居させる時に、協力・共存しないといけないことを周知してもらいたい
	・当町会は農家60%、非農家40%。農業所得減で生活防衛が中心である。ボランティアや協同活動に関心なし。農村地域全体の共通であり、将来、5～10年先はさらに厳しさが予想される
	・町会そのものへの関心が薄く、できれば関わりたくないという意識が強い人が多いのではないだろうか
	・若い世代の関心が低い
集会・活動場所	・集会所について、最も苦しい問題。２町会合同で使用しているが、独自の行事・活動ができ難く困っている。と同時に、双方の考え方の違いから確執が生じている
	・町会内に集会所がないことがネックとなっている
	・町会の会館がないため各種行事の実施に不便。除雪機、防災グッズの各個の家庭に負担が生じている
	・平成30年度限りで児童館が閉館となる。町会のすべてを児童館を拠点とし行ってきたが、閉館・取り壊しとなると、活動する場所が失われ、これまでの行事等ができなくなる
	・役員会・集会は町会長宅でやっている
	・事務部を設けるにしても、個人宅にお願いして事務用機械等を設置し、事務部員が出入りできるスペースを借用することは難しい
	・会議等は小学校の図書室や会議室を利用させてもらっている。町会行事は三役に任せきりで関心が低い。川の清掃は常時10～15名ほどの参加
	・集会施設等がないため、活動に支障をきたしている。世帯住民台帳を作成できないため、世帯構成が不明となっている
ゴミ出し	・アパート住人のゴミ出しの件で困っているが、行政の方で管理会社やオーナーに強く指導できないものか
	・ゴミ出しは他の町会の人かもしれない
	・町会のゴミ置場に不法投棄が多くなっており、ゴミ収集時に残されている。不法投棄されたゴミ処分方法が問題となっている
個人情報	・個人情報の制約により、高齢者の掌握が難しい
	・町会民で氏名（家族）が分からない人や年齢が分からない人がいる
その他	・マンションン・アパートの加入が少ない
	・事業所、商業所、病院と医療関係諸機関等が多く、賛助会員として協力してもらっている商業地域である
	・除雪共同作業、一斉清掃の見直し、班編成
	・伸びすぎて歩行者の障害となっている道路脇の垣根さわら、草刈など、また、冬期の除雪などについては、作業員を選抜し5～10名くらいで対応している
	・保存樹木となっている杉並木の落葉処理に閉口している。各々自主的に清掃しているが、市所有の杉並木であることを確認してもらいたい
	・雪置き場の設置
	・そもそも課題は何かの町会員のニーズを明らかにすることができていない

問15　課題解決や運営の改善に必要なことは？（複数回答可）



■その他（自由記述）
高齢化について
・町会が高齢化し、若い世帯がいない。若い世帯が増えないことには町会の存在ができなくなるのではないかと思っている
・若い人が少ない。しかも町会行事等に参加する時間的余裕がないのではないか
・高齢者の一人暮らしが多いことが一番の問題であり、何をしようとしても意思がない
・会員が高齢化していることや、住民の関心が低いことなどから、上記に○を付けた部分を改善しようにも、なかなかできないのが現状のようだ
・高齢生活者が多く外出の機会が少ないので、何とか機会を作り外出させたい
・役員は高齢なので28年度総会、役員改選時に若い世代をできるだけ多く入れた。早く役員業務に慣れるよう個別に指導するようにしている
住民意識・関心の低下
・会員の意識改革が必要
・苦情は言うが一緒に対応することがない。役員任せになっている。こちらから話をしても話に乗ってこない
・町会活動に対して無関心。町民の協力度が低い
・町会に学区が２学区あるため、主体の学区は町会の意識があるが、他の学区の住民は意識が薄い（他の団体等すべて２つに区分〈学区ごと〉される）
・町会役員がかなり頑張っても住民は他人事のように関心を持たない人が多い。町会の存在そのものに関心がないみたい
・若い世帯が町会活動に無関心であると考えられる。今後はこの世代に町会活動の重要性を働きかけていく必要がある
教育の必要性について
・課題解決は教育活動よりない。特に、地域教育、組織、団体、家庭教育活動の充実・向上が原点だと思う。学校教育のみでは地域の向上は期待できないと思う。住民の姿勢、家族会議などを子供に見せる。それらが子供の教育に反映されると強く思う
・時間はかかるが、地域コミュニティの必要性の教育が必要
町会の統合について
・他町会との合併も将来あると思うが、難しいと思う
・当町には、町会が３つありますが、１つで充分です。統合を検討してほしい
その他
・地域の団体活動が多く、単独町会活動に支障となっている。また、専属役員がいなければ、活動が大変となっているぐらい忙しすぎる
・民生委員の成り手がなくて困っている
・現在当町会には60歳代から70歳前後の人員が少ないので、町会役員の依頼ができにくい
・個人情報…の時代というので、町会としてはアパートのオーナーや管理会社が分からないので連絡のしようがない
・独立した集会所が必要。または統合して一つの目的・目標に意志統一すること。←最も改善したいこと
・「８．リーダーを育成すること」は行政主体で実施することが望ましい
・定年退職した新しい人も加入。地域性もあるが、今までは馴れ合いが多い
・とにかく一生懸命やっているつもり
・共に仕事している家庭が多いため、質問項目にあてはまるのが多い

調査結果から

町会活動の課題について

- ■ 町会活動の課題については、「役員の成り手が少ない」「会員全体の高齢化」「行事への参加者が少ない」など、日ごろからよく聞かれる意見が多く占めました。
- ■ 「住民の関心が低い」「ゴミ出しのマナー低下」など、住民の意識や関心の低下に関する意見も意外と多い印象を受けます。
- ■ 自由記述では、町会内に集会所や活動場所がないことが町会活動のネックになっているという意見も多く出されました。

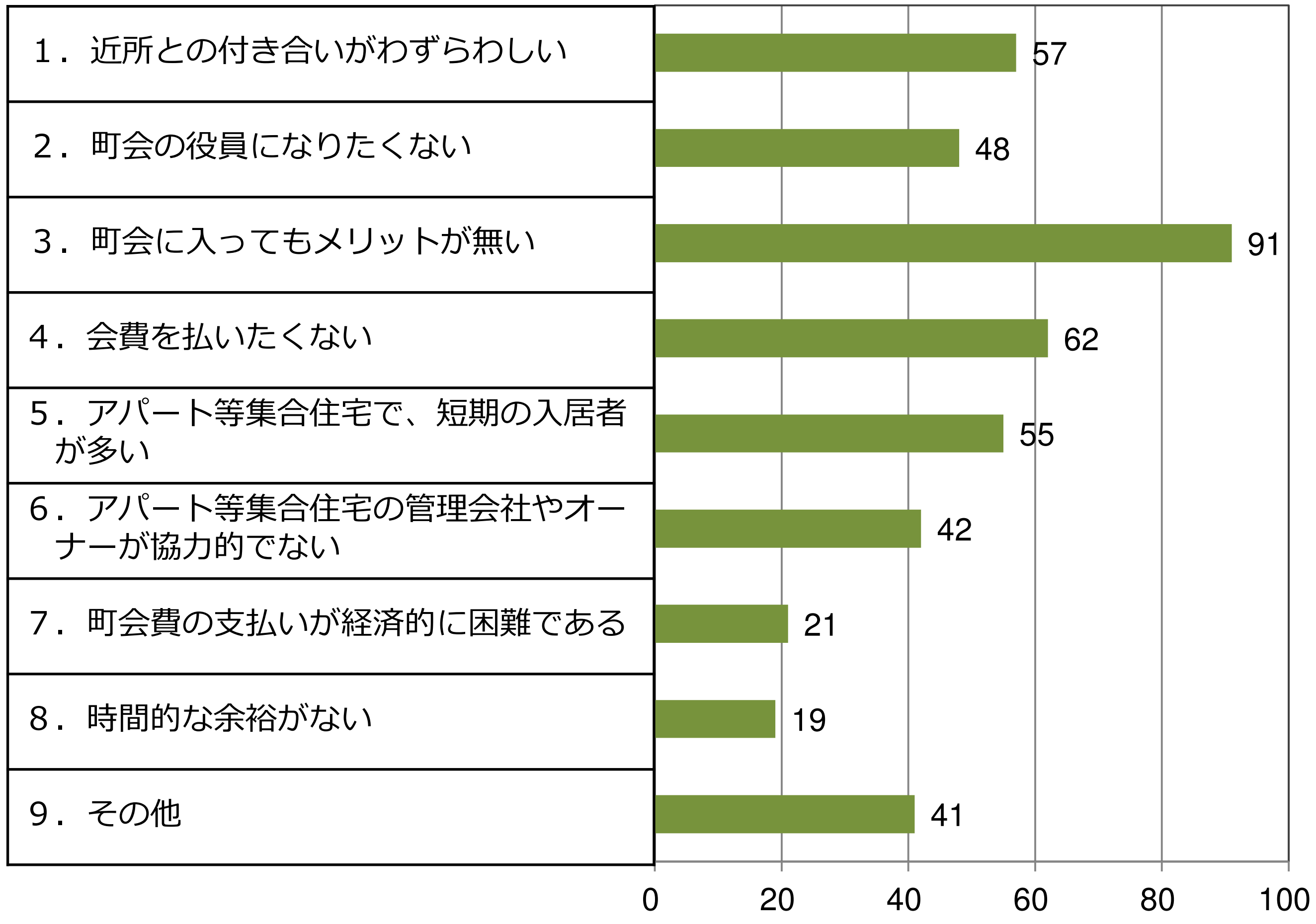
課題解決や運営の改善に必要なことについて

- ■ 課題解決や運営の改善に必要なことについては、「普段の付き合い」「若い世代の参加を働きかけること」「住民が役員任せにしないこと」を挙げる町会が多くなっています。希薄化が進む地域の付き合いを再構築したいという思いが感じられます。
- ■ 若い世代の関心を高めるために、町会活動の重要性を働きかけていく必要があるとの意見や、子どものころからの教育の必要性に言及する意見も聞かれました。

6 町会に加入しない世帯について

（加入していない世帯がある町会のみ回答）

問16　加入を断られる理由は？（複数回答可）



調査結果から

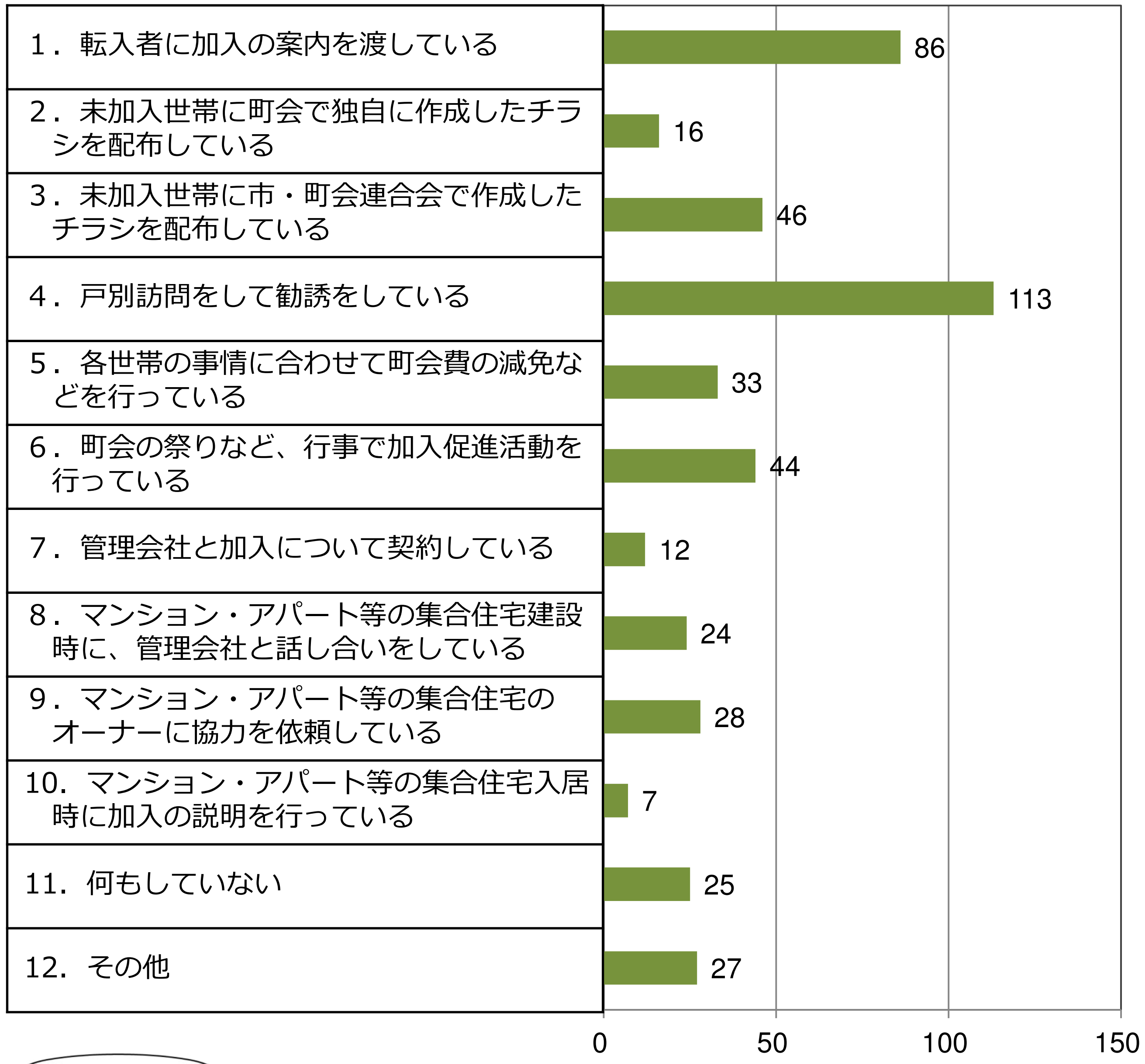
■「町会に入ってもメリットが無い」「会費を払いたくない」「近所との付き合いがわずらわしい」など、無関心層の意見が最も多くなっています。

■「アパート等集合住宅で、短期の入居者が多い」「管理会社やオーナーが協力的でない」など、集合住宅であることを理由とする意見がそれらに次いでいます。

■その他の理由としては、経済的理由や高齢の一人暮らし世帯の増加などの意見も聞かれました。

■その他（自由記述）	
加入状況について	・1世帯だけ未加入。最近の転入世帯
	・1世帯のみ未加入
	・加入率はほぼ100%
	・近年まで加入していない世帯は無かったが、退会が２軒出た
	・断る人はいない
	・昨年さしたる理由もなく町会を脱会すると１件あり（説明してくれなかった）
	・事情により個人情報を提出するのを嫌がる2世帯、経済的に困難な母子家庭１世帯。できるだけ接触し信頼関係を深め加入につながるよう努力している
	・全世帯が加入している
	・他地区から新築移転して来た若い世帯１件あり
	・未加入「０」です
	・未加入世帯は別荘の方が多い
	・町会加入率は高い方だが、町会費の支払いのみの場合が多い
	・アパートは不動産屋管理の単身大学生で、すべて加入なし。アパート以外はすべて加入している
	・マンション・ビルなどの住民は総じて入会していない
アパート	・アパートオーナーが他地域に居住のため、入居者に対する加入意識がないアパートあり
	・アパート等に入居する際、管理会社やオーナーから町会に加入しなくてもよいと取り決められている
	・アパート等の管理者が地域外のため不明（市役所の職員が町会へ加入しているか調査されたことありますか？当町会にも未加入者が住んでいる）
未加入・脱退理由	・以前市内アパートにいて入っていなかったので今回も入らないと言う（１世帯だけ）
	・各区の世話役として各世帯を訪問するのが苦痛とか、町会費等集金活動を遠慮したいとの理由から加入しない世帯がある
	・金銭の負担が一番関心があり、町会費の値上げは脱退につながる可能性があることが最近の傾向
	・現住人が少なく、テナント者が多いため、各自の町会に入っている人が多く断られる
	・ゴミは自分の職場（例　自営業）に持ち込むので町会に入らなくてもよい
	・災害のない都市であること、古いしがらみにとらわれた組織であることが口実とはなるが（これがほんの一部の方）、ほとんどは経済的理由
	・総会等町内の行事に参加すると、役員にされるのではないかと恐れて出てこない人が多い
	・町会に入ると必ず順番で班長がまわってくるのが嫌だ、集金業務とか回覧板を回す作業など大変というのが断られる理由
	・転勤族で不安定なため
	・前町会にいてトラブル（班長のことで）があり、そういう役目はしたくない。会費が高いと言われる
	・町会に加入しなくても困ることはない。いつ町会に転入したのか分からないことが多い。挨拶がないので…。特に借家・アパートの住人
高齢化について	・家が近所と離れた場所にあり、高齢にもなったので町会活動（回覧板や班長業務）に支障がある
	・高齢化となり、施設等への入居や子どもとの同居等もならずに一人暮らしとなっていく
	・高齢者の一人住まいが多くなり、班長業務をできなくなったり、入院、施設等の入居により、脱会する世帯が多くなっている（少子化により子どもたちとの別居生活が多い）
	・高齢者や一人暮らしが多くなり、町会への納付も厳しいのが現状
	・高齢でしかも夫婦どちらかが認知症で思うに動けない
働きかけ	・4～5年前から入ってもらうよう訪問したが駄目だった
	・アパート、県営住宅等については町会加入を働きかけていない（責任体制の確立が難しいため）
理由不明	・理由がわかれば苦労しない。町会費を払っていない人に聞けないと思うが…
	・理由は把握していない（自由加入のため）
その他	・アパート等多く、病院への通院のために入居しており、ほとんどが生活保護受給者であるため、会費徴収をせずに加入者（町会員）として諸連絡等をしている
	・市役所と不動産業者でいろいろ会合を開いて協力体制になっているようにマスコミで報道されているが、現実は違いすぎる。不動産業者管理のアパートやマンション住民が町会に加入してくれない

問17　貴町会への加入を促進するために、何らかの取り組みをしていますか。（複数回答可）



調査結果から

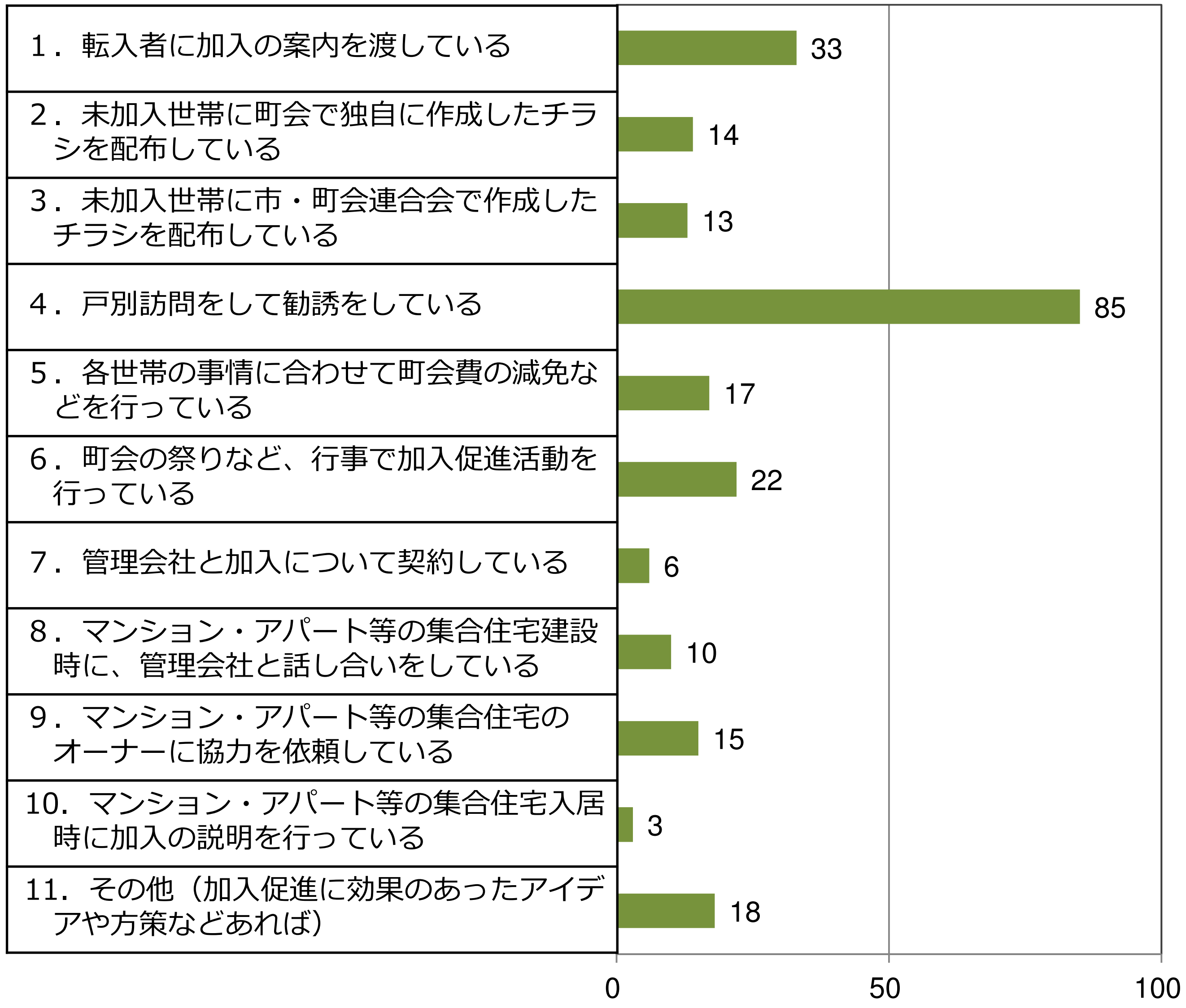
■ 加入促進の取り組みとしては「戸別訪問をして勧誘をしている」との回答が最も多く、次いで「転入者に加入の案内を渡している」が多くなっています。

■ 自由記述では、加入促進のための工夫として、さまざま取り組みが寄せられました。戸別訪問・勧誘は、班長が役割を担っているケースが多く見られ、また、勧誘の仕方では、チラシや総会資料、広報紙を渡してPRしているケースが見受けられました。

■ アパート等集合住宅では、さまざまな事情から勧誘をしていないという意見も多くありました。オーナーや管理会社からの協力の有無の差や、入居者の出入りが激しいことなど、集合住宅特有の事情に、対応を苦慮している様子がうかがえます。

■その他（自由記述）
加入促進の工夫・取り組み
・アパート・学生以外の新転入世帯の場合は戸別訪問して加入・世帯台帳の記入をお願いしている
・該当する班長さんを通して加入を促進している。アパート等については対象者数に応じて年会費をお願いしてきたが、最近は協力するオーナーが少なくなってきた
・基本的に生活保護家庭からは町会費を徴収していない
・総会資料の活動記録等を持参
・できるだけ接触し、孤独にならないようにしている
・転入者（戸建）へ班長さんの協力を得て、残部の広報等配布時期を見て、加入のお願いをしている
・転入者の戸別訪問ではかなりの成果をあげている
・班長さんがチラシ配布等活動をしている
・別荘の方から一部町会協力金をもらっている。年間１万円の人と５千円の人がいる
・管理会社にお願いし、オーナーに伝えてもらう。直接町会長がオーナーと接触することはほとんどない。※個人情報保護の壁があり、オーナーの協力はほとんど期待できない
マンション・アパート等集合住宅について
・10番の内容に町会単独で加入の説明を行ってもよいのか疑問をいだいている
・８について、今後していきたい。マンション・アパートは少ないが、家主があまり町会への協力を意識していない
・アパート、県営住宅については勧誘していない
・アパート等の不動産屋・管理者には町会加入、または町会費等には何の権限もなく、アパート所有者にはあるが、個人情報保護により、アプローチできないのが現状である
・アパートは多いが、入居者が生活保護世帯が多く、勧誘していない
・加入促進については、小学生までいる家庭は比較的加入が多いが、就学前の児童がいる家庭は加入しない。特にアパート入居者は全く関心がない（入居時オーナーの説明がない）
・加入促進を実践しているのかと問われればしていない方だと思う。新築住宅に対しては新規加入していただいているが、特に新旧問わず、アパート在住の世帯には踏み込めないでいる
・行政で管理会社へ加入促進を行ってほしい
・現在、アパート住民への町会加入呼びかけを行っていない。以前やっていたが、入居者の移動が多く、町会へ連絡することもほとんどない。町会費の徴収に手間がかかり、新規入居者が加入しない事例が増えたため、町会長の交代とともにやめてしまった
・現在アパートを含む全世帯加入
・町会内にアパートが３棟あるが、１棟とは管理会社と契約できた。２棟はだめ
・入居者と管理会社等が取り決めているのであれば説得しても無駄である。事が起きればすべて警察へ連絡し、法で解決すべきだと思う
その他
・個人的に町会に加入したいと来た時に加入させている
・個人の問題であるためあまり勧誘しない
・戸別勧誘で過去にトラブルになったこともあり、現在は入れないという所にはお願いはしていない（とりあえず一度は訪問か電話はするが…）。町会にある市営住宅の加入率は３割強だが、ここは訪問も電話もしない
・市に希望すること…転入者が登録されたら、転入先町会へ知らせるようなシステムを作ってほしい
・転入者があったら町会に連絡してほしい

問18　問17の取り組みの中で、加入促進に特に効果があった活動はありますか。（複数回答可）
（問17で「何もしていない」以外に該当する町会のみ）



調査結果から

- 加入促進に特に効果があった活動は、「戸別訪問をして勧誘をしている」との回答が突出して多くなっています。
- 特に、戸建ての新築や入居が判った段階で、戸別訪問をして呼びかけることによって、実際、加入につながっている町会も見受けられました。
- アパート等集合住宅については、オーナーが協力的でアパートとしての町会加入があったとの意見も一部ありましたが、全体的には、オーナーへの協力依頼や入居者への呼びかけを行っても、なかなか加入へとつながっていない様子がうかがえます。

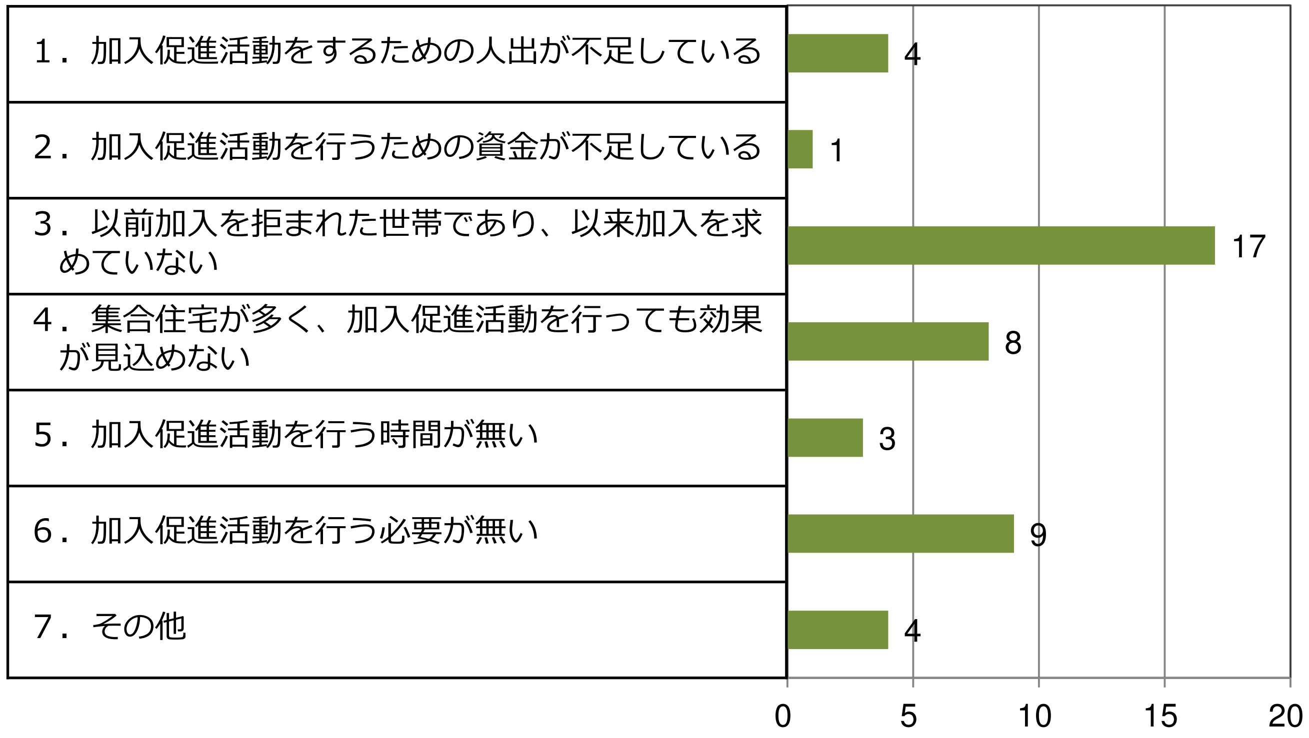
■その他（加入促進に効果のあったアイデアや方策など）
加入促進の工夫・取り組み
・広報ひろさき、各学校紙、弘前保健センターのしおり等を持参して加入をお願いしている。アパート・マンションは住民（学生）の出入りが激しく、また、管理者・オーナーが非協力でトラブルになりがちでスムーズにいかないため、こちらからお断りしている（ごみの問題、除雪の問題で頭に来る！）
・戸建ての入居が判った時点で、余分の広報等2,3ヶ月分を配布。その後、戸別訪問している。学校の協力を得て、育成委員が町会別班で長期休み前を利用し、地区行事への参加を呼び掛けてくれている（河川清掃、公園清掃、納涼祭、ラジオ体操等）。入学時、町会未加入の保護者に町会行事の案内がなく、子ども同士で不都合が生じていることが判明。育成委員の協力に感謝している
・転入者があれば町会長もしくは役員が必ず訪問する
・訪問をして良く説明をした結果、加入してもらった。顔を合わせた時に声かけをしている
・新築時・転入時（戸建ての場合）、何度か接触し、加入促進を話しかけると100%の確率で加入してくれる。戸建ての場合とアパート・借家の場合とでは全然意識が違う
・町会費の納入については事情に合わせて分割等の方法も相談に乗る
・戸別訪問して勧誘しているが、聞く耳を持たない特殊な人に思える。時間をかけて説得するよりないと思っている
・電話で勧誘することが多い
・区域の班長を通じての加入促進
・今回、本町会の集会所を改築する計画が来年度実施される。役員が手分けして所定の金額に限らず応分の工事費の負担依頼に加えて、加入促進も図りたい
その他
・現在は解体してしまったアパートだが、オーナーが協力的で、アパートとして町会に入っていただいたことがあった
・市当局で町会加入案内チラシを作成しているのであれば、ぜひ活用したい
・短期（１年毎）に出入りする賃貸住宅も多く、勧誘が大変である。また町会費の未払いもあり加入させていいのか疑問
・当町会に現在、10世帯入りのアパートが５棟程度あるが、加入協力をしてくれなくて苦悩している
・29年度は1世帯加入の予定で
・アパートの入居者はどうしても若い人が多く、町会加入に興味を示してくれない。他の町会にあるアパートでは、不動産会社が入居時に町会費を含めた家賃を徴収する説明をしていると聞いたことがある
・特に効果なし

市・町会連合会作成の町会加入啓発チラシについて

各町会における加入促進活動等に活用いただけます。必要な町会には、送付しますので、必要部数を下記までお知らせください。

■問い合わせ先　市民協働政策課（☎35・1664）

問19　加入促進活動をしていない理由にはどのようなものがありますか。
（複数回答可）（問17で「何もしていない」に該当する町会のみ）



■その他（自由記述）
・加入したりやめたりの繰り返しなので加入を求めていない
・現在の町会世帯数に対してアパート等の世帯数は２倍もあるので、町会運営が極めて困難になる
・当町会の現在の把握できる世帯数（戸数）110軒くらいのうち、未加入は３軒
・町内の一部が別の町会に加入している。対象世帯数と未加入世帯数を把握していない

調査結果から

■ 加入促進活動をしていない理由については、「以前加入を拒まれた世帯であり、以来加入を求めていない」との回答が最も多く、次いで「加入促進活動を行う必要が無い」「集合住宅が多く、加入促進活動を行っても効果が見込めない」の順となっています。

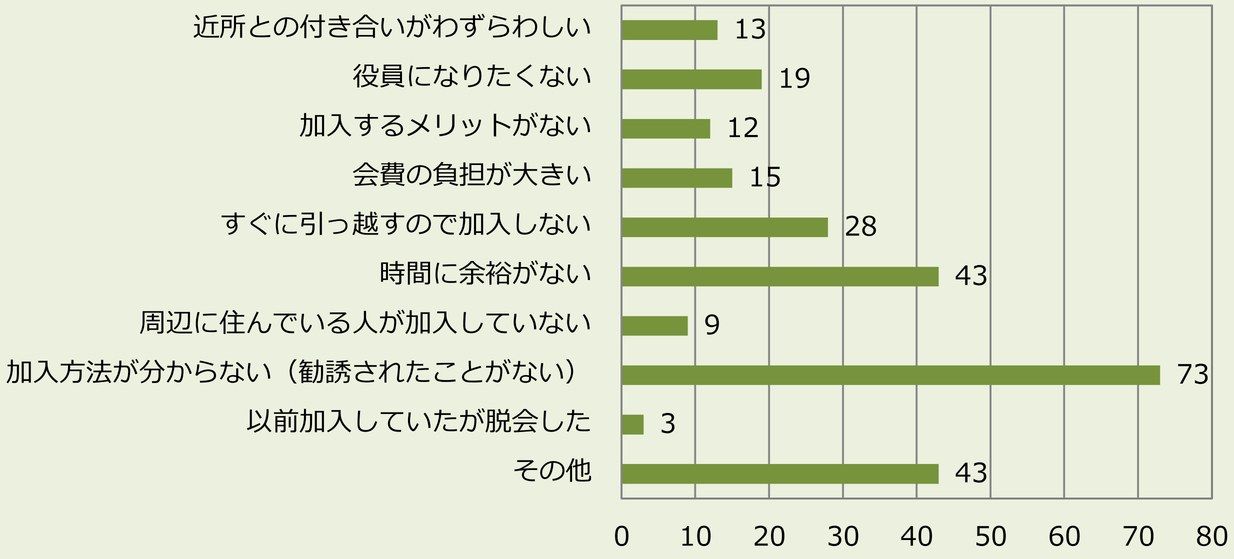
■ 実態としては、転入者があった時に声をかけるが、一度拒まれると継続的な加入促進活動は行わないという傾向があるものと考えられます。

■ 「加入促進活動を行う必要が無い」の回答については、積極的に行う必要が無いと考える町会と、加入状況として対象となる未加入世帯が無いと捉えた町会の２つのパターンがあるものと推測されます。

DATA

町会に加入しない理由は何ですか。

加入方法が分からない（勧誘されたことがない）が最多回答



※平成28年４月実施　「町会活動に関するアンケート調査」より
上記アンケートの調査結果は、本報告書の60ページ以降に掲載しています。

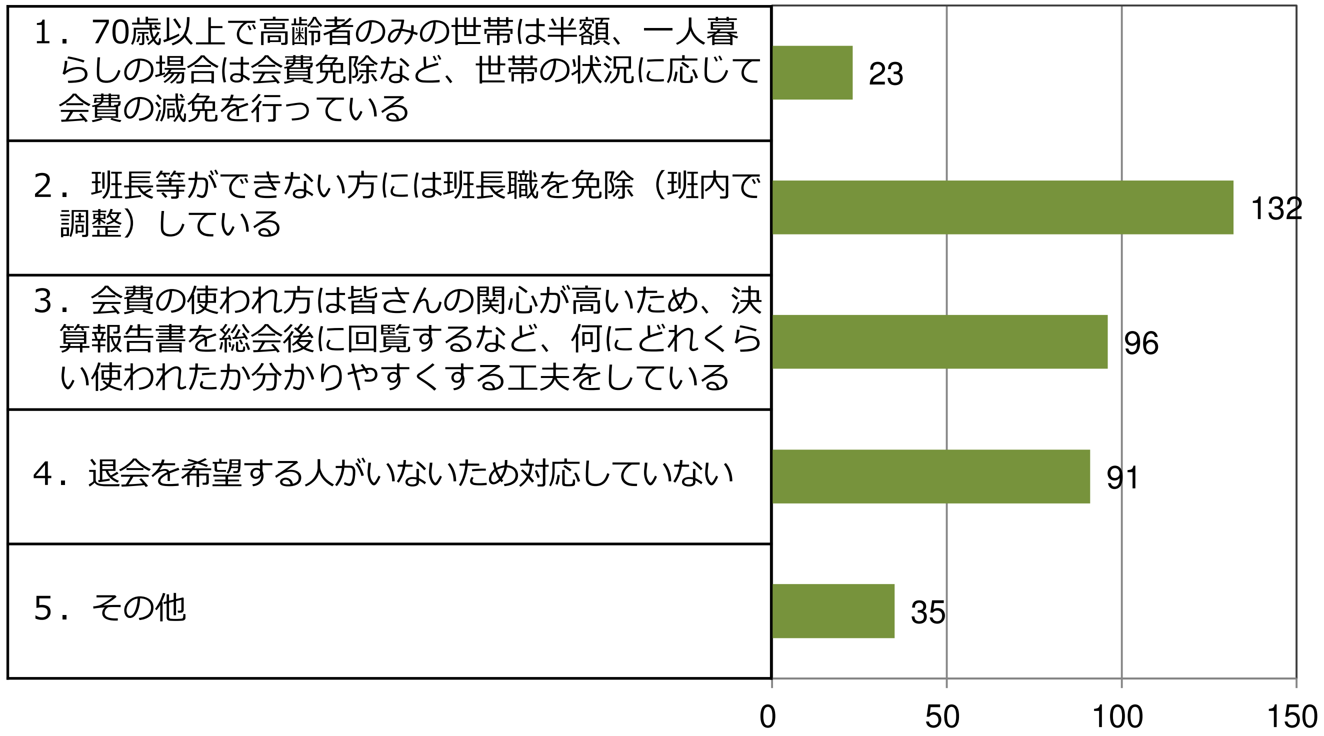
メモ

7

退会者対策

問20　最近下記の理由により退会を希望する人が増える傾向にありますが、具体的な対応事例について、あてはまるものがあれば番号に○を付けてください。
（複数回答可）

（退会希望の主な理由）
・高齢により会費が支払えない・活動に参加できない・班長等ができない
・町会費が何に使われているか不明（不信感）



調査結果から

■ 高齢を理由に班長職ができない場合や町会活動への協力ができない場合は、班長職を免除したり、助け合うなどして、高齢者に配慮しているケースが多くありました。

■ 会費の使われ方については、関心が高い様子がうかがえ、決算報告書を毎戸に配布するなど、各町会内で工夫している様子が見られました。

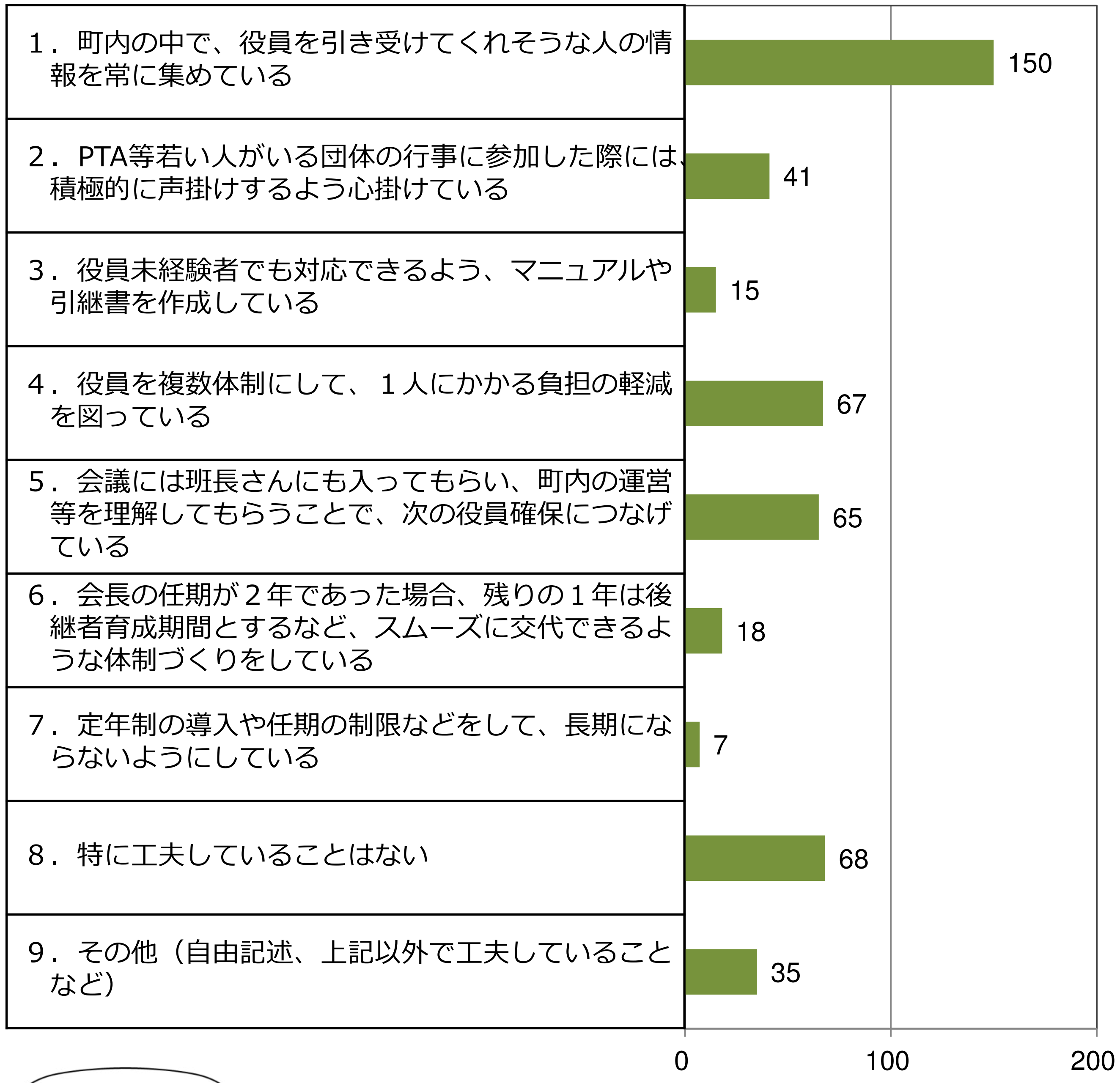
■ 現時点での退会希望者はいないものの、高齢化により今後、退会者が増えるのではないかと危惧する意見も聞かれました。

■その他（自由記述）
決算報告についての工夫
・決算報告書については通常総会前に毎戸配布して審議してもらっている
・決算報告は総会資料に入っている
・総会に出席した人全員に決算報告書を渡している
・退会者はないが、決算報告書と予算書は総会前に毎戸配布している
・年１回の通常総会において総会資料の中で決算報告をしており、不参加の人にも総会資料を配布している
・１・２・３の結果、4の状況になっている。決算報告書を総会資料に綴じ込んでいる
・決算報告書は毎戸配布。保護世帯は町会費免除。持ち家以外は1,000円ダウン
会費の減免・免除についての工夫
・２について、80歳を超える高齢者には輪番制の仕事（班長など）を断ってきた場合免除している。４について、例外的に昨年借家の人がメリットがないと退会。それ以外なし
・アパート住まいは減免している（年会費4,800円のところ年額1,200円）
・原則として80歳以上の病的一人暮らし世帯は役員区長を免除している
・高齢で班長ができない班には、直接町会長が出向き、次の方に班長をお願いしている
その他の工夫
・高齢なので回覧板や町会協力が難しいと訴える場合は相互扶助の精神で助けている
・たすけあい募金、赤い羽根募金などについては、送金した際の振込用紙をコピーして全世帯へ回覧、お金の問題はオープン化している
・班長には極力負担をかけないよう対応している
退会等の状況について
・アパート4棟を含む、持ち家33軒、全員加入
・今のところなし
・退会希望は過去になし
・上記理由で退会ということはない
・転居以外は退会者なし。入会については転入者に戸別訪問をして勧誘している
・現時点では退会はいないが、今後高齢者が増えるにしたがって町会を離れる世帯が出てくるのは確実である
・高齢化により今後の問題になるようだ。他の町会にはすでにあるので（高齢会員が支払えない）
退会理由について
・一斉清掃、ゴミ処理場清掃も参加せず、規則を守らず脱会し、ゴミは自宅前に出して収集車にお願いしている
・ケアセンター、老人ホーム等で長期不在が増えている
・広報の配布回数が多く、また、集金業務ができない
・高齢者で一人暮らしの人が施設へ入所した場合
・高齢者の死亡によって
・昨年、会館設置のテレビ受信料の件で要望に対応したが、これを契機に退会した。設問の２、３については通常の活動で実施している
・死亡・転出による退会者が増加
・赤十字、赤い羽根等社会福祉費に反対
・総会資料を全世帯へ配布している
・一人暮らしの方が施設入所のため町会費を払っていない。死亡してもわからない
・一人暮らしの高齢者、老人施設に入所のため退会者が多い
その他
・若い世帯の人はあまり町会のことに関心がない
・特にない

8

役員の担い手確保のための工夫

問21　役員の成り手を増やすための工夫について（複数回答可）



調査結果から

■ 役員の担い手確保のための工夫としてさまざまな取り組みが見られました。整理すると、次のように大きく分けられます。
①声掛け・きっかけづくり　②役員の選出方法　③組織体制の見直し
※具体的な事例は次ページ参照。

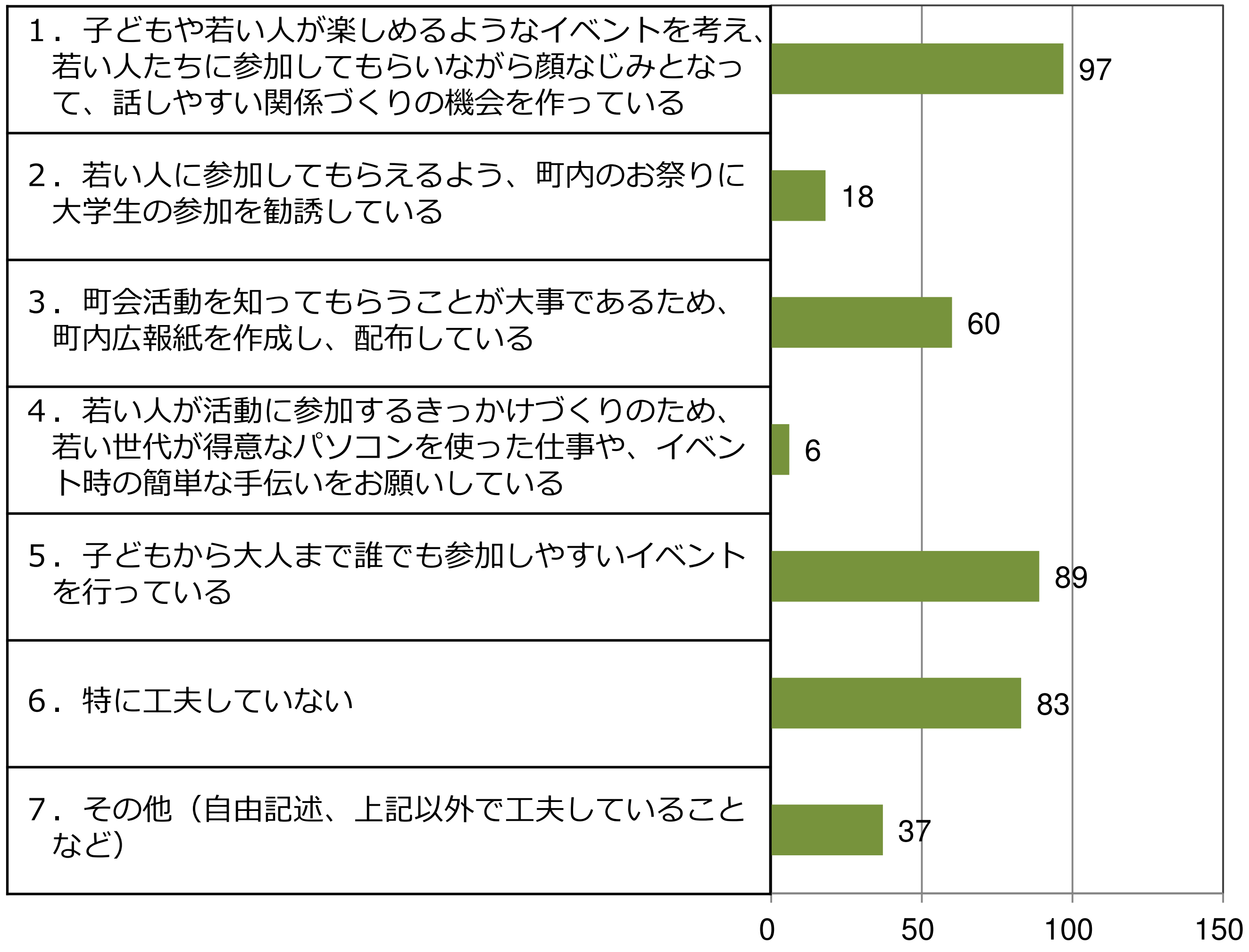
■ 上記のような工夫をしていても、現状はうまくいっていないとの意見も多くありました。

■その他（自由記述、設問以外で工夫していることなど）

担い手確保・役員についての工夫	**①声掛け・きっかけづくり**
	・退職者があれば必ず声を掛けている。町会行事・イベントに参加した人に、要請するようにしている
	・定年退職者を把握し役員就任を依頼している
	・子育て支援により若いママさんの行事参加を推進
	・総会の席では必ず役員の成り手が少なく苦労していることを説明し、町会の実態を理解してもらっている（町会はあった方が良いが、自分はやりたくないという人がほとんどである）。若い人はまったく関心がない
	・町会の活動に参加してもらい、知ってもらう活動（夏祭り、花壇作り、防災訓練、宵宮祭、ねぶた運行等々）に力を入れている
	②役員の選出方法
	・役員定年70歳。役員は投票にて選出。ただし、２名は町会長が指名して若い人を確保している（現在役員15名中、女性２名）
	・当町会は立候補制。役員だけで協議すると空白地帯が生じる。班長も入れて協議するように規約を改正した
	・投票で当選者が決まる。当選者は辞退することができない
	・各班（1～10班）から一人ずつ役員が出るようにしている
	・役員については各班（10班）から輪番であがってくる（成り手がないので苦肉の策。12年前ごろから）
	・個人交渉に当たる
	③組織体制の見直し
	・輪番ルールがある
	・当町会では班長は２ヶ月交代として引継している。対話するように連絡し合っている。班長には金銭については集金させない（町会費のみとしている）
	・会長職に限らず、すべての役職または、関連役職を作り、役員数を多くして底辺拡大を計るべく、来年が役員改選の中間期ではあるが、先日の役員会で会長である私が発表した
	・役員、班長の合同会議を年数回行っている
	・28年度から市事務費交付金と町会費収入以外の収入から町会長、副会長、会計、世話人に手当支給した。一部に反対論もあるが、役員世話人に好評で、やる気を起こさせている
	④その他の工夫
	・一度引き受けたら“サイゴ”、できるところまでやる（任期に関係なく）。ただし、病気の場合は除く
	・前町会長が行ってきた行事等、スムーズにできるよう努力している
	・一人暮らしの高齢者は班長業務より外すようにしており、隣人に２年連続でやってもらった場合もあった
現状について	・1から7までの工夫はそれぞれの場でしてはいるが、候補に挙がっても65歳まで働かなければならない現状では無理だと言われる
	・５,６に○を付けましたが、現実はうまくことが運ばないことが多い
	・５について、班長は役員会議に出席する規定になっているし、行事にも手助けすることになっているが、実際は班長の協力は得られていない。会議に出れば仕事を押し付けられると思っている
	・4,7に対して記述どおりにしたいが、なかなか難しい
	・住んでいる人が少なく、役員の成り手がいない
	・誰も役員をやろうという人がいない。改選の年なのだが見つからない
	・町会長の後任に受け手がいないのが現状
	・町会長の引き受け手がなく、私が退任すると町会が解散することになると思う。重大な問題だ
	・持ち家の半分以上が後期高齢者であり、持病を持つ人が多いので、成り手がいない。アパートはほとんど独身者と学生で、仕事があり無理
	・役員になる人材が不足
	・役員の成り手がないため、役員の補充もままならず、現役員の負担が多くなっている
	・役員は総会時に選挙によって選ばれるが、若い人が総会に参加しないので、いつもいる役員の人たちがまた役員に選ばれるので大変
	・若い人の役員希望者なし
	・各班から役員を出しているが、関心がない人が多い
	・日常生活に満足しており、町会等のボランティアまではいいと考える人が多い
	・集会、活動する場所がないため、落ち着いて話し合う機会が難しい

9 町会活動に関わるきっかけづくり

問22　町会活動に多くの人が関わるきっかけづくりについて、貴町会が行っている取組（複数回答可）



調査結果から

■ 町会で独自の広報紙を作成・配布し、町会活動に興味を持ってもらったり、町会行事の周知や参加の呼びかけに活用しているケースも多くみられました。

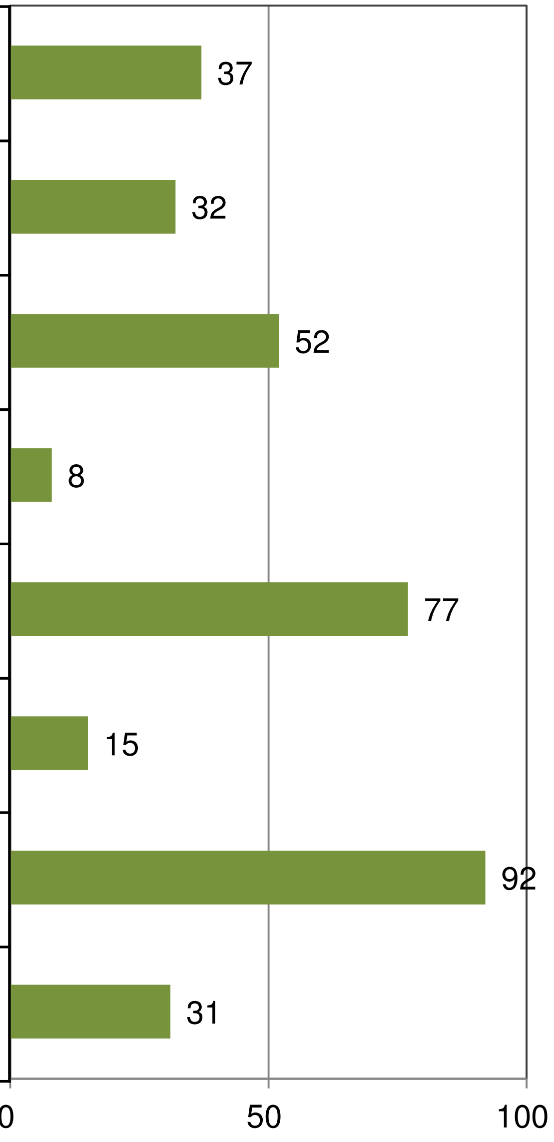
■ 行事等の実施については、子どもから大人まで幅広い世代が参加できるような工夫や、子どもや子育て世代向けのイベントを企画・実施しているところもあるようです。

■その他（自由記述、設問以外で工夫していることなど）	
町会広報紙等の発行・配布	・広報紙は作っていないが、町会行事等は写真入りで回覧文を作り、興味を持って読めるようにしている（例・総会、納涼祭、ラジオ体操等）
	・年２回町会便りを発行。農園収穫祭を行って誰でも参加できるよう企画している
	・町会広報紙といっても、A4判１枚の回覧で、町会行事への参加の呼びかけを行っている。また、電話や手紙で個人的に呼びかけている
	・月例役員会報告書を作成し、配布している
行事等の実施について	・一斉清掃、運動会、ラジオ体操、クリスマス会、さくらんぼ狩り、防災訓練等を通じ町会活動を知ってもらうよう話している
	・行事ごとに声掛けをしている
	・新年会を会費をもって実施している
	・世代間交流事業を毎年行っているが、経費面あり、内容がマンネリ化している感あり
	・総会後、自由参加で飲み会をする
	・地域の伝統行事に子どもから大人まで参加するように広報を行っている
	・地区の運動会（町会対抗）に参加。徐々に参加者が増えてきている。参加者の親睦会を行い、輪を広げている
	・夏にラジオ体操を実施している。敬老会を町会全員で祝うことにしている
	・夏祭りは町会民はすべて無料で実施しているので参加者が多い
	・夏休み期間（一週間ほど）の朝のラジオ体操・寺子屋学習会・町内「納涼祭り」・老人クラブのマージャン会・一日旅行
	・夏休み期間７日間、早朝ラジオ体操を、子どもや町民に声を掛け実施している
	・ねぶた祭りへの参加
	・毎年町会のイベントとして納涼祭、子供ネプタ運行を実施して、町内の友好親睦を図っている。また、夏休み期間中、子供の健全育成のため青年部が町内公園でラジオ体操を実施している
	・行事はなるべく少なくなるようにしている
子ども・子育て世代向け行事について	・子ども向けに夏のラジオ体操、夏まつり、もちつきなど工夫していますが、学校が忙しく、なかなか参加人数が増えない。若い人が参加する企画は町会単独では無理だと思う
	・子どもや若い人が少なく、町会単独ではイベントが組めないので大人も含めて考えてはいるが苦慮している
	・今後、子育て世代の親を町会活動に取り込むため、平成29年度に行事を予定
	・児童とその保護者を対象としたボウリング大会を開催しており、大変喜ばれている
	・他地区から来た若い世帯に子ども連れで来てもらうようイベントを工夫して開催している
	・毎年小学校に入学する子どもが少なく、当町会では昨年は１人、今年は０人だった。それでも少年部がイベントを企画し、夏休みのラジオ体操会と正月の餅つき大会を実施している
戸別訪問	・イベントの開催時は回覧告知するとともに、それぞれイベントに出席してもらえるよう戸別訪問している
	・町会の行事・イベント等は回覧で参加者を募るほか、戸別訪問し、一人でも多くの参加者を勧誘している
その他の工夫	・町会長として週に2～3回くらい町会を巡回して、町会の人々と顔を合わせて話し合いをするよう努めている
	・町会活動のマンネリ化にならないように、市の出前講座をお願いして、広く町民に町会に関心を持っていただけるように考えている
	・廃品回収、草刈、除雪作業など人手が必要なときは、相手個人名を入れて依頼文を作り、直接手渡して、参加・不参加の返事を必ずするようにしている
	・消防団、公民館、PTAとの連絡をなるべく取るようにしている
現状について	・いろいろ実施してみたがお手上げ状態。時間もお金も尽きた感じ
	・企画・内容に問題あるのか、なかなか成果として出てこない
	・子どもはいない。若い人も少ないため、町会のイベント等は考えられない
	・中学生以上になると参加がない。親も同様。小学生は少数で参加しない状況である
	・町会には子供が数人しかいない。また、若者も少なく、仕事をしているので、なかなか行事としては実行しにくい
	・町内の花壇作りや夏休み中の花火会（子どもを対象）を行っているが、参加者は限定される傾向が見られる
	・年１回の町会レクリエーション（近隣の温泉での懇談）を同世帯の人数制限なし、低会費で参加しやすくしているが、新しい参加者がなかなか入ってこない

10 運営の見直し・工夫

問23　町会運営の見直しや工夫について、貴町会が行っている取組であてはまるものがあれば番号に○を付けてください。（複数回答可）

1．単一の町会だけでは運営が厳しいため、隣同士の複数町会合同で行事等を開催している	37
2．会長や役員が交代しても安定した運営ができるよう、事務局を設けている	32
3．規約の見直しを都度行っている	52
4．会社を退職した人から運営の改善等について助言をもらうようにしている	8
5．これまでの行事や活動を見つめ直すため、町会で　本当に必要な行事、活動、予算を話し合い、スリム化を図っている	77
6．福祉・文化・環境・子育てなどの分野で活動しているボランティア団体やNPO（民間の非営利団体）、市民活動団体などと連携している	15
7．特に見直しや工夫していることはない	92
8．その他（自由記述、上記以外で工夫していることなど）	31



調査結果から

■ 時代の変化や実情に合わせて規約の見直しを都度行ったり、これまでの行事や活動を見直したりしてスリム化を図っている町会が多いようです。

■ 少子・高齢化などで会員数が減少している町会では、他町会や他団体と連携して、合同で行事を実施したり、地区町会の合同行事に参加したりして、その活動を補っているようです。

■その他（自由記述、設問以外で工夫していることなど）
町会での工夫・取り組み・見直しなど
・河川清掃は休日、消防団員を主体（町会三役も参加）で、年１回実施。町会を３区分に分割し、３年に１回は実施することに努めている。消防団の会議には町会長も出席し、団員加入の推進に努めている（毎戸訪問にも協力）。神社の大祭（年１回）は氏子主体で実施。婦人部が行事、料理、接待に中心的役割を果たしている
・子供会のラジオ体操
・事業のスリム化（特に地区連合関係）は実践していきたいと考えているが、必要とする町内事業に対しては、予算を広げ参加を呼びかけている
・小規模世帯数（52世帯）にあっては、何らかの形で全世帯から一人、輪番制で町会役員か世話役的な立場で参加してもらうことを確認している
・総会議案については、総会の出欠にかかわらず全員に配布している
・町会長宅を事務局にしている。現在の行事は青年部が担当し実践している。行事を円滑に推進していくまでには予算が不足しているので、来年度から月400円の町会費を500円にアップすることを総会で決議している
・社会福祉その他の負担金等が多い。募金等については町会で一括で支払っている
・町会に公民館、消防分団、老人クラブ、神社氏子総代等の下部組織があるので、助成して各々活動を行うようにしている
・当町会は町会面積が広いため、人々の親睦を深めるように冬場に交流会を実施している。子どもから大人までのレクリエーションと勉強会等。今年は津軽弁講座やAEDの講習等
・特定の役員以外は名目だけでいいからと言ってお願いしている
・何かの行事等がある場合は、役員ができるだけ参加するようにしている
・身の丈に合った事業を行うこと。また、資源回収による収入を少しでも多く増やせるよう心掛けている
・元町会居住者を誘い、日帰りレクリエーションを年１回実施し、旧交を温めている
・役員会は１時間で終わるように努めている。役員会では常に活動状況を確かめるようにしている。総会には、１年間の活動や会計報告の小冊子を全戸に配布している
他町会との連携・協力
・小学生の夏休みラジオ体操を、わが町会だけでは人数が少ないので、近くの町会に合流させてもらい実施している
・単一の町会では児童数が少ないため、隣の町会へ案内を出し、合同で開催している（ラジオ体操、子どもクリスマス会等）
・町会間の連携（連合町会）
・町会長着任１年目のため、暗中模索状態。学区の他町会との協力のため、地域会合（２ヶ月に１回）に出席し、情報交換を行っている
・文化祭（公民館まつり）、敬老大会等は地区町会合同で行っている
他団体との連携・協力
・学校と連携して地区社協主催で毎年４年生と地域の高齢者とのふれあい交流会を開催している。そのほか地区老連の行事の防災対策研修会等に町会民が参加するようPRしている
・北地区コミュニティ会議と連携・運営に協力
・夏まつりなど医療生協と連携している。健康づくり、講演、児童センターよさこい、一輪車など
その他
・７について、何かやらなければと思うが、イメージもないし、スタッフもないし、何よりも自分の中に行動するだけのエネルギーが満ちてこないのが問題だ。若い人にかわりたい
・会員は無気力・無関心・無責任のようなものだから
・行政退職者ももっと活動すべきである
・現在は現状のままで運営している
・単一町会の活動費が年々減少していることから、地域の連合体（各種委員会）より脱会を考えている
・単一の町会での運営には問題ないが、隣同士の町会で同じ集会所を使用しているため、意志・使用法がかみ合わずに苦慮している
・事務局担当者（2～3名）が配置されれば、町会長は大変助かり短期交代が可能となり、多数の方々に会長を体験してもらうことにより、町会活動が一層活発化していくと確信している。しかし、その活動場所の設置が困難であり、現在のところ実現できないでいる
・人集めが大変でなんとか行事を行っている

11

町会の特徴・参考となる取組や事例

問24　貴町会のPRポイントや、貴町会で行っている特長的な取り組みがありましたら、ご記入ください。

■自由記述

・〈だれもが参加できる町会役員会〉　①りんごもぎ体験（JR東西自由通路歩道沿いのりんご樹）…指定管理会社の全面的協力を得て実施。りんご品種銘柄（ワルツ、ボレロ等珍種）　②町会親善ボウリング大会（子供の部・大人の部）…毎年大盛況

・グラウンドゴルフ同好会を結成し、毎週定期的にプレーを楽しんでいる。特に高齢者も参加できるように取り組み、健康維持ができる程度に、ハードなことは避けている。他町会からの参加者も受け入れていて、コミュニケーションの場ともなっている。この同好会の会員が中心となって公園の草刈り、清掃などの町会活動が行われている
・公園（児童）に花壇があるが、花壇を守る部会を設置し、花壇の整備、緑化活動を行うことによって住民相互の交流と花・緑による生活環境の改善を図っている

・子供会活動（青少年育成委員）…流しそうめん祭、クリスマス会
・町会活動（女性達の協力で手作り食材）…納涼祭（約300人参加）

・再生資源の回収を月１回行っている。　・親睦旅行を年１回行っている（日帰り）

・市の中心部に位置していることもあり、現在空き地も空き家もなし
・老人の一人暮らしが増えてきていることもあり、除雪機を持っている人が善意で手伝っている
・総会で年１回しか「顔合わせ」はないが、以前から住んでいる人々の交流は多い（良い方）
・町会長・副町会長・監事・組長、実質役員手当はゼロでボランティア（以前はあったが、私の時からゼロにして５年以上）
・２年前より町会の敬老会を町会員全員で祝うことにしたら大変好評だ。駐車場に３つのテントを張り、バーベキュー、焼鳥、焼きそば等々、素人楽団、カラオケ、余興を実施。子ども達にはゲーム、景品多数、寄贈者も多い。ただ、学区の小学生が一人もいないのが残念

・神社境内の清掃、草取り、冬の参道の除雪、屋根の雪下ろし　・町内の流雪溝の有効利用
・夏の町内住民の親睦や子どもから年配者間の交流を兼ねたパークゴルフ大会

・親睦日帰り旅行・夏祭り（25回連続）　・ねぷた（いも煮会）
・奉仕活動（鳥居の修繕やペンキ塗り、雪片付け等）

・町会広報を月２回発行。広報・連絡・報告・注意喚起など　・ゴミ集積所は輪番で毎週清掃
・赤い羽根の協力で400円の定額分のほかに積み増し分募金を回覧し、定額目標額に対して130%～170%の実績がある
・町内でリサイクル収集活動を月２回実施　・毎春、町内ゴミ拾いを周辺道路を含めて実施

・町会親睦レクリエーション（ニジマスつかみどり26回）　・環境美化運動（花いっぱい運動）
・復興支援再生資源回収運動（大槌町、熊本へ）
・防災に関する活動…防災士の育成（現在21名）、防災避難訓練
・社会福祉関係事業…ふれあい給食会（月１回一人暮らし対象）、町会敬老大会、除雪支援、子育て支援事業（出産家庭にお祝い金）、災害時見舞金
・文化作品展、金魚ネプタ制作　・ネプタ参加奨励…40年連続青年部による盆ネプタ運行

・町会独自の収入源を作りたいと、28年度から小路の排雪と農道除雪を行う（弘前市より委託）
・無駄を省き節約している

・町会としては年に３回全体の会合がある（新年会・総会・研修会）。それぞれ参加する顔ぶれは同じだが、80弱の世帯で30人近くの人が出席し、とても賑やかに行っている。また、町会の女性部は廃品回収を年４回行っているが、女性部も独自ではできないので、町会の元気な男性7人ぐらいが応援してくれている
・女性部では、研修会としてブルーベリー狩りに行っている。それから出前講座を利用したりもする。また年１回だけだが独居者にお弁当を配布している
・老人会では、グラウンドゴルフを行って運動をしている

①助成金をもとに20年以上継続してきた事業…夏休みラジオ体操（10日間）、河川清掃（年2回）、成年部主催納涼会、老人会の温泉親睦旅行（年３回）／②広報ひろさき配布の工夫／③65歳以上単身老人の給食事業（年1回）…３年目／④ごみ収集車の入らない私道に設置したステーション方式のごみ箱の管理と工夫（10ヶ所）

■自由記述

・出前講座の実施　・婦人部によるモチづくり講習会・昼食懇話会の実施
・町会独自の回覧配布に努めている

・長寿を祝う会を実施　・地元保育園を活用したイベント開催

・月１回のペースで「町会だより」を発行
・町内作品展（町内ミニ文化祭）を年１回実施している（銀行支店で）
・作品づくり（エコクラフト教室、手芸教室）を実施

・町会員の仕事が別々のため、冬場の暇な時期を利用し親睦を深めるようにしている（勉強会…防災、AED、救急法）＋カラオケ大会、ゲーム等
・PTA行事に共催として、盆踊りを企画したり、運動会、文化祭にも出ている
・防災教育に力を入れている。自主防災組織の結成、訓練等

・今年春に自主防災会を設立し、10月最初に防災訓練（消火・煙体験・土のう積み・炊き出し等）を実施。約70人の参加者があり、なんとか成功した
・岩木川沿いの町会のため春の一斉清掃では、河川の清掃と町内の側溝の泥上げを、毎年120人以上の参加者で活発に行っている

・班長の任期を半年間としている
・総会の決議に基づき、赤い羽根や助け合い会費は町会会計から一括納入とし、班長の負担を軽減している
・役員会を定例化（月１回）し、月ごとの行事や課題の検討を行っている
・町会会館の利用を呼びかけ、町民が趣味等の活動ができるようにしている（麻雀、カラオケ愛好会あり）

・防災訓練、特に応急措置を繰り返し実施して、高齢者や災害時の人命救助に役立つ会員を養成している
・安全部活動として、町内を巡回し、危険な場所・設備等の改善を行っている

・他町会との協力と交流…町会長間で話し合い、共同でできる行事や役員会などへ出席し交流をしている…運動会（各競技、ボウリング大会、予算の分割）、ラジオ体操（夏休み期間）、側溝清掃（交互に担当を決め実施。ただし共有個所）、市への申請事項（公園管理、道路）
・町会独自の町会通信の発行…不定期ではあるが、町会内の行事報告を周知してもらうために発行している

・町会女性部による花壇づくり→約20人ぐらいで
・町内の空き地を利用して子どもを対象に花火会（夏休み中に）
・今年度初めて10月に餅を食べる会を行った（集会所を借用して）→子どもを対象としたが、結果的には大人の女性に人気があった。町内に餅の事業者がいるのでやってみた。将来的には餅つきからしたいと思っているが、その場所を探すのに悩んでいる

・１%事業（文化財、自然保護活動、歴史、神社の保護活動）、ゴミボックスの設置で班の結束を図る。空き地・空き家、一人暮らし、除雪対策を検討中

・会議…
①「総会」を除き、「三役会議」を毎月、月末に開催。その月の実施状況、翌月の事業予定を検討し調整を図っている
②三ヶ月ごとに１回（年４回）、町会三役・各部の部長が参加する「三役・部長会議」を開催。町会側から町会の現状・問題点を説明、各部からは各事業の報告、部としての問題点等を話し合い、問題の解決を図っている。また、問題点は町会の広報誌に掲載し、町会全員が問題点を共有できるようにしている
・町会の広報誌を24年間毎月発行し、町会からの各情報・催事・連絡事項等を掲載し毎戸配布している
・町会の事業を、町会本来の事業（総会、新年会、旅行、三役・部長・部員合同会議）と、各部計画事業とで区分している。特に各部の自主性を持たせるため、各部毎年度末に翌年度の計画と予算計画書を提出させ、役員で審議し新年度の総会に諮り承認を得る
・町会に、福祉部・建設部・防犯交通部・衛生部・文化部・婦人部・保健部・児童部（育成委員）・体育部の９部を置き、各部は部長と４～６名の部員で形成され、各部の事業に協力・支援を行い、連帯感と相互支援の強化を図っている
・市の「ごみ減量推進委員」と町会の衛生部員を一体化し、集積所の見回り・清掃等に当たっている。また、市からの手当のほか、町会からの手当と活動に必要な作業資材・雨具等の被服を供与し、環境美化活動に当たっている
・町会本体事業としては、新年会・総会・町会旅行・三役部長部員合同会議のとおりで、予算については、新年会、町会旅行は会費の一部を徴収し、その他は町会負担である

・子供会のクリスマス会を行い、父母の加入を行うようにしている（小学生）
・夏休み早起き勉強会を５日間～10日間行っている

①当町のねぷた愛好会では、ねぷた祭りに昭和58年から34年連続して参加している／②平成9年から側溝の清掃（泥上げ）を毎年実施している／③平成11年から資源回収、リサイクル活動を毎月第１日曜日の朝に実施している。特にアルミ缶の回収では、平成27年に全国表彰を受けている

・一人暮らしの人と高齢者の食事会（月１回の予定）

■自由記述
・数年前から弔費の改正を行った（2千円から3千円へ） ・小学校新入学、中学校へ進学する人に入学祝いとして図書券を贈呈（３年前から実施） ・役員に対する事務費を今年度から支給する（今まではなかった）。支給額は検討中
・側溝の清掃・泥上げを16年間続けている　・焼肉友好会を毎年子どもを交えて行っている
・町会等の活動を知ってもらい町会活動に理解を得るため「町会だより」を毎月発刊し、町会行事や町会役員の活動など、および重要な行政の連絡事項を抜粋し紹介している ・子育て支援のクラブを立ち上げ活動をしている。毎月の活動のほか、年２回（年始・夏）にお楽しみ会行事を行い、子育て中の父母の交流の場や一人暮らし者との交流の場を提供している ・町会各種行事には、老人会・婦人部団体・消防団・団体施設と連携して町会行事を行い、醸成の一体化を図っている。特に、町会の親睦行事である夏祭りや自主防災会避難訓練には、前述の団体の参加協力を受け、地区としての総合的訓練を行っている
・町会ポリシー「環境に優しい．明るく住みよい町会」　・町会独自のキャラクターマークを持っている ・環境問題について　市の回収後「ごみステーション」に回収されないごみがないことをテーマに「環境弘前市一番」を目指している
・夏には焼肉まつり　・町内神社でのお祭りイベント
・１年に１回、毎戸総出の根払い清掃作業を実施し、町会民の友好・懇親の場となっている
・班長業務を長期化させないこと（２ヶ月交代で実施） ・金銭について募金等の集金はさせない。町会で一括して支払っている
・29年度には新規事業を一つ起こしたいと思っている。弘大でのコミュニティ起こしのための手法を学ぶ良い機会を与えていただき感謝。新規事業を起こそうと思っても、現役世代も忙しく巻き込み方が難しいので、夏ごろに、子ども・父を参加対象者として企画する予定。多忙←仕事←生活費の確保←低賃金のサイクルがあり、金銭面のみではない付加価値を町会で創造できればと考えている
・２年前に副会長から町会長になったが、その２年前までは町会活動が全くなしで現在に至っており、私が町会長になる前は資料を見た限りでは特別何かあったとは思えない。１年目は何も分からず経過したが、２年目からは特別会計を設けたり、会則を見直したりして、３年目である今年は役員選択の方法を提案した
・８月13日にセンター前で子ども会、公民館などで毎年行事をしている
・新しい住民も増えてきているので、町内研修（旅行）、グラウンドゴルフ大会、トランプ大会、子供バーベキュー大会を開催し、小人から大人まで参加し、親睦を深めるようにしている
・今まで盆踊りを２日間、神社で行ってきたが、今年許可がおりず、社会福祉センター・身体障害者体育館を借りて祭りを開催した。ラジオ体操も今まで神社で夏休み中ずっと行ってきたが、これも駄目で小学校の校庭で開催するなど、厳しい年だった
・大沢堂ヶ平山（桂清水、燈明杉、十一面観音堂）、獅子舞（県無形文化財〈S37年〉）、これらを大切に村民一丸となり守っている
・当地域には、５つの町会が参加している「地区環境保全会」という組織がある。この組織には、子供会・老人クラブ・青年部など22団体が参加しており、活動も幅広く、地域の約８割の人たちが加入しての活動である。そのため交流する機会も多く、顔なじみの人がほとんど。したがって、町会として特別の活動を作る必要がないと感じている
・夏季ラジオ体操、クリスマス会
・学校のいじめ問題や町会の教育活動を考える時に、教育レベルの低さに苦悩している。地域教育、職場教育、家庭教育、団体教育…すべて原点は教育。とかく、農村部では教育とは学校が主体との意識が強く、考え方の原点にある。そこで、町会のレベルアップを目標に地域教育活動に今後とも努めたいと思っている。具体的目標は、①家族会議的話し合いの回数を多くする（年４回ほどの目標）、②職業の目標（各家庭）を長期的に具体化していく（農業かサラリーマンか等々）、③家計費の内容を明確にし、家族の負担割合を明確にする、④家族内の決まりごとを明確にする、⑤相続問題（財産や土地、お寺など）の将来像を論ずる機会とする。これらの話し合いの場を、子供や孫に見せる機会とすべき。子どもは大人の背中を見て成長すると言うが、大人が一生懸命生きている姿を見せることがいじめ問題の解消に少しでもつながるのではないか。教育は学校だけではなく、大人の姿勢が大事だと思えるのである（ごみ問題や除雪問題も大人の姿勢、家庭のしつけが基本だと思う） ・その他（町会役員の成り手が少ない対策として）…役員手当は弘前市としても年間手当を支給すべきではないか。現在は町会費の中からのみ。町会長で月にすれば１万円前後か。将来とも町会活動の向上を思うとき、ボランティアや奉仕活動の意識が基本だと思うが、金額もまた、大事な税金の有効活用だと思う。金は出せない、仕事はお願いするでは長続きしないのではないかと心配する。今後とも検討すべきである
・下部組織が各々の分野でがんばって活動している。最近、老人クラブが活発に活動している。運動教室も10年ほど継続して行っている

■自由記述
・規約では40数名の役員が現在は30名しかおらず、その中でも総務係・文教係・環境係の３部門に分け、責任を持って各係で計画・立案し、運営委員会で承認されたら行事を進めている。総務係…町会全般にわたる計画・立案、総会、新年会、印刷業務／文教係…町民運動会、親睦旅行、トランプ大会、役員研修等／環境係…春秋の大清掃、ゴミ置き場、犬のフン、防火等
・敬老大会は例年該当者45人ぐらいのうち、参加者（出席者）12、3人ぐらいで、当町会の会館で実施している。余興として副町会長が率いるバンドで演奏、歌を披露しているが、このメンバーは和楽器の雅楽も演奏できるのがすごい。大変貴重な時間がもてて、出席者に喜ばれている
・刻字教室、手芸教室、子育て支援、老人クラブの体操、夜店まつり、文化祭・ワインセミナー、餅つき
・今年の収穫祭に弘大のはやし隊の応援をいただきパフォーマンスをしてもらったところ、町民に大変好評で楽しんでもらうことができた。皆が楽しんでもらえることを行事の中で取り入れることで、難しく話をするよりも町会の事業等を理解してもらえるのでは
・子どもねぷたの町内運行（２日間）…隣接する他町会の子どもが約半数と、顔の知らない親子も参加してくれるが、お土産は差別なく与えている
・ゴミ集積所に問題が集中しており（それだけ問題が少ない町会ともとれる）、ゴミ分別担当の2人と場所を決め、10日に一度は集積所の整理を実施している。自作看板も記入して設置。その後、町会員がちりとり、ほうきを備え、はけてくれたり、デレキを置くようになっている。また、その場所の補修を心がける人もいる
・ゴミ捨て場の利用PR、出産祝い（その都度１万円支給）、香典（町民死亡3,000円）
・再生資源回収を行っている
・幸い、町会内に交流センターがあるので、年度始めの総会やら年間を通しての会議等に利用できるので助かっている。また、高齢者の簡易スポーツを体育室で行っている
・毎月１回町内広報紙を作成し加入世帯に対し配布。イベント案内など町内活動等の周知・報告をしている
・商業地域で病院、ガソリンスタンド、大型商店が道路両側にある。それに伴い、広い駐車場が点在している。アパートの数軒の居住者はほとんどが通院者で生活保護受給者が多数を占めている。他町会への統合等を進めたが難色を示した
・少数世帯でまとまりが良いほう
・少人数の町会なので、親睦をはかるため年１回焼肉パーティーを行っている
・神社の祭りなどがある時は、毎年人が多く集まるように、お金が最小限かからないような、常に新しいイベントを毎年考えている
・水路の脇に「さくら」の苗木を植えている。「さくら」が将来咲きそろったら、町会で花見をしたいと思っている
・青年部・婦人部・長老部で慰労会を時々行っている
・世帯数が少ない町会なので、一般世帯も事業所も含め、顔見知りが多く、町会内の苦情、問題点は都度話し合う、汲み取れるという雰囲気にあると思う
・団地形成となっているところが大きな特徴。アパートも多く、町会未加入世帯などが課題となっており、同時に町会事業に対する住民の理解度がまだ低い状況にある。このため、加入世帯については、町会の事業計画に盛り込み、具体的には役員が分担を決め、加入促進にあたっている。事業については、案内のチラシなどを配布し、参加と理解をしていただくよう努めている
・小さな町会なので皆家族みたいなもの。問題は特にない
・地区の中で平均町会費は最も高いが、給付も他町会より幅広く、世帯数も33世帯と少なく、少数精鋭ですので、まとまりやすい
・町会、老人会、子ども会共に地域の行事に参加するよう努めている
・町会員が誰でも参加できる行事・活動として、花いっぱい運動、りんご剪定会、子どもとPTAの町内美化運動、農事視察研修等を実施
・町会公民館が８月13日に行っている納涼祭は今年で21回目となった。参加者を増やすため、２班合同で出店を出してもらうことで、班同士の連携、親と子の共同作業の場を作り出している。花いっぱい運動への参加においては、公民館、婦人会、老人クラブと共同で作業を分担しながら交流を図っている。今年も最優秀賞を４年連続で受賞。当町会は120戸足らずだが、大型ねぷたを運行している。これは町会の方々の協力の賜物と感謝している
・町会参加型の廃品回収を通じて（毎月）住民との交流を深めている。神社の毎年の行事を輪番制で実施している。5年前から世代間交流事業を実施しているが、この時だけは住民の参加者が多い

■自由記述
・町会の行事・イベントは青年部が企画し実践している。そのために役員会を開催し、必要な予算を計画している。毎年の納涼祭、子どものネプタ運行に際しては、会員及び団体から寄付をお願いしている。納涼祭の開催にあたっては、青年部の奥様に依頼し、会場における飲食物等の提供サービスを実施している。そのため、出席者から非常に感謝され、町会運営の親睦の基本となっている
・町会の総会は家族ぐるみの参加ができるように、また、レクリエーションも家族での参加を募っている。総会には夫妻の参加者が少なくない。レクリエーションは親・子・孫の三代で参加がある
・町会の長年にわたる目標…①明るく楽しい町づくり、②仲のよい隣組、③長生きのできる町。現在のところ、五穀豊穣の秋、平和で美しい弘前に感謝している。ただ、残念なことに、少子・老齢化になってしまった。わが町会にほしいものは若いご夫婦と赤ちゃんです。ひとりもいません。さみしい限りです（参考までに、後期高齢者80人、小学生6人、赤ちゃん0人）
・町会連理事会→地区町会長会議→町会役員会のサイクルで毎月実施しており、その概要をA4・2ページで回覧・報告している
・町内に弘前大学留学生会館があるので、大学と交流し国際交流活動として夏祭り、餅つき等を一緒に実施している
・町内の神社が約400年前に建立され現在に至っている。町会では毎年新しいしめ縄を手作りして鳥居を飾り付けており、多くの若者にPRしたいと思っている
・当町会（戸数103）では、H25年から町会費の削減を目的に町会運営の見直しを図り、H27年までに年間1戸当たり5千円を削減した。町会費の経緯…H24年一戸年間15,000円、H25年・26年12,000円、H27年10,000円。主な取り組み…①特別会計の廃止（H24）、②役員人件費の見直し（H25）、③管理費の見直し（H25）。当町会は戸数が少ないため、一戸当たりの賦課金が他町会と比較して高額な傾向にあった
・当町会ではろうそく祭りを通して、地区および町会その他との交流・親睦を図り、町（市）おこしに協力しようと常日頃より考えている。自然が豊かで春は緑、秋は紅葉と四季を通して楽しめます。今後は市、各団体のサポート、提言を基に地域おこし、観光に力を入れていけたらと考えている
・当町会内の老人クラブが町会内の側溝の泥上げや草取りを実施して喜ばれている。また、年に１回、近隣の温泉へ日帰り旅行を町会主催で行っている
・当町会の神明宮境内は、弘前城本丸の石垣の原材料となる石材が採掘された「如来瀬石切丁場跡」である。市教委による調査により、当時の遺構が発見され、現地にはその説明板を設置し、また、見学道路が整備されたので、ぜひ見学してほしいと思う。このことは当町会の誇りであり、町会民一人一人が「如来瀬」という由緒ある地名と共に自信を持ってほしいと思っている
・夏祭り、神社（神楽）、資源保全会（農地、川、農道）
・ねぷた、夏まつり、日帰り旅行、新年会等、誰でも参加できるイベントを企画している。高齢化が進んでいるため、災害対策を強化しており、自主防災組織を立ち上げ、避難訓練を実施している
・ねぷた祭合同運行への参加、盆踊り、ラジオ体操、河川清掃、日帰り旅行、地区運動会、ビアパーティー、桜花見会、神社の月一回草刈など行事は多い。班長会議・役員会は定期的に実施。青年会・老人クラブの活動も活発
・ねぷた祭りに参加しているが、制作費が増のため、資金の調達が難しいので市の補助がほしい
・ねぷたまつりへの参加、夏休みの学習会やサイクリング、冬の雪灯籠製作、どんとまつりなど、年間を通じての子ども会活動に、青年部や婦人部、町会役員が協力支援している。また町内活動として納涼まつりや地区運動会への参加など、多彩な町会行事を展開し、町民相互の信頼関係構築に努めている
・年１回夏祭りを実施している。内容としては、公園で婦人部・青年部が売店を開設して食品・飲料を販売し、子どもたちには町会で無料のアイスクリーム、綿あめ等を配布。そして、大人も子どもも一緒にできるゲーム・踊り等を通して世代間交流を深め親睦を図っている。このまつりは今では町会のみならず、地区全体で毎年期待される行事になっている
・年に１回のボウリング大会、グラウンドゴルフ大会を家族ぐるみで行っている。和気あいあいに過ごしている
・年に一度行っていること…（H28）9月：日帰り旅行…田舎館田んぼアート→盛美園→福屋（食事・入浴・カラオケ）…15名参加／9月：小学校区民運動会…大人28名、小人10名（子どもが少なくなってきている）／（H27~）12月：お正月のお花（フラワーアレンジメント）…13名参加、３年目。今年も実施予定。以前はミニ門松も作りました／（H24）12月：クリスマス…大人21名、子ども22名参加
・年に一度ずつ、「紳士の日」「淑女の日」を実施しており、年齢に関わらず誰でも参加してもらい、いろいろな町会のことについて教えてもらい、理解してもらっている。予算措置をして実施しているので、気軽に参加をお願いしている
・農道の清掃・草刈り
・春の研修旅行

■自由記述
・弘前公園の外堀沿いに位置し、公園は庭のような関係にあり、親近感が強い。また、住民も元々から住んでいる人が多数で、町会への入退会の動きは少ない。したがって、町会民の親睦を第一に考えて、年１回の納涼会を開催し、大人から子どもまで家族で参加し好評を博している。特に子どもたちにとって楽しい集いを通して将来、町会に加入する動きに発展することを期待している
・毎月15日に「町会だより」の発行で情報を発信している（町会・地域の情報）
・毎月１回発行「町会だより」…誰もこんなの読んでくれないだろうと思ったが、一度休刊した時に「回覧板に付いてこない」と問い合わせが殺到。それからは休まず続けている
・毎年秋に実施している町会親睦レクリエーションに大人や子供が楽しめるよう特別ゲストに「うたごえグループ」等を迎えている
・餅つき大会や親睦レクリエーション、夏祭りなどの行事を実施し、町会民とのコミュニケーションを図っている
・役員・地域住民による公園の清掃活動…草刈、ゴミ拾い、遊具設備の安全点検（月２回）
・役員会（8名）は食事処を借用して開くことにしており、会議後は一人千円会費を出し合い、食事会を持つようにして、親睦を深めている
・役員が若く活発に活動している。私どもの町会は昔の名残が少し残っている門前町などで、古くからの商店があり、それを継いで若い店主たちで商店会を組織している。商店会は禅林のお寺さんを巻き込んで結成されたもの。当町会は、その商店会と共催して「納涼祭」「買物抽選会」等、その時期、また、季節ごとに行事（町内ゴミ拾い、雪片付け等）を行っている。また、ねぷた会は長い歴史があり、町会とは一体となっており、何につけても“カ”になっている（いも焼き、どんどん焼き他）。町会にはさまざまなキャラクターがいるので、事業をやるにもスムーズである
・リサイクル活動、公園内への花の植付け（春～秋まで花の鑑賞ができる）
・理念として“老人と子供にやさしい町会”ということで頑張っています。特に小学校が近く、子どもの登下校時に地域内を通るので、“児童を交通犯罪から見守る会”を作り、常に気をつけて安心・安全な町づくりに頑張っている
・りんご公園のある町・常盤坂として長くPRしてきたので、リニューアルオープンしたら弘前市りんご公園（弘前市清水富田字寺沢）ではなく、（弘前市常盤坂）と表記してほしい ※以前は弘前市常盤坂だった。
・若い人との時間帯が違うため、困難なことが多いが、少しずつ声掛け運動をして関心を持ってもらう
・わが町会では、町会公民館という組織があり、公民館長他５人で毎年１回か２回行う活動等の内容を話し合い、町会の子どもから高齢者までみんなが参加できる事業（活動等）を行っている（ここ数年は、夏まつり、また施設を見学し温泉で親睦を深めるなど）
・副町会長在任中（14年間）、元旦に『昨年を振り返って』と写真入りで除雪作業、廃品回収、レクリエーションなど思い出の町会報を作り回覧していたが、非常に好評だった。昨年度は自営作業多忙のゆえ、欠版したが、今年はできれば発行したい気持ちでいる
・町会の親睦を図るため、親睦会を大切にしている。①総会後の親睦会／②町内のバス遠足（町会創立49年のうち、ほぼ連続36回実施）／③運動会後の親睦会（地区体協主催の運動会後、町会独自で実施）／④町会夏祭り（20数年継続）／⑤町会夏休み中のラジオ体操（大人も子どもの参加）／⑥児童公園の清掃（町民に呼びかけ年４～３回）／⑦町内もちつき大会（連続38回実施、11月）と親睦会…「継続は力なり」で行っているが、少子・高齢化で大変
・婦人部、老人クラブ、青年部（歴史探偵団）等良くまとまっている町会だと思っている
・当町会は災害時に備えて町会独自で町会費の中から災害備蓄用品（保存食料、保存水等）を毎年更新（賞味期限の関係で５年で一巡するように）し、備蓄している。町会単位で防災訓練等も実施したいと思っている ※自主防災組織の設立の際の補助金は役所の方から出るのだが、賞味期限等がある備蓄用品購入の際の補助金も考えてほしい。
・特にないが、今の神社は以前長慶天皇ご陵墓参考地であったことくらいでしょうか
・特に何の行事をしないことが特長だが、最近引越して来て、良い情報は欲しいのでということで参加したいという人が数軒あった
・町会親睦日帰り旅行、町会管理農園の無料貸し出し事業、1日・15日の夜間防犯パトロール
・出前講座を年２回実施（H28年）。１回目は整形外科の先生による「骨折」について、２回目はお寺の方による「終活」について ・グラウンドゴルフ大会を毎年２回実施　・子どもたちの夏休みを利用してラジオ体操を実施
・町会夏まつりを８月の終わりの日曜日に町全体として毎年行っている

12

町会長として思うこと

問25　日ごろの町会活動で感じていることや、町会長として思っていることなどを自由にご記入ください。

■自由記述

人口減少・少子化・高齢化について	・町会の高齢化が進み、除雪や災害時に不安を感じている ・加入世帯も年々少なくなってきており、町会活動も町会長の負担が多くなっている ・このまま高齢化が進み、若い世帯が少なくなってくると将来町会が存続できるか考えることが多くなっている
	①会員の高齢化　②役員の固定化、永年従事　③他町会との合併
	・２年前の集計で、居住世帯の平均年齢男76歳、女75歳。何もできません
	・いろいろなことについて、その必要性などは感じたりしてはいるが、対応できないでいる。町会の構成は主に商業地域側と、以前からの住人たちが居住している地域に二分されている。前者には店舗に居住していないという問題が、後者にはかなりの人がかなりの高齢になっているという問題がある。したがって、総会や親睦旅行等への参加者もきわめて限定的になっている。上記が主な要因ではあるが、後継者の発掘はなかなか難しいのが現状である
	・会員・役員の高齢化（全員）、民生委員の希望者なし。行事の減少・縮小も今後の課題
	・高齢化が顕著で、一人暮らし・二人暮らし世帯が多くなっており、住民同士のつながりが重要になると思われる。そのためにもコミュニケーションを多く図る必要がある
	・高齢化が進み、人々に不満はあっても我慢して、積極的に参加する人はなく、町会活動は後退するばかりです。何か良い方策があったら、ご教示ください。そんな思いでいます
	・高齢化で大変だが、他の町会も悩んでいるようだ。一人暮らしの人には声をかけるようにしている。小学生に声かけ運動をしている
	・高齢化のため、会議などでいろいろなシステムについて理解してもらうのに時間がかかるため、スムーズに物事が決まらない
	・高齢のため、なかなか市の集会などに参加できなくて、これから若い人に町会長をお願いしたいと思っている。私たちの町会ではサラリーマンが多いので、町会長に就くのが難しく大変です
	・少子・高齢化がますます進んできており、特に子供会の行事等ができなくなってきている
	・少子高齢化に伴い、当町会も若者の転出が多くなり、町会の事業にも支障をきたしている。若者定住のために今いろいろと行っているが、早く実になってほしい
	・皆さん高齢になり、町会活動に関心が無くなっているように思う。高齢者でもできることをやりたい。お茶を飲みながらちょっとした体操とか、トランプ、麻雀等で頭を使うものとか希望
	・特になし。毎年人口が少なくなっている町会である
	・在宅の高齢者を何とか町会活動や町外行事に誘引することを心がけているが、まだまだ不充分である ・定年後の近所づきあいでは遅い。普段の生活環境の築き方、各々の生き方が改善されない限り、非常に厳しい現状にある ・女性のほうが何事にも関心が高く、男性は引きこもり型が多いと言わざるを得ない ・よくも悪くも、町会員は老人クラブ員と同じ。今後はあえて峻別の必要はない
	①昭和48年に町会設立し、当初30代の人でも既に80歳を超えている→高齢者世帯が多い ②当町会には一次産業従事者はいない ③私が町会に関与した当初（S54年）には小学生が70人もいたが、現在は町会未加入世帯（約120世帯）を含めても20人と少なくなっている ④中学・高校までは地元にいるが、それ以降は地元に残っている人がほとんどいない。原因ははっきりしている。→就職の場が少ない ⑤役員会・総会等でも出席者は案内者の約半数程度で、町会に無関心の人が多い。→マンネリ化の原因。なんとかしなければと悩んでいる ⑥若年者を定着させる環境を切望
	・人口が少なくなってくるのは現実。少子高齢化に即した町会運営を模索し、少数精鋭でも精神的に豊かな町会を目指す

■自由記述

人口減少・少子化・高齢化について	・高齢化、干渉されたくない・したくない家庭が増えている
	・子供・若い世代が減少し、高齢化が進んで一人暮らしの世帯が多くなってきた。難しい問題 ・町会役員も70代以上がほとんど（私自身も退職後に役員になったが） ・若い世代のスタッフが望まれるが、忙しいのか関心が薄いのが実情 ・退職後の人生が長いので、そういう人たちの語らい、集いの場を多くつくり、町会活動に少しでも関心を持ってもらえるよう努めたい
	①町会運営は今、非常に厳しい過渡期に入っていると感じている ②各世帯（家族）の縮小化が進んでいるのが現実である ③このことは、人口減少、高齢化社会における高齢者の増大に起因があると思うが、今後の町会運営については極めて厳しく難しいと思っている ④町会員は、町会に関わる諸問題に関心がなく、意識が薄いのが悩み、このことは個人主義が大きくかかわっている
	・私たちの町会は130軒だが、高齢化が進み、75歳以上の1～2人世帯が40軒以上ある。実情、町会運営には役員25人以上が必要で、3軒に1軒の割合での役員の選出には無理がある。今後の課題としては、町会の合併を推進して負担の軽減をし、内容では市と町会との関わりや、活動内容を大幅に見直すべきと考える。高齢者の意見として、運動できなくなったので体協はいらない、町会でも運動会、婦人部、神社は見直しをしてくれなど
	・高齢者が多くなっているので、防災組織の構築が困難になっている。何かあったらどうしようと考えることが多い ・各家庭の人数（性別、年齢、電話）を正確に把握したいが、個人情報の保護がひっかかってなかなか進まない
	・自主防災組織の設立をしたいのだが、高齢化が進んでいるので…
	・町会員の高齢化に伴い、一人暮らしの人が多くなっているので、自然災害時の地域における自主防災が大変重要なことだと感じている。よって今、自主防災組織化に取り組んでいる
役員の成り手・後継者について	・役員の成り手が少ない。高齢化等課題が多い。情報の回覧活動やゴミ出しのマナー等必要と思われるが、今のところ順調にいっている。安全で安心できる町作りにするよう、会員同士の触れ合いを深める活動を工夫していきたいと思っているのだが
	①役員の成り手がいないことが一番の心配事である。現在、町会長が会計を兼ねる非常事態で、他の役員も改選の時に拝み倒して留任してもらっている状態である。私が町会長をやめた時、町会機能が動かなくなり、町会そのものがなくなる恐れがあると感じている ②町会行事を増やし、活性化を図りたいが、ミニ町会なので、行事としては納涼祭を実施するのが精いっぱいである。以前は日帰り温泉旅行も行ったが、予算的制約とか参加者が少ないとかで、現在は中止している
	・住んでいる人が少なく、町会長と会計２人ですべてをしないといけない。やることが多くなるほど、次に町会長・会計を引き受ける人がいない
	・前町会長が病気のため急死したので、一切の事務引継もなく町会長代行から総会において町会長に推され現在に至っている。年齢も88歳と高齢になり、町会長としての活動も年々負担を感じてきている。今後は一日も早く後任者の推薦に努め、町会活動を進めるようにしたいと思っている
	・町会活動を推進していくための人材不足が大きな課題である
	・町会自体の活動はあまりないので、私としては負担は少なくて非常に楽である。その他公民館関係行事については公民館長にまかせてある。また、役員会も特別なことがない限り招集していない。ただ今、町会長３期目なので、次期町会長の成り手をどうするか考え中である
	・町会長をやる人が出てこない。町会長の引き受け手がいないのは時間的、金銭的余裕が無い人が多いのか、社会に奉仕する気持ちが薄れてきている
	・町会役員が退任した時の後継者の人選および担う人を探すのが大変だ
	・町会役員はじめ町会長になる人がいない。世帯数が少ないこともあるが、若い人は県外・町外へ出る人が多く、地元に残っていたとしても、勤め（会社）と消防団等のボランティアとの両立に苦しんでいる。町会長の仕事・活動は、現職の勤め人には無理である。定年退職した人や、私のような数少ない農業従事者が今まで務めてきたが、今後は難しい。ボランティアとはいえ、本業をおろそかにできない。誰でも誰にでも簡単にできる町会役員・町会長にするにはどうすればよいか、考えさせられる毎日である。報酬（給与）があれば引き受けてくれる人が出てくるのであろうか
	・当町会では農業従事者が多く、後継者不足のため高齢でも生活のために農業従事している人が多く、若い会社員においては、町会運営に関して無関心のため、役員の成り手がなかなかいないので、他町会で役員交代をスムーズに行っている町会の意見等をお知らせいただきたい

■自由記述	
役員の成り手・後継者について	・特に若い人が役員になりたがらない。町会長が一人でなんでもやっている
	・役員の成り手がいない。特に町会長をやってくれる人がいなくて大変困っている
	・役員の成り手が少ない
	・役員の成り手がなく、一人何役も兼ねている現状であり、負担が大きい。町会の行事には参加者が少なく、いつも同じ顔ぶれであるが、これまで先輩達が行ってきた行事はなくしたくないので、引き続き開催したいと考えている。今年の秋に町会の側溝清掃を行ったところ（昨年秋に初めて行い）、多数の人に参加してもらい、交流が図れてとても良かったと思っている
	・私たちの町会は９割が農家で、役員が17人いますが、その中で３人は勤め人で、残り14人は農家であり、何かあった場合は、お昼や夜の18時半以降でなければ会議を行うことができない。中でも町会三役となれば成り手がなく困っている。３月末に総会を開催するが、なかなか役員の成り手がなく困っている。特に三役は成り手がない
	・特になし。当町会は世帯数が少ないため、皆さん協力的である。ただ、次に町会長職を受けてくれる人がいないので、それだけが不安
	・お祝いとして、入学する人・成人する人・75歳になる人にお祝いを差し上げている ・お見舞い事（１ヶ月以上入院された人）にも差し上げている ・公園の掃除（草取り、ごみ拾い他）を手伝ってくれた人にもお礼をしている ・町会長になってくれる人がいない。高齢化が進み、役員をやめると探すのに大変だ。若い人は勤めがあり、朝早く遅く帰るので、なかなか話すことができない。140世帯くらいですが、半分はアパート、県公舎、警察の宿舎、マンションで役員をしてくれる人がいない。本当に困っている
	・町会長の成り手がないため苦慮している。役員の成り手もない
	・町会員が高齢化して役員の成り手がない
	・高齢者世帯の増加が非常に加速している。地区の区長も年々減少。町会長も次期やる人がいない
	・わが町会は近くに大学・高校・中学校・小学校と学校が多く、若人が活気あふれる町会に見えるが、実態は違う。昔から住んでいるお年寄りの層（町会へ全世帯加入）とよそから来た若い学生のアパート層に分かれる（アパートは不動産屋管理で町会に未加入。ゴミ問題・除雪問題でトラブルの元）。ご多聞にもれず、わが町会も超老齢化が進み、80歳以上の一人暮らしの女性世帯だらけになってしまっている。男性が女性に比べて早死になのか、数人しかいない。したがって、町会長・役員を後継してくれる人がなかなかいないので困っている。とにかく忙しい
	・町会の役員の成り手がない。年間行事に対しての関心が薄い（年間行事として夏祭り、地区運動会、日帰り旅行、その他の会合）
	・行事がマンネリ化している　・後継者の育成が難しい　・町会員の無関心 ・何でも町会長に言ってくる
	・仕事の関係か、町会活動に若い人の参加がない。役員会等で発言があっても自身が参加しない。役員の成り手がないため高齢化している現状だ
	・役員不足　・さまざまな会議等に時間が取れなくて参加（出席）できない
	・リーダー（役員）を育成したいが、若い人がいない。持ち家のほとんどが高齢者と一人暮らし ・４棟あるアパート住民のほとんどが若者と学生（出入りが多い） ・町内２本の小路に除雪車が入らないのが難（道幅３m以内） ・他町会は空き家が多く、年々人口減と高齢化が進み、将来的には隣接町会との合併もあるのではと考えているが、昔から住んでいる家の人々が意外と反対者が多いので、実現には相当な課題が多いと考える ・町会は必要と考えるが、無くてもよいと言う人が増えつつあるようになった
住民意識・関心について	①町会活動に無関心で、いくら参加を呼び掛けても返事がない状態 ②町内は70歳以上が３割で、若い人は２割ぐらいだが、若い人は全然関心がない
	①町会長の役割、日常の業務等にまったく関心がない ②町内への入出に関し、お知らせ・報告がない
	・農家が多い町会であり、町会に対し町民、役員が非協力的で関心が薄く、批判が多く聞かれる。毎日の忙しさのせいなのか
	・無気力・無責任・自己中心的で未来が見えない
	・比較的新しい町会なのか、隣近所との付き合いがわずらわしい世帯が多いため、回覧板での連絡ができない状況
	・無職の人でなければ負担が大きい　・若い世代はまったく無関心・無理解 ・教育において考えることが大事ではないか　・個人情報が入ってこない。世帯人数も分からない

■自由記述	
住民意識・関心について	①役員や一部の会員以外、ほとんどの会員が町会活動に関心が低く、行事等への参加の顔ぶれはほとんど同じであり、一番の悩みである ②町会長を10年以上歴任しており、高齢化が進んでいる現状において、後継者の選定が非常に難しい
	・町会に対する関心が低下してきている（総会の出席率が下がった） ・町会役員の成り手が見つからない。当町会では町会三役になりうる識見の高い人材を確保したいと思っているが、仕事の延長（60歳→65歳）を事由に断られる ・当町会でも世代が替わるにつれて、顔見知りが少なくなり、町会外の人との区別が難しくなってきた。ゴミ置場の管理に困っている ・町会長として地区団体等の総会、学校行事等、多数の出席業務があるが、その際の祝儀を出す慣例がいまだ数多く見られるのが残念だと思っている。また、祝儀をもらう側も当たり前だと思っているようだ。懇親会や食事等がある場合は改めて代金をもらってよいと思うが…
住民参加について	・戸数が少ないのだが、参加しない人は何人かはぜんぜん参加しない
	・地域社会活動への参加が少ない（自分は関係ないなど） ・子育て中心になっている（学校部活等）
	・町会の行事・イベントに参加者が少ない
	・町会民の町会行事への参加意欲が薄れているような気がしている。町会行事の神社へのお酒上げ祭り、厚生部の夏祭り、また、町会総会等への参加者が年々少なくなってきている。上記の解決策を考えている
	・当町会でも行事の参加者が限定され、活発とはいえない状況だ。単身の高齢者も増え、町会からの退会はないものの、次第に行事への参加が困難になってきている。こうした状態であっても、いざという時の対応がとれる近所同士の「ほどほどの関係」が保たれていれば、それでいいのではないかと思う
	・日ごろより協力的で助かっている
	・皆さんが各役員等を知らないため、何か方法があればと思う。若い世代向けの行事を企画しても参加者が少ない
	・若い人たちが町会に対して関心を持っていない（特に町会でも行事もないかも）。これからは、若い人の参加ができるような行事をつくっていかなければならないと思っている（まずは小さいものからでも）
	・若い人たちの活動への参加
	・町会活動については、やはり片手間ではできないため、ほとんど退職した人が役員となって活動している状況だが、そのため若い人の参加が少なく、年々高齢化しているのが現状だ。また、若い人が役員になりたがらず、そのため、若い顔見知りになるべく声をかけ、町会の行事から参加してもらい、班長・役員へと考えているところだ
	・当町会は農村地域であり、非常に保守的な考え方が強く、これまでの事業をこれまで通りに行うことが「良」で、それを「やめる」「変える」ことに抵抗が非常に大きい。従って、「スクラップアンドビルド」の考え方を進めるためには、町会運営に多くの若い人が関わることが必要であり、そのためには「如来瀬石切丁場跡」により、若い人の地元意識を高めることが必要だと思っている
	・町会の役員について…町会の三役（会長・副会長・事務局）は、先代までは町会の自営業（商店主）の方々が歴代役職についていたが、私の代からサラリーマン退職者（主に教職員）になっている。それだけ町に自営業（商店）がなくなっている。しかしながら、当町会に古くから受け継がれている町内のつながりがあり、役員の推薦にも快く引き受けてくれているため、現在は非常にうまく運営されていることは私にとって心強く、嬉しい限りである。また、今後のことも考え、次の世代や現役の勤め人も加わってもらっている。それもやはり伝統のねぶた出陣や、消防団屯所（団員）があることが町会にとって大きな財産だと思っている
町会長の職務について	・農業の仕事をしながら町民の苦情など多く大変だ。役所の方々が非常に親切なのが助かっている。今後もよろしくお願いします
	・12年間も町会長をやっていると、この職は苦痛である。日ごろ、会えば町会長と呼んでくれるが、内実は町会長であり、小使いでもある。雑用係である。人間嫌いになってしまった
	・新任の町会長であり、前の町会長よりの引継があまりうまくできなかったので無知である
	・町会活動については、あまり片肘張らずに地域の課題を見つけながらその解決に向けて行動するのが町会長及び役員の務めだと思う。そのためには町会独自に対応できるか、また行政への支援をお願いするか、また市議及び県議へ協力をお願いするか。課題解決にはいろいろ考えられるのでは？
	・町会長の言動は町民に与える影響が大きいので、慎重さが必要だが、説得力ある言動ができた時は、その成果も大きい
	・町民の要望に身を傾け、できるだけ即座に実行し、信頼を得るよう努力する

■自由記述

町会長の職務について	・町会長は中立的立場に立ち、住民の意見や要望などをよく聞いた上で、民主的合意を図りながら地域づくりに取り組んでいる
	・町会長は名誉職ではない。町内の苦情・要望・相談、また関係機関・団体などとの打ち合わせ、会合など、非常に忙しいことを分かってもらえるよう、機会あるごとに話し、町内業務に参加協力できる環境を作るようにしている
	・町会長を長く務めていると、行政関連や他団体などの業務役職等が増えて対応できなくなっている。町会に割り当てられた〇〇委員とか、〇〇係とかが多く、特にそれらの改選期には特に苦労する。そのようなことから私自身も辞められないのが現状である
	・町会内の事業や活動については、町会役員が積極的に協力してくれるので、困ることはありませんが、町会長であるがために外の用事が多く、その時間を取るのが大変である
	・まったくのボランティアですが、町民の信頼がある限りは頑張りたいと思っている
	・町会長として活動してから５年、副会長やその他の役員４年、間もなく10年目になるが、自分以外はほとんど人生の先輩であり、活動がやりにくいと感じている。町会長としての思いを強めれば支障が出るし、弱めれば思った活動ができない。全体の調整を図ることの難しさをことのほか強く感じている。今後、町会長を引き受けてくれる人もなく、このまま続けざるを得ないのか悩んでいるところである。町会の存立が可能か今後の課題として取り組んでいくことになりそうだ
	・町会長を引き受けてから、地区内の活動で多くの人を知り、つながりができたのは、自分にとっても「得」だと思っているが、ついつい役員（町会連、社会福祉協議会、公民館等）を引き受けざるを得なくなり、大変忙しい思いをしている。後継者に苦慮
	・町会役員の若返りを図りたく、呼びかけを行っているが、より具体的な活動で人々を巻き込む努力と行動が必要だと感じている。各班長は任期２年で回っているが、町会長などは10年以上の任期と長期化しているため、世代交代時が難しい ・道路の補修や交通標識の整備等、陳情の窓口としての役割が想像以上に多い。世帯数70程度でもいろいろなことが発生する ・月当たり、町会関連に使っている時間（純時間）が11月だと16時間ほどとなっている
	・婦人部や老人クラブもなく、すべて町会長の負担となっている。子ども会育成委員も25年間やっている。だから、夏まつりでの子ども参加や児童センターの援助もあり、一輪車、よさこいなども出演してくれている。後継者づくりや町会に対しての協力をしてもらえる人を探し、町会のリフレッシュを図りたいと思っているがなかなか… ※エリア担当との協力・共同などはなかなか行かない状況。夏まつりへの参加ぐらいかな。
町会長として思うこと	・「志高く　大きな心で　人のために」。これは私たち町会役員の目標だ。「大きな心」とは、思いやる心、支え合う心、慈しむ心、許す心、と定めている。目指す大人の姿が見えてくる目標であり、私たちの町会活動の指針となっている。私には抱く志がある。子どもたちが「ここで育ってよかった」、父母が「ここで子育てができてよかった」、お年寄りや地域の人々が「ここで暮らせてよかった」と思えるような魅力ある町、地域にしていきたい。一人一人が生き生きと笑顔で心豊かに暮らしていけるように…それが次世代に続いてほしい
	・町会の活動はなんとしても人のつながりが一番大事だと思っている。なるべく町会をまわって声がけをすることをしていきたいと思っている
	・弘前市は災害が少なく、自然に恵まれた環境で素晴らしい街である。当町会は、その中でも恵まれた家庭が多く、間もなく創立30周年を迎えることに感謝している日々である
	・みんなで仲よく、楽しく暮らしていけるよう努力している。生まれ育てられた地元だから
	・元々からの居住者が多いが、子どもが大人になって独立し、他所に住むようになり、親だけが残り、当然高齢化が進んでいる。したがって、町会活動への参加は限定された人たちになり、活動も役員任せとなる。今後、これまでの活動の流れを切らすことなく将来に継続させたいものと考えているところである
	・町会活動を常に全町民に深く知ってもらい、各種行事に積極的な参加を望み、また、近所の付き合いを大切に、明るく、楽しく元気のある町会づくりに取り組んでいるところである
	・地域の大人が地域の子どもたちを支え、育てるとともに、高齢時代を支えていかなければならないと感じている。それとともに、隣人愛を持って常に地域社会の実情を把握し、誠意を持ってすべての人々と協力し、明朗で健全な地域社会づくりに努めたいと思っている
	・町会長自ら明るく仕事をすると、町会も明るくなる　・子どもが少ない、増えない
	・何かのご縁でこの地に住むことになった人々に、住んで良かったと思われる地域にしたいと、どこの町会長も思っている。地域の運営は人々が集い、つながり、喜びの笑顔が交わるよう、交流の場（企画）、語らいの場（活動）作り等で気脈を合わせていくことが必要だと思っている

■自由記述

町会運営・町会活動について	①当地区は、地元生まれが約20%、転入新規者が約80%の割合だ。しかし、活動する役員や団体の構成員の70%の人が地元生まれの20%で占めている。新規居住者等は、生活、子育て等で余裕がないのが現状だが、そのような人からも町会運営に意見が反映されるように工夫している ②町会への未加入者があり、特に借家への転入者が多く加入しない傾向にある。理由は「近所付き合いがわずらわしい」「市の広報等は公共施設に行けばもらえる」「町会費を払うお金が無駄」「班長業務をやれない」などの意見。このような人へ説得してもなかなか理解してくれない。このような人が今後増えるものと思う。対策に苦慮しているところだ
	①一人暮らし高齢者の見回り組織（孤立・孤独死防止）と、図書を仲立ちとした「図書宅配活動」を広めたい（現在試行中）。将来、規模を広め、子どもから大人までの組織を作り、「町内交流」の機会を多くしたい ②高齢者の活用。寺子屋…知識ではなく「知恵」を子どもたちへ伝えたい ③町内みんなの「仕合せ活動」…町民が楽しく生活できるよう、意見を出し合う投書活動 ④盆踊り等町会交流の場を設ける　⑤音楽クラブ（合唱童謡サークル）
	①問題を共有すること。押しつけ運営は一番嫌な件であり、派閥を作らないこと ②役員同士の連携を重要視　③何でも小さな問題でも解決してあげる ④他人の揚げ足をとらないこと　⑤会費の使い道・報告書の件 ⑥町会費をいただいている以上、町会民への還元　⑦町会に入ってよかったと思わせる利点
	・町会長の判断でものごとを決めてしまうところ（補佐する相手に力量がない）
	・当町会は加入率100%で全世帯（生活保護世帯は除く）が町会に加入している。この良習を継続していくためにも、町会役員が一丸となって仕事をしていくことが必要だと考えている
	・役員に手当を支給しているが低額なので増額したいが、一部の役員の反対で実現が不可能となっている
	①小学生は集会を行うことで町会活動を行うことができる　②集会所が必要
	①町会運営に実質必要な役員…町会長１、会計１、民生委員２　②アパートなど町会協力費徴収の仕方の工夫　③文書作成のためにワープロまたはパソコンの技術者が必要…町会名簿、会計簿、町会協力費依頼、諸行事連絡等の資料、町会民死亡の通知等年間150枚程度の印刷物がある
	・会議及び行事がある時に参加者が多くほしい
	・会議では発言するだけで実行されない。特定の人だけが動いて負担が多い
	・住民が少ないため活動がままならない
	・町会行事・イベント等がマンネリ化の傾向があるので、常に新しいことを手掛けるよう考えているが、そのとおりに行かないもどかしさがある
	・現状の活動を維持し、町会員の連絡を密にしていきたい。町内の病院が翌年（H29年度）に移転することに伴い変動が起きるのではないかと考えている
	・町会親睦のため年２回グラウンドゴルフ大会をやり終わってから、町民会館で、青年、老人で反省会をして親睦を高めている。ねぷた愛好会では毎年ねぷた運行に参加しているので、町会も一緒に参加して若者たちと話をしたり、屋根の雪下ろしなどで一緒に作業してもらっている
	・町会長になってまだ５ヶ月くらいだが、予算の見直しや若い人からお年寄りまで参加できるような行事を29年度に計画したいと思っている
	・町会は任意団体であるが、地域社会の発展維持のために必要な組織である。日本の社会福祉制度は充実され、他人の世話・援助を受けなくても最低限度の生活ができるようになった。その結果、近所との付き合いが疎遠となり、地域連携の意識が希薄となり、隣の家に誰が住んでいるかも把握していない場合がある。町会はこの現状を踏まえ、高齢化社会への対応策として、若い人を町会組織に積極的に参加させ、地域共同体としての役割の活性化を図っていかなければならないものと考えている
	・当町会の会員数は、回答日現在で116軒、その中で賃貸住宅が39軒である。春の移動時期になると、何軒移転するのか気になるところ。また、弱小町会の辛いところで、思い切った事業ができない。接点をつくるチャンスが少ないため、普段の生活の中で密着度を高める必要があることを考えている
	・年２度の児童公園清掃には、奉仕活動の巧みさ、見事さを要求しているのではなく、顔合わせの場であるとお考えくださいと、昨年から強調しているが、いまだの感。集積所の例をとっても、清潔で、隣人とより協調できる町会集団であることを希望するのみである
	・比較的新しい町会ですが、20数年を経てやっと町会活動の充実感を感じている。若い人たちが多く、役員も積極的に受けてくれている。高齢者も他町会より少なく、役員のみんなで手分けして見守ってもらっている。個人としては非常にまとまった町会だと思っている
	・町の活性化と昔のように栄えた町造りを目指して町民一人一人努力していると思う。特に、青年部、婦人部が積極的である

■自由記述	
町会運営・町会活動について	・町会の外での活動は平日対応がほとんどで、仕事を持っている人では、なかなか対応できない。したがって若年の町会長は一人もいない。これでは町会活動は活性化しないと思う
	①住民サイドに立った町会の運営　②予算の適切・適正な支出　③住民の相互理解と信頼と親睦を図る　④住みよい町づくりに努める…除排雪、道路整備、ゴミ置場の整備等環境に係ること、高齢者の福祉　⑤子どもの健全な育成　⑥行政機関や各種団体の協力
	①町会の予算が少ないが、上げることが困難　②そのことから町会の活動ができない ③寄附する農家はいない　④ボランティアをする人もいないのが現状　⑤高齢化で人が減少している ⑥自分のことで精一杯である
	①公務員、特に役所、先生定年者のボランティアがいないこと、参加者がいないのがネックである ②冬季になると、除排雪のボランティアがいないこと。高齢者一人暮らしの人の生活道路及び除雪車後の排雪に苦労している状況である
	・私ども町会は、地区を退会し現在に至っている。町会組織としては、三役、総務、青年、少年、成年、高齢者とそれぞれ役割分担ができ、事業開催にはあまり支障は感じられない。特に子供会・青年部に力を注ぎ、活動強化に努めている。今後はこの活動が一人でも多くの地域住民に浸透させ、参加してもらえるようにきめ細かな対応が必要だと思っている
	①地域住民に会議等で決定した重大なこと、事業を始めること等についても情報を提供し、協力を求める　②町会長のリーダーシップ
活動場所について	・町会事業の計画や実施手順についての協議等は、町会三役（会長・副会長・総務）がその都度、町会長宅へ集合し実施。三役の決定案は年６回の役員会（三役・各部長・各世話人）へ諮り、その集会場所は隣町会の会館を拝借し事業活動している。役員会による決定事項の周知や報告は、月末に発行する町内広報紙で、緊急事項の連絡は回覧文書を作成し、各世帯へ周知し情報交換している。ところで、当町会には集会所がない。集会所がないことによる不便さ、町会活動によるきめ細かいサービスの低下はあると感じる。あればあったなりの維持管理の必要性も十分に理解しているが、何分にも我が町会にも高齢化の波が押し寄せ、一人世帯や高齢世帯は半数あるかと思われ、その中で寂しい気持ちを伝える人の声も聞き及んでいる。集会所が人を呼び、その人の和が町会を活気づける手段として、今切に集会所があればと思うところだ
	・昨年から町会広報紙を２ヶ月に１回、年６回発行し、町会活動・地区・市の動向を町民に周知する活動を展開したところ、町民の情報共有が図られたと喜ばれている。ただ、当町会の最大の課題は、集会施設がないこと。自主防災会の避難場所もままならない状況。何とか拠点施設があればと思い悩んでいる
	・私たちの町会には、町民が自由に使用できる集会所が無いため、高齢者でもできる軽スポーツ（グラウンドゴルフ・ペタンク・ターゲットバードゴルフ等）も用具を持参し、説明してもまったく駄目の状態だ。もしも集会所があれば、上手下手を別にし、いろいろ雑談が可能だと思うが、今のところ、いくら旗を振っても誰も見向きもしてくれない。このような状態である
生活環境について	・空き家がだんだん多くなってきており、敷地の雑草や建物の破損などで地域の環境面で心配している
	・今のところ、普通に暮らしていく分には何の不自由、不満もない。ただ、一つだけ挙げるとすれば、通信機器が使えないことである。携帯電話は圏外のところが多く、インターネットは電話回線でなければ使えない（ADSL・光は×）。県外からの移住希望者もあったが、それが理由で断念したケースがほとんどだ。今は山に入る時には携帯持参、PRにはインターネットの時代だ。県・市・通信会社のご理解・ご協力を切にお願いする
	・区画整理事業が進行中のため、住民が少数となっており、運営上支障をきたしている。このままでは町会そのものがなくなってしまう危険があると感じている。以前住んでいた住民は戻ってくる様子はなく、新しく入居する住民は町会に積極的に入ってくれる気配はない。非常に悩んでいるところである
	・世帯数の半分以下の人が町会に住んでいる状態。他の人は住所が別な場所
行政への要望・意見等	**配布物について**
	・役所から文書、広報などの回覧が多すぎる ・市営住宅ですが、入居者の人選をしっかり見て入居させてほしい（草取りもしない、雪片付けもしない） ・入居者には共益費500円を支払ってもらっているが、町内に１人だけ支払っていない人がいる。役所に話はしているが、解決していない
	・市からの広報は月２回だが、量が多く、特にカラー印刷の広報が重くて苦労している。その他回覧文書が多い
	・行政からのポスターが多すぎる。どこの町会の掲示板もポスターを貼るスペースは２～３枚だと思う。まだ行事が終了していないのに次から次へとポスターが送られてきて、大変困っている。腹が立つ
	・市の広報誌をもう少し早く届けてもらえるとありがたいのだが

■自由記述	
行政への意見・要望等	・市役所や地区町会連、地区社協、その他の団体からの配布物が非常に多く、担当の役員が各組役員に区分けして配布するのが大変だ。町会長が車を出して手伝いをすることもある。各家庭や学校の樹木からの落ち葉の清掃をする人、道路の草取りをする人、一人暮らしの高齢者を見守る人など、積極的に活動している人々がいるので、大変助かっている
	市からの依頼・業務量について
	・町会長の仕事が多すぎる。市からの書類の数が多すぎる
	・町会長は行政から委嘱されたものでなく、町会から推薦され町会運営を基準とすることを行政は考慮してほしい。市町村合併前に比べ毎戸配布物や調査依頼等、その量は過大である。町会長は行政の便宜的なものとしか考えていないような感がする。ただ単に依頼する前に行政で対応できないか、毎度よく考慮してほしい
	・募金活動が多すぎる（たすけあい、赤十字　赤い羽根、交通災害共済等）　・他団体よりの回覧文書が多い（東北電力、JR東日本、交番便り、学校便り）　・役員の高齢化、若者の後継者が少ない
	・町内活動に対する関心の低下、高齢化など問題が多い中、市から健康サポーターの選任などの依頼があり苦慮している
	・町会に対する、あるいは町会長に対する手当など、市の業務が多いのに対応していない。市は町会長を手足に使うことを当然のようにしており、町会長になった時から驚いている
	・広報ひろさき以外の回覧が非常に多くなって、配布物（広報ひろさき）やポスター・チラシなど、手数が倍以上かかる。広報ひろさきだけにしてほしい。また、広報ひろさきの枚数が多くなったので大変である。事務費交付金を増額して町会の役員に配達してもらう費用にしたい ・当町会ではエリア担当も入れて町会理事会を行っているが、他町会のエリア担当がどのくらい参加して、どんな情報を提供しているのか知りたい ・市から依頼するものが以前に増して多くなっており、町会長の仕事量が多くて消化しきれないでいる
	補助金等について
	・事務費交付金の増額をお願いしたい
	・町会活動を市として支援していくことが目的であるならば、その活動を促す補助金の申請制度をもっと簡略化すべきである。今年度初めて１%システムの申請をしたが、書類の多さに閉口した
	整備等について
	①毎年のように雨が降ると緑ヶ丘方面の坂より側溝にあふれた水が住宅等に押し寄せ困っている。早く側溝を直してもらいたい ②今近くの側溝を直しているが、当町内の方が水があふれているのにと町民は怒り心頭である
	・公園（当町会内）にある遊具がだいぶ腐食しているので、新しい物と交換してほしい
	・市道沿線の雑木等の伐採について道路維持課は調査等を行っているのか。そしてその対策は？
	・小学校以外の運動広場がないため、住民交流の機会が制限されている。グラウンドゴルフ等を定期的に実施するような場がほしい
	・河の中の柳、アカシヤの木を伐採してほしい　・研修会館の前の所にガードレールをつけてほしい
	・杉並木の落葉に各自協力的に清掃しているが、内心不満があると思っている。私自身も杉がないほうがいいと思うくらいだ。強風の後などはパトロールをしてもらい、落葉の清掃にも気を配ってもらいたいとの意見が届いている。景観上なくすことができないと言うのであれば、杉落葉の清掃に市はもっと関わってもらいたい
	・町会長はいろいろと気苦労の実に多い役割を担い果たしていると思う。当町内区域には旧城下町の武家屋敷の雰囲気をとどめる黒門（3ヶ所）や生け垣等が点在しているが、これらを何とか存続させるのに適用できるような方策を検討してもらえるよう要望する
	雪対策について
	・これからが雪の季節。除雪ではなく、排雪・消雪に要点を置いて対策してほしい（特に小路・路地の雪対策だ）
	①ご近所の底力を育成したい　②雪置き場を設けたいので、市でサポートしてほしい ③消雪・融雪活動を支援してほしい
	その他
	・子どもの新入校時の選択についてだが、できることであれば各町会区内への入学をお願いする。学校行事、町会行事、いろいろの活動運営への参加、また、役員の選任にも大変だ。両校の役員にならなければならない。特に学校行事等には日時が一緒になることが多くあり、ぜひ行政で検討をお願いする（各町会区内で）
	・町会長になりやすい環境づくりを行政としても考えてほしい

■自由記述

行政への要望・意見等	**その他**
	・町会費の未収は「０」であるが、関心度も「０」に近い。町会のあり方について今後自治体は真剣に考えていく必要がある
	・当地区市政懇談会で市長は「児童館はなくなることはありません」と私の質問に答えている。私も安心していたが、現実として平成31年３月には児童館は閉鎖することが決定されている。指定管理が運営しているが、弘前市として集会所のない私たちの町会の拠り所として地域の活動拠点としても、建造された意図があったと思う。児童館としての機能は他の場所でも行えるが、集会所として残すことはできないのだろうか。このアンケートが市長からの調査であれば、私たちのこの不安な現状を市長に伝えてほしい。神社庁では町会のために建物は残しても良いと返事をしてくれている。問題は維持費である
	・敬老の集い（9月開催）の出欠調査の締切日が早すぎる（7月末）。もう少しゆとりがほしい ・市社協依頼の高齢者（1人暮らし）の間口除雪については、役員が分担して実施しているが、年々役員も高齢化し、かなり厳しいものがある。学生や若い人たちのボランティアの呼びかけはできないものか ・冬場に傷んだ道路の補修をいわゆる天プラ舗装ではなく、しっかり直すことはできないものか ・空き家が増える傾向にある。対策をお願いしたい
	・若い世帯の入居が少なく、年齢的に高齢化が進んでいる。一人暮らし、高齢化している世帯を対象にさまざま声がけ（イベント・食事会）で誘いをかけているが、参加しない人はどう手を変え、品を変えても出てこない。募金については、町会費を値上げして、そこから支出するという意見がたびたび出るが、孤独死を防ぐため、大変面倒で手間もかかるが、班長さんに回ってもらっている。市報もできるだけ各家庭へのポスティングをお願いしている。あと、困っているのは空き家が増えていること。行政として介入は大変だと思うが、例年、除排雪で困ることがあり、町会では空き家の持ち主が分からないため、何も手を打っていない状況である。倒壊の危険のある建物は現在ないが、今後出てきた場合は何らかの支援をいただきたい ・何かこのアンケートで成功例・失敗例の集計ができたら参考になるので、情報をフィードバックしてほしい ・今、当町会で心がけているのは情報のオープン化だ。月一度の定例会でできるだけオープンにして区長さん以上の人に町会としても動きを理解してもらっている ・ここから入ったら町会の集会所あり→のような看板を作ってくれないものか
	①住民の高齢化に伴い、一人世帯が多くなり、ここ2,3年で孤独死も増えている。今のところないが、今後、長期間誰にも気づかれず、ということもありうると思う。そのようなことにならないように、市側の何らかの対策を望む ②新旧住民、ほとんどが町内会への関心がない。配布物、掲示物を見ない。ゴミ出し、駐車場などの町内会ルール・マナーを守らない ③（県営住宅）除雪に関して、住民の高齢化により駐車場に重機を入れているが住民負担が大変だ。県は駐車料金の徴収はするが、除雪はしてくれない。市から県に何らかの対応策をしてもらえるよう働きかけをしてほしい ④（県営住宅）新住民の連絡先が入居時に県の公社と管理人からも教えてもらえず、入居後の連絡が取れずに困っている。個人情報保護法によるものだと思うが、入居時に町会長には伝えるようにしてほしい
	・町会役員に成り手がない。特に年金受け取り年齢が65才になってからその影響が大きい ・少子・高齢化は厳しい　・町会長が長いので、早く次世代に引き継ぎたい ・町会長へのアンケートも一理あるが、町内の声として、市役所職員からアトランダムに地区別にでも抽出して町民の声を確かめる方法もどうでしょうか。結果は統計処理後に一般化して町会へ知らせる
	・若い役員が少なく、高齢化が進んで、新しい事業に挑戦できていない。自主防災組織やまちづくり１％システム事業等。次年度からの町会長に期待したい。また、弘前市エリア担当制度を活用できず反省。要望通りできないこともあったが、道路維持課の対応が早く、現場で説明してもらい、町会の人にも報告できた。感謝している
ゴミ出しについて	・ごみの出し方が非常に悪い…例）可燃物の日にビン・カン・不燃物等を出す、日にちに関係なく出すなど。その都度回覧等で警告しているが。ごみ集積所は町会の顔となっているので、今後も見守っていきたい ・今まで町会運営に対して会長まかせで運営に当たっていたようでした。今後は役員及び町民と共有しながら町会運営に努めていきたい
	・最近脱会した家でゴミ出しを定めた日・時間に出したくないので脱会したいというのがあった。ゴミは市役所の収集車にお願いしている。町会では脱会した人にはゴミ集積所を使用禁止にしている（清掃・除雪を町会相互で行っているため）。ゴミ収集ボックスも町会費で購入している（ペナルティのつもりで話しているが）。 ・市役所の取扱いを知った人には戸別対応していればペナルティにならず、減少傾向に歯止めがかからない

■自由記述

地区・学区について	・連合町会の必要性をアピールする　・連携して活性化に向かっていく姿勢 ・町会費、団体への助成金の見直し ・地区連合会に加入していない町会にペナルティ的なものを与えたらどうか
	・町会自体の運営でも負担が大きいと思っているが、さらに地区連合会の活動が必要なのだろうかと新任町会長として率直な感想である。単位町会と同じような組織を作り、かつ役員派遣等負担が大きく、しかも一部役員による偏った運営になりがちな組織は必要なのだろうかと疑問を感じている。単位町会の上に市町会連合会があればいいのではないだろうか。いずれにしても町会長は忙しいし、上手くいって当たり前、何か問題が起きれば非難される。若い世代が参加・参入できるような町会づくりが必要
	・我が地区には「総振協」：総合振興対策協議会なる任意組織がある。これは弘前市への合併当時に設立された組織である。毎戸4,000円が拠出され、各組織（防犯、安協、体協、民協、公民館、消防、保健衛生その他）には、これを配分されている。市よりそれにかかわる補助金が出されている。大した事業活動もなく、飲食費、繰越等に充てられている組織もある。毎戸2,000円～3,000円の町会費を集めるのもままならぬ中、毎戸4,000円の拠出費のストップ、あるいは近々組織の解体・廃止を望むものである。私も含め、町会連合会の今の改革、市の指導も期するものである
	・地区の町会長会議が多すぎる
	・小学校の学区が２学区存在 ①町会に小学校の学区が２校存在し、学校行事がすべて重複する ②学区（学校）が異なるため、町会行事（ラジオ体操・餅つき・キャンプ教室・スキー教室等）に参加しない学区がある。保護者も同様で、行事の前には各学校に出向き、学区に関係なく町会行事である旨を説明し、回覧等で保護者にも強力に参加を促すが、学区が違う意識が強く、参加が少ない。特に「ふれあい講座」等は、中央公民館が主体となっているため、町会民でありながら、違う学区の児童や保護者は参加しない ・学区を単位としている組織・団体が多いため、すべて２学区の組織や団体に交付金・負担金を納付している ・高齢者が年々多くなり、町会からの脱会者が増加している。また、町会役員も後継者が少なくなり、役員自体が高齢化している ・町会がマンモス化し、なかなか町会の意志が通じない面がある。班体制の改革や自主防災組織の結成、除雪ボランティア等も、なかなか協力を得られないのが現状である。特に除雪ボランティアは役員等の「老々除雪」になっている（軽易なものや自分に合ったことは積極的な協力が得られるが、ほかは得られないことが多い） ・ごみ集積所で、県道・市道に設置されている場所に、他の町会からの持ち込み投棄が多く、収集日・区分が守られず、集積所の付近住民に迷惑をかけている
	・鬼沢・楢木地域は、自得学区としてまとまっているが、行政区分けでは裾野地区になっている。特に40代以降の人たちは、北辰中学校として高杉地区との関わりが多く、裾野地区とはまったく接することがない。連合会組織としては、裾野地区ではなく、自得学区とするか北辰学区とすることが自然な形ではないか
	・年々行事が多様化し、仕事をしながらの役務も難しくなっている。専従的に行わなければ町会長としての役割を果たせないので、役員としての選任も大変である。特に地域における各委員会（社協、安全協会、体協、防犯協会等）の会議も多く、地域単位の各委員会は活動内容を見ても不必要に思うので、検討すべきである
その他	・アパートに関する意見 ①ごみ箱の設置について、現状の箱は小さいので大きめな箱の設置を指導してほしい。余ると近場の町会の箱に入れている。町会費未納者がほとんど ②アパートの所有者に町会費納付を指導すること。１棟当たり年間大・中・小と区別して、１棟当たりの金額を決める。大10,000、中7,000、小5,000 ③アパート近辺を美化、草取り、ゴミ拾い
	・他の町会長及び役員の方の報酬額はいくら位なのか。町会名は出さなくてもよいが関心はある。また町会費はいくらなのかも知りたいと思っている
	・町会内に神社が３ヶ所あり、修理の問題点がある
	・町会のゴミ捨場をもっと地域に設置。掲示板を公園等に新設
	・市のごみ袋がドラッグストアで148円で売られていた。町会連合会での販売が250円だ。回覧をしても売れないのはそのせいかと。ドラッグストアで売れるなら、地元の店で販売してもらってマージンを与えた方が、町会としても負担がなくなるので一考をお願いする
	・町会の必要性が感じない

Ⅱ

資料集

目　次

資料集
53　1．市が行う町会活動支援事業一覧
55　2．町会活動の活性化と加入促進について
60　3．市民アンケート調査結果

市が行う町会活動支援事業一覧

※事業内容はH28年度のものです。

No.	名称 担当課	内容 補助・助成金額等
1	**町会等事務費交付金**	広報の配布など、市の事務へ協力している町会に対し、交付金を交付
	市民協働政策課（☎35-1664）	１町会につき、 ・基本額10,000円＋700円×町会加入世帯数（毎年4月１日現在）
2	**街灯交付金**	街灯の維持管理を行う町会等に対し、電気料維持管理費の一部を交付
	市民協働政策課（☎35-1664）	補助対象は、東北電力株式会社その他の小売電気事業者と公衆街路灯契約をしている街灯（街路灯Aまたは街路灯B契約） ・町会が小売電気事業者へ納入した半期分の街灯電気料金に、街灯維持管理費として電気料金の７%に相当する金額を加算した額。
3	**町会集会所設置事業等補助金**	町会が設置・管理を行う集会所の新築・修繕等に係る経費の一部を補助
	市民協働政策課（☎35-1664）	補助対象経費の２分の１以内の額 ※補助対象経費が50万円以上となる工事等が対象（排水設備の新築工事は除く）
4	**弘前市市民参加型まちづくり１%システム**	地域の課題解決や活性化につながる活動に対して補助金を交付
	市民協働政策課（☎40-7108）	対象経費の90%以内の金額（原則50万円を限度とする）
5	**市民活動保険制度**	町会活動などの地域活動や、ボランティア活動といった、市民活動中の思わぬ事故をサポートする保険制度
	市民協働政策課（☎40-7108）	
6	**エリア担当制度**	各地区や町会にエリア担当職員を配置し、地域のパイプ役となり、情報発信や課題解決に一緒に取り組む事業
	市民協働政策課（☎35-1664）	・地域の実情把握や行政情報の提供 ・担当エリアにおける課題解決のための協力　など
7	**自主防災組織育成支援事業費補助金**	自主防災組織結成時における防災資機材購入費用等補助
	防災安全課（☎40-7100）	・60万円（補助対象経費の総額）を上限
8	**市内の河川および河川施設の管理協力金**	市内の河川および河川施設等において、除草並びに清掃等の維持管理に協力している町会へ謝礼金を交付
	建設政策課（☎40-7051）	管理協力面積による
9	**町会等側溝清掃報償金**	側溝清掃に対し報償金を支給
	道路維持課（☎32-8555）	清掃１回につき１万2,000円（年２回を限度として支給）
10	**町会等除雪報償金**	市が除雪作業を行う路線以外の生活道路の除雪を行う町会に対し報償金を支給
	道路維持課（☎32-8555）	１ｍあたり200円
11	**小型除雪機貸出**	冬期間における快適な市民生活の確保を図るため、生活道路などの除雪活動を実施する町会等に対して、小型除雪機（ハンドガイド）の貸出を実施
	道路維持課（☎32-8555）	随時受付（ただし、貸出可能台数に限りあり）
12	**地域除雪活動支援事業**	個人所有の小型除雪機等を利用し、市の除雪作業が行われる生活道路の除雪活動を実施する町会に対し、報償金を支給
	道路維持課（☎32-8555）	・小型除雪機等の燃料費　　・作業に係る車両などの保険加入費
13	**町会雪置き場事業**	町会のための雪置き場として空き地を無償で提供した場合、この土地に係る翌年度の固定資産税および都市計画税の３分の１以内を減免
	道路維持課（☎32-8555）	・空き地提供の際に、地元町会長と無償で土地使用貸借契約を結んだ人 ・雪置き場面積は200㎡程度以上で、農地は対象外 ・対象地に係る翌年度の固定資産税及び都市計画税の３分の１以内
14	**都市公園等管理協力事業**	都市公園等の管理協力町会へ、管理用具および謝礼金を支給
	公園緑地課（☎33-8739）	・支給物品…ゴミ袋、草刈鎌、熊手、ひばさみ等 ・ゴミ拾い、草刈、異常時の通報…面積により年6,000円～4万7,000円
15	**防鳥ネット貸与**	ごみ箱などを設置していないごみ集積所に防鳥ネットを貸与
	環境管理課（☎32-1952）	貸与対象となる集積所 ・箱型のごみ箱からごみが溢れている集積所 ・その他防鳥ネットを必要とする集積所 貸与対象とならない集積所 ・集合住宅（アパート等）専用の集積所
16	**アメリカシロヒトリ防除用噴霧機貸出事業**	町会に対しアメリカシロヒトリ防除用動力噴霧機を無償で貸出
	環境管理課（☎36-0677）	①背負い式動力噴霧機　66台 ②タンクキャリー式動力噴霧機　10台 ③自走式動力噴霧機（薬剤用200リットルローリータンク含む）　3台
17	**ごみ集積ボックス設置事業費補助金**	ごみ集積ボックスの設置に係る経費の一部を補助
	環境管理課（☎32-1952）	・ごみ集積ボックスの購入費 ・自らごみ集積ボックスを作製する場合の材料費 ・１基につき、補助対象経費実支出額の合計額の２分の１または10万円のいずれか少ない額
18	**再生資源回収運動**	再生資源回収運動を実施した団体に報償金を交付
	環境管理課（☎35-1130）	回収量１kgあたり４円 対象品目：紙類、アルミ缶、布類、びん　など
19	**子ども会活動推進事業**	地域のこどもの健全育成および地域コミュニティの活性化に寄与する事業を募集し、審査会で採択された事業費の一部を補助
	中央公民館（☎33-6561）	以下の２点のうち、いずれか少ない額（５万円を限度） ・対象経費の90%以内の額 ・対象事業の支出総額から補助金以外の収入（参加費、補助金等）を除いた額

一般財団法人自治総合センターによるコミュニティ助成事業

（一財）自治総合センターによる助成事業で、市が申請の窓口になっています。

No.	名称 担当課	内容 補助・助成金額等
1	**一般コミュニティ助成事業**	コミュニティ活動に必要な設備（備品等）の整備に関する経費について助成
	市民協働政策課（☎35-1664）	１件につき100万円から250万円まで
2	**コミュニティセンター助成事業**	住民の需要の実態に応じた機能を有する集会施設（コミュニティセンター・町会集会所等）の建設整備に関する経費について助成
	市民協働政策課（☎35-1664）	対象事業費の５分の３以内に相当する金額（上限1,500万円）
3	**青少年健全育成助成事業**	親子で参加するスポーツ・レクリエーション活動に関する事業、文化、学習活動に関する事業、その他コミュニティ活動のイベント等に関する事業について助成
	財務政策課（☎35-1110）	１件につき30万円から100万円まで

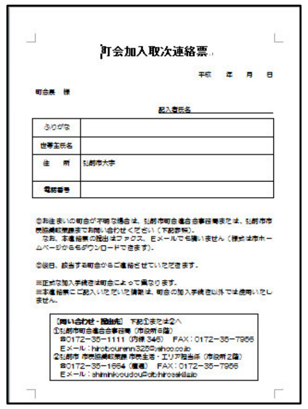
町会活動の活性化と加入促進について

市と町会連合会との協働による取り組み

加入啓発チラシ・加入取次連絡票の配布

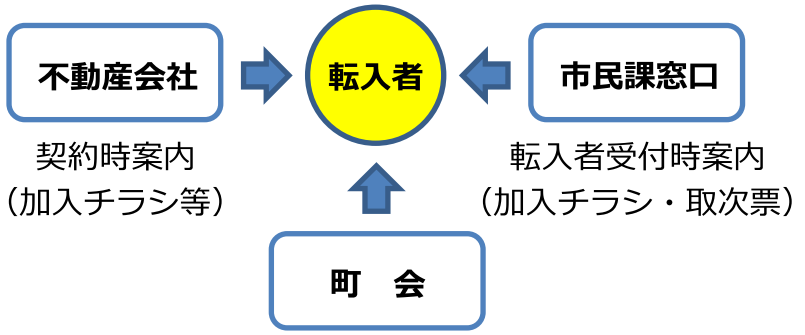
転入者への町会加入の呼びかけおよび、広く市民への町会活動の周知を図るため、市民課窓口において町会加入啓発チラシと町会加入取次連絡票を配布し、転入者が町会に加入しやすい仕組みを整備している。

チラシ



町会加入取次連絡票

■転入者に対する町会加入の声掛け体制のイメージ



新規居住者への声掛け

加入促進キャンペーン

市と弘前市町会連合会では、平成27年度に引き続き、平成28年4月1日・4日・5日の3日間、市役所1階ロビーにおいて、町会加入促進キャンペーンを実施。

28年度のキャンペーンでは市役所を訪れた市民の皆さんに、町会活動に関するアンケートを実施。アンケートに回答してくれた人には「たか丸くんオリジナルクリアファイル」と町会の活動について掲載されたチラシなどを手渡して、町会活動のPRおよび加入の呼びかけを行いました。

また、町会連合会facebook等でも取り上げた特色ある町会活動の様子を写した写真や町会の広報紙をパネルで掲示し、町会活動への関心が高まるよう啓発を行いました。

■学生向け地域コミュニティ啓発キャンペーン

平成28年10月22・23日の２日間、弘前大学総合文化祭における市役所ブース内において、学生向けの地域コミュニティ活動啓発キャンペーンを行いました。

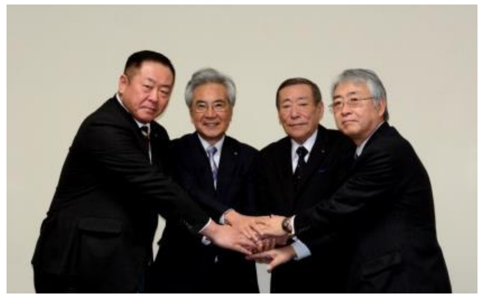
キャンペーンでは、文化祭を訪れた大学生などの次世代を担う若者を中心に、学生の地域活動に関するアンケート調査を実施。アンケートに協力してくれた人に、「町会加入啓発チラシ」等を配布し、地域活動や町会活動についてPRしました。

のぼり

不動産関係団体との連携

平成27年２月10日、「弘前市における町会活動活性化に関する協定」を締結。

（協定締結団体）
・公益社団法人　青森県宅地建物取引業協会
・公益社団法人　全日本不動産協会青森県本部
・弘前市町会連合会
・弘前市



■三者協定に基づく各団体の役割

○弘前市町会連合会

単位町会との調整を行い、町会を担う人材の育成、町会活動の一層の促進など町会運営の充実・強化を図るとともに、町会活動促進に関する事業を行う。

○公益社団法人　青森県宅地建物取引業協会
○公益社団法人　全日本不動産協会青森県本部

在籍する会員を協力事業者とし、町会への加入促進に必要な啓発印刷物等を当該協力事業者の店舗等に配置し、住宅の販売、賃貸に係る契約者へ対し、当該印刷物等の配布に協力する。

○弘前市

「弘前市町会連合会」「公益社団法人　青森県宅地建物取引業協会」「公益社団法人　全日本不動産協会青森県本部」が行う加入促進活動に関する必要な支援および事業を行う。

■協定書提携後の取り組み

上記不動産関係団体の加盟店舗において、町会加入啓発ポスターの掲示のほか、住宅の販売、賃貸に係る契約者へ対し、加入啓発チラシの配布協力を行っている。また、締結団体において年１回の意見交換会を実施している。

市主体の取り組み

まちづくりファシリテーター養成講座

平成27年度から、地域における対話の場づくりや地域でのプロジェクトの企画を担える市民の育成を目的に、地域活動に携わっている人などを対象とした講座を実施。

27・28年度では計49人が受講。市民参加のまちづくりや地域活動を進めていくために必要な考え方や技術を身に付けるとともに、有効なワークショップの進め方なども実践的に学びました。

テレビ広報での町会特集放映

市のテレビ番組『えがお弘前"ビタミンHi（ハイ）"』において、各地域や町会の活動紹介のほか、転入者等に対する加入促進の取り組みなど、インタビュー等を交えながら、町会活動の様子をお伝えしました。

タイトル：「町会ってなんだろう？～地域を支える底力～」

放送日：平成28年６月25日

放送局：青森放送（RAB）

FMラジオでの町会活動発信

FMアップルウェーブ（78.8MHz）の日曜午後５時からの生放送番組「わがままWAVE It's Cool」内のコーナーにおいて、町会やNPOをはじめとする市民活動の実践者が生出演し、活動の魅力を発信している。町会関係では、平成27年度から平成28年12月末までに５人の町会長が出演し、日ごろの町会活動などについて情報発信している。

放送日：毎月第４日曜日、午後５時10分ごろ～

エリア担当制度

市職員（＝エリア担当職員）が町会活動を通して、市民ニーズを的確に把握しながら、行政の立場から地域とのパイプ役となり、地域を後押しすることを目的に実施（平成23年7月～）。

地域側に対し「市民参加型まちづくり１%システム支援事業」や「自主防災組織」の結成などの行政情報の提供を行うなどし、地域活動やコミュニティ活動を活性化していくことにつなげている。

【平成27年度実績】

○配置職員・職員　26地区、87人　　○会議等出席　延べ339回、534人

○案件処理件数　400件

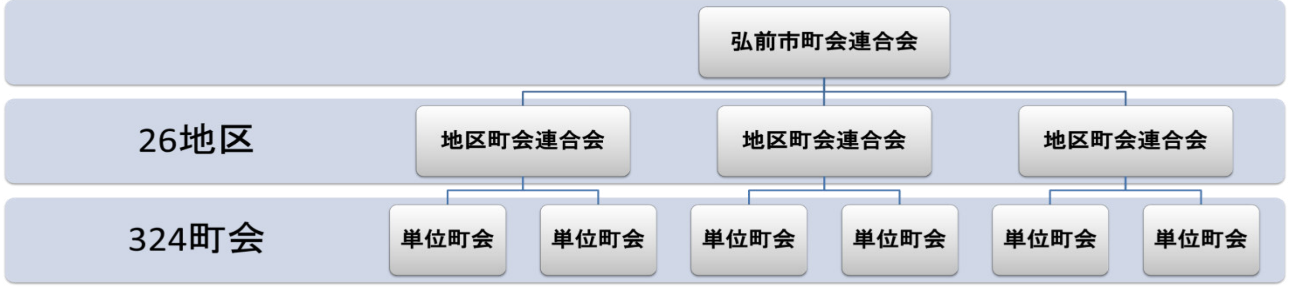
町会連合会主体の取り組み

弘前市町会連合会

市内全域には333の単位町会があり、このうち、324町会をもって弘前市町会連合会を組織しています。(平成28年4月1日現在)

また、これらの町会は26の地区に分かれ、各々地区町会連合会を組織し、その26人の地区町会連合会長が市町会連合会理事となっています。

■弘前市町会連合会組織図



地域コミュニティ強化プロジェクトチーム

平成27年７月より、町会連合会の組織内に「地域コミュニティ強化プロジェクトチーム」を立ち上げ、市と協働で、町会組織を活性化する具体的な方策等の検討を行っている。

【平成28年度検討テーマ】

■第1回（平成28年7月28日）…昨年度のふりかえり、町会のありたい姿を考える
■第2回（平成28年8月29日）…町会活動に関するアンケート調査結果について意見交換
■第3回（平成28年9月28日）…地区での絆やつながりを強くするために必要なこと
■第4回（平成28年11月1日）…学生と町会の関係について

町会連合会公式フェイスブックページの開設

町会連合会では、町会連合会や町会のことを多くの市民に知ってもらうため、平成27年7月17日に公式フェイスブックページを開設。町会連や町会、地域コミュニティに関する情報を積極的に発信している。

町会連合会
フェイスブック
ＱＲコード

その他のデータ

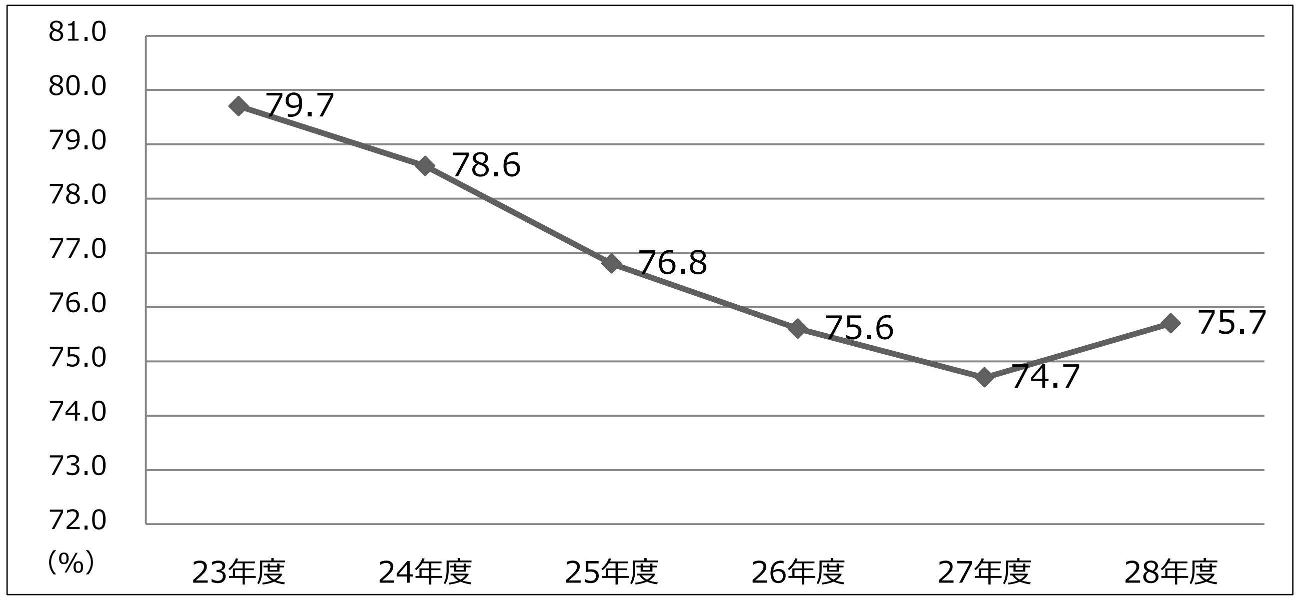
推計人口・世帯データ

（各年度４月１日現在）

年度	人口	世帯数
H25	179,449人	71,669世帯
H26	178,399人	72,365世帯
H27	176,524人	72,489世帯
H28	175,601人	70,862世帯

町会加入率の推移

　加入率は年々、低下傾向にありますが、平成28年度は75.7%と前年比で1.0ポイント増となりました。



メモ

町会活動に関する
アンケート調査
報告書

平成28年6月　弘前市

調査概要

目　的
市民の町会活動に関する意識、活動状況を把握し、今後の町会活動活性化に係る取り組みに反映させるため、町会加入促進にかかる取り組みの一環として行う加入促進キャンペーンにおいて、転入手続等のために市役所を訪れた市民に対し、アンケート調査を実施する。

調査対象
市役所へ来庁した人（キャンペーンブース来場者）

調査方法
アンケート用紙を配布し、記入後回収

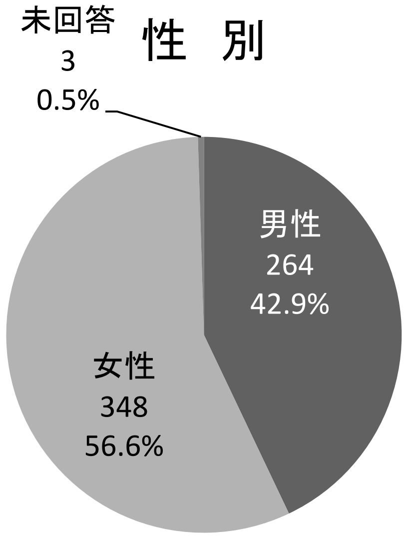
調査期間
平成28年4月1日（金）・4日（月）・5日（火）

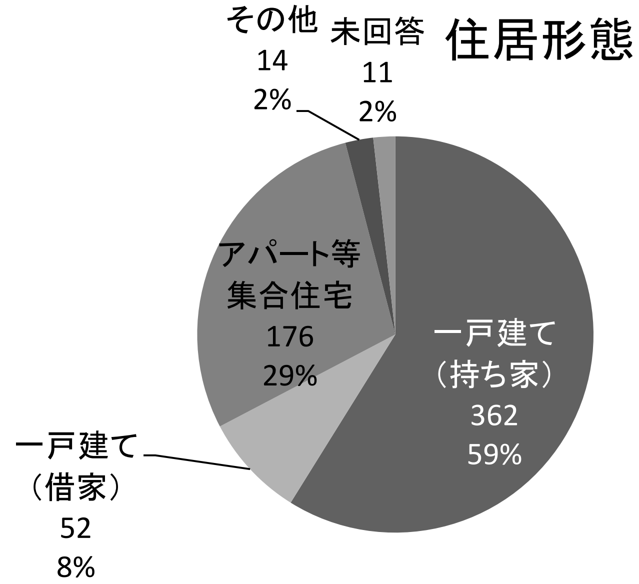
回答者数

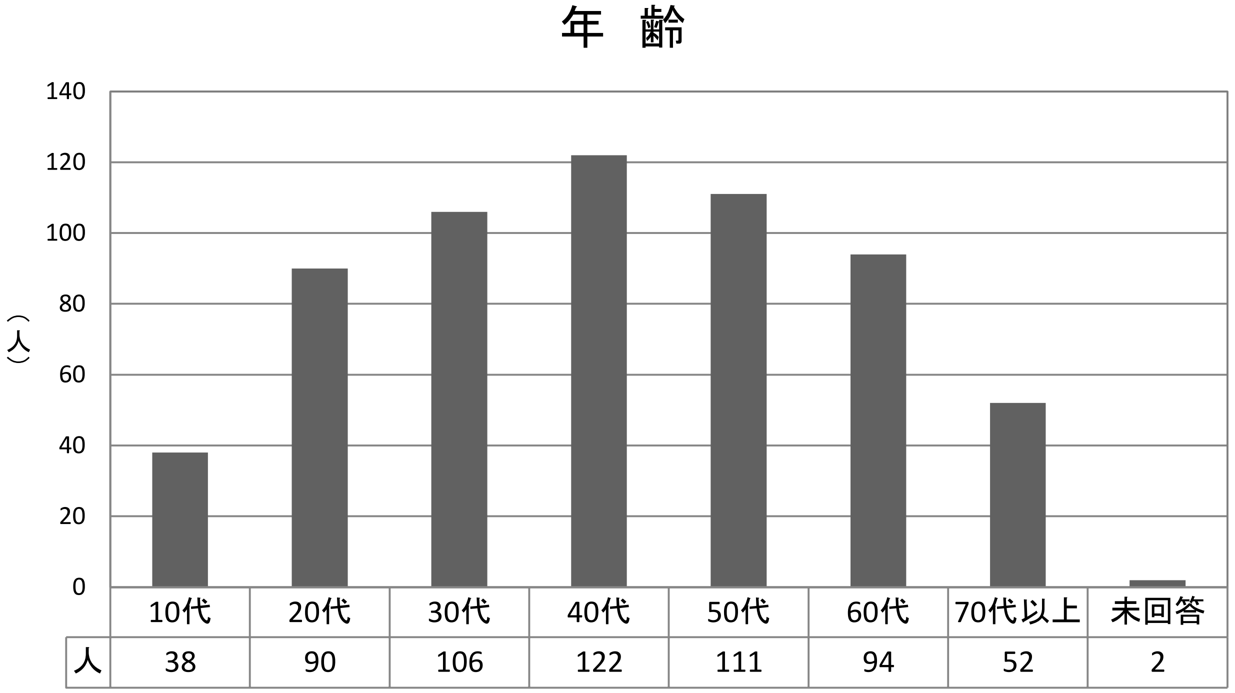
4月1日	4月4日	4月5日	計
211人	212人	192人	615人

その他
その他自由意見については、基本的に原文のまま記載しています。

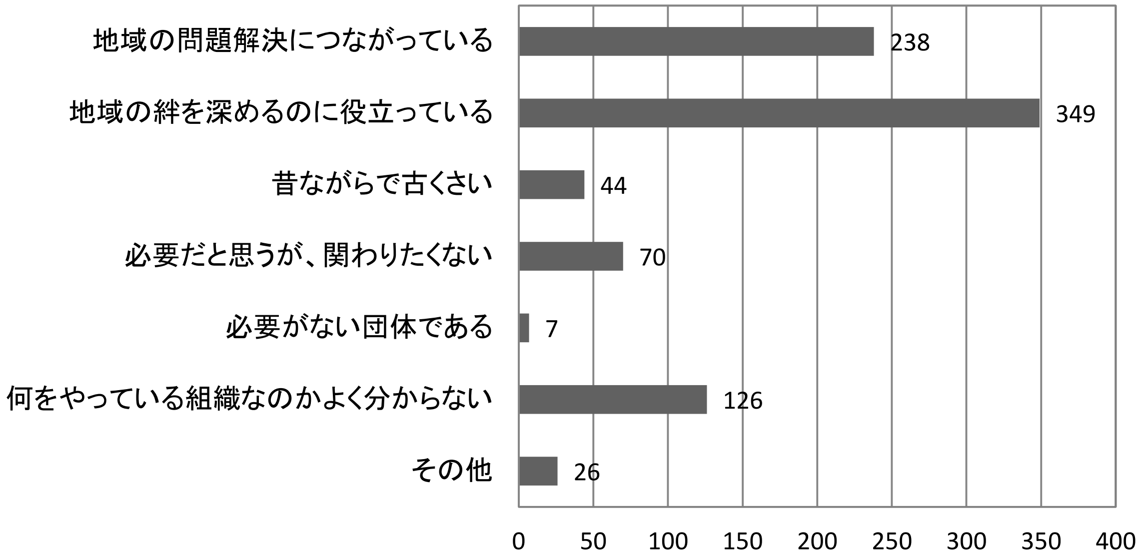
回答者データ





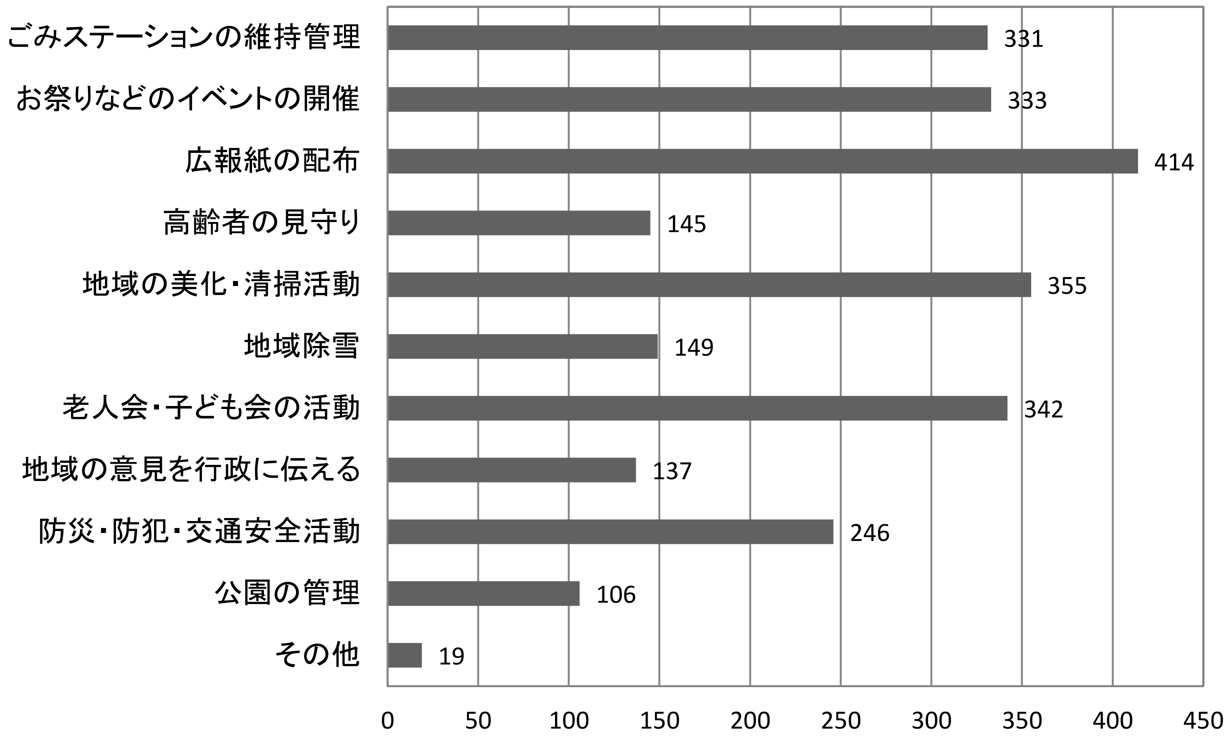


町会について、どのようなイメージを持っていますか。（複数回答可） 1



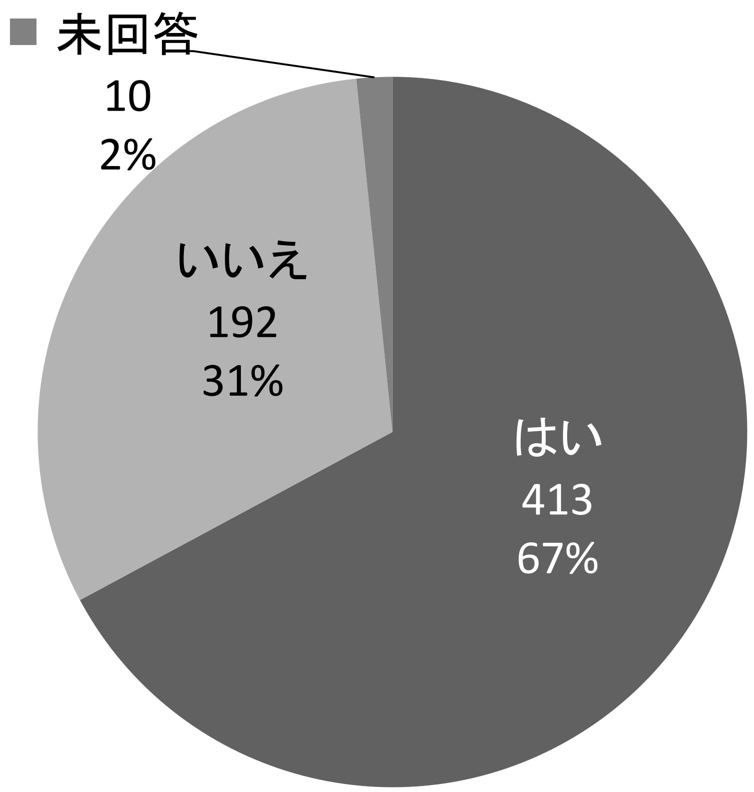
【その他記載欄】
・形骸化している団体というイメージ。閉鎖的で他所者を受け付けない
・雑誌を市の回収日に出しただけで町内の回収に出すよう叱られたりするのはやりすぎだと思った
・若い人は加入していても活動にはあまり参加していない
・より良くしてもらいたくて意見を述べても活かされない
・必要だと思うが、都合によりあまり協力できないので…
・高齢で町内の世話ができず申し訳なく思うこの頃
・何もしない団体
・４月から本格的に住むため、町会についてはまだあまりわからない
・宵宮などのイベントに熱心である
・かかわりたいけど誘いがない
・良い点とそうでない点がある
・町内の人々の絆を深める努力がほしい
・お年寄りの方（高齢の方だけの世帯）が増え、維持が大変だと思うようになった
・会費が何に使われているのかわからない。役員等めんどくさそう
・若者の関わりが少ない
・回覧板で隣近所、元気か挨拶している
・わからない
・必要だと思うが、関わりづらい
・入りたいが、つながりがないので入り方がわからない
・古臭いとは言わないが、少し前時代的になってしまっている
・転入したばかりでわからない
・高齢者が役員というイメージ
・私の住んでるところは不安なし

町会の主な活動を知っていますか。（複数回答可） 2



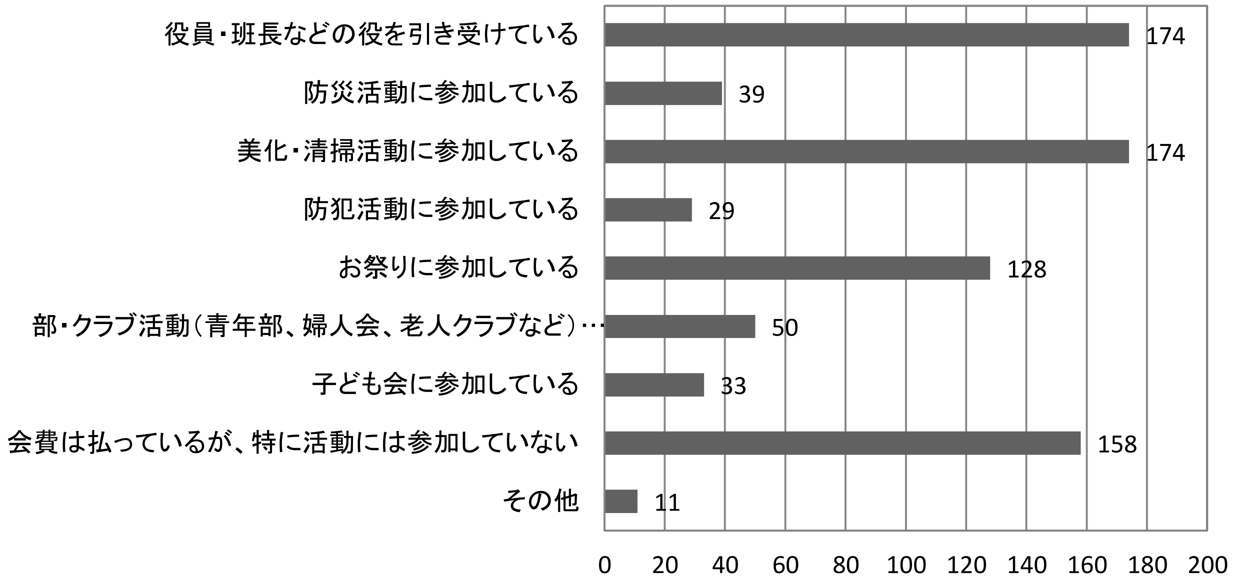
【その他記載欄】
・よく分からない・知らない　計8
・引っ越して来たばかりで分からない　計3
・ゲートボールをしている人達
・地域のきずなを守る
・特に

町会に加入していますか。 3



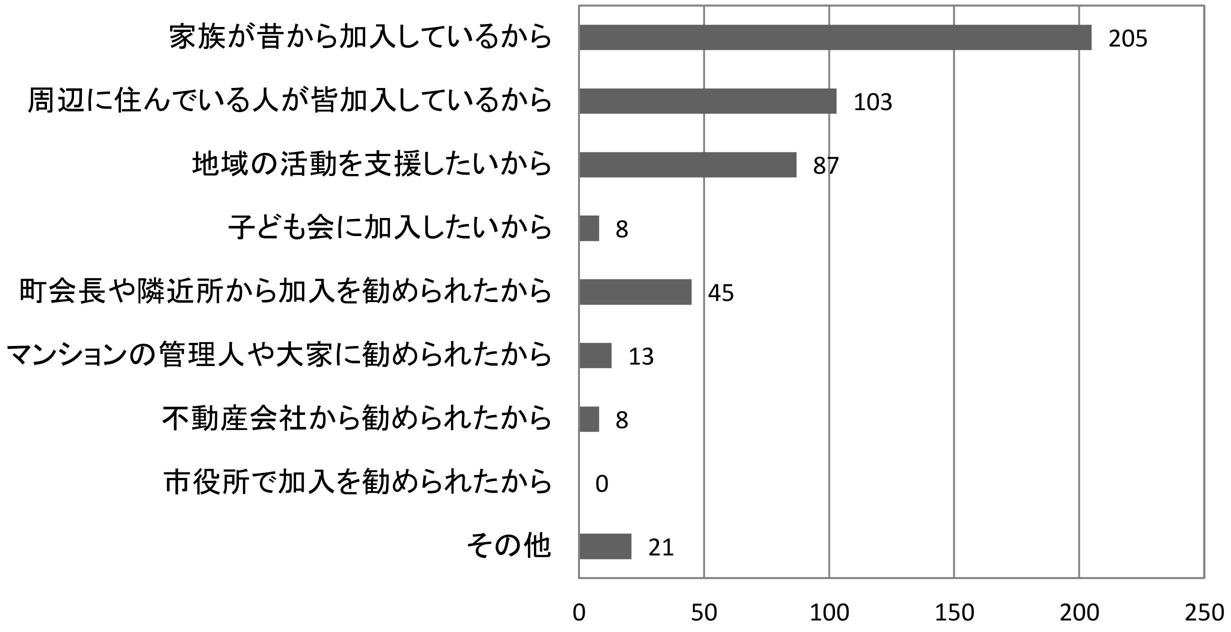
町会のどのような活動に参加していますか。 4

（複数回答可）



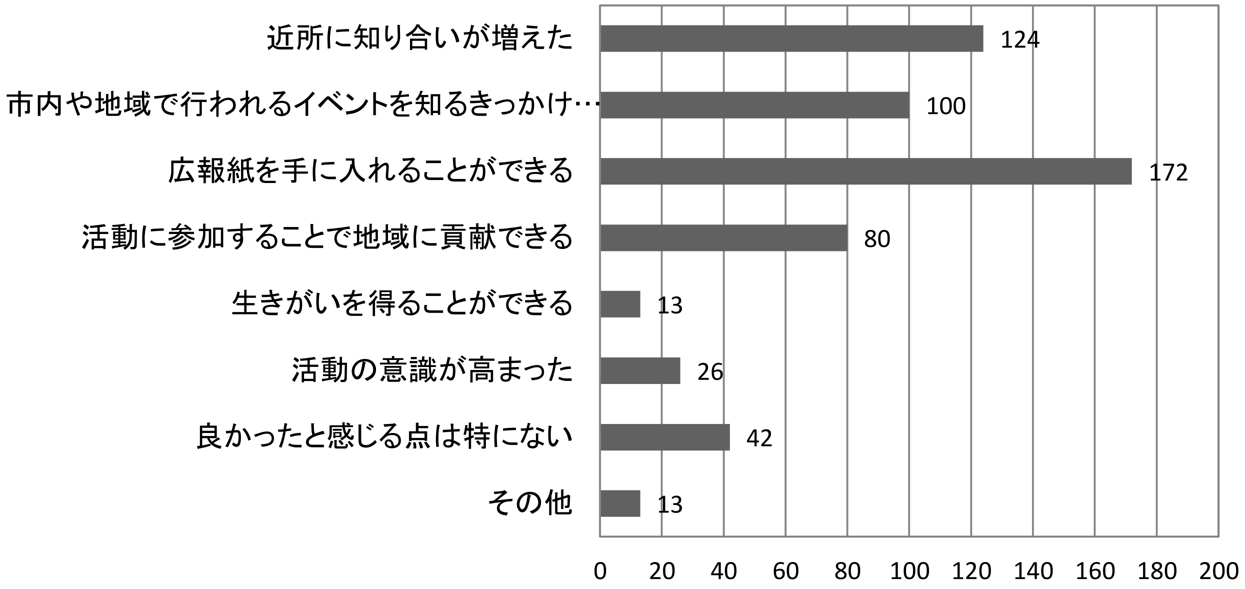
【その他記載欄】
・以前は参加していた　計3
・交流会
・家族が参加
・日中の休みが他の方と違うため、活動に参加できない
・健康づくり委員
・4/1に転入したばかり

なぜ町会に加入しましたか。 5



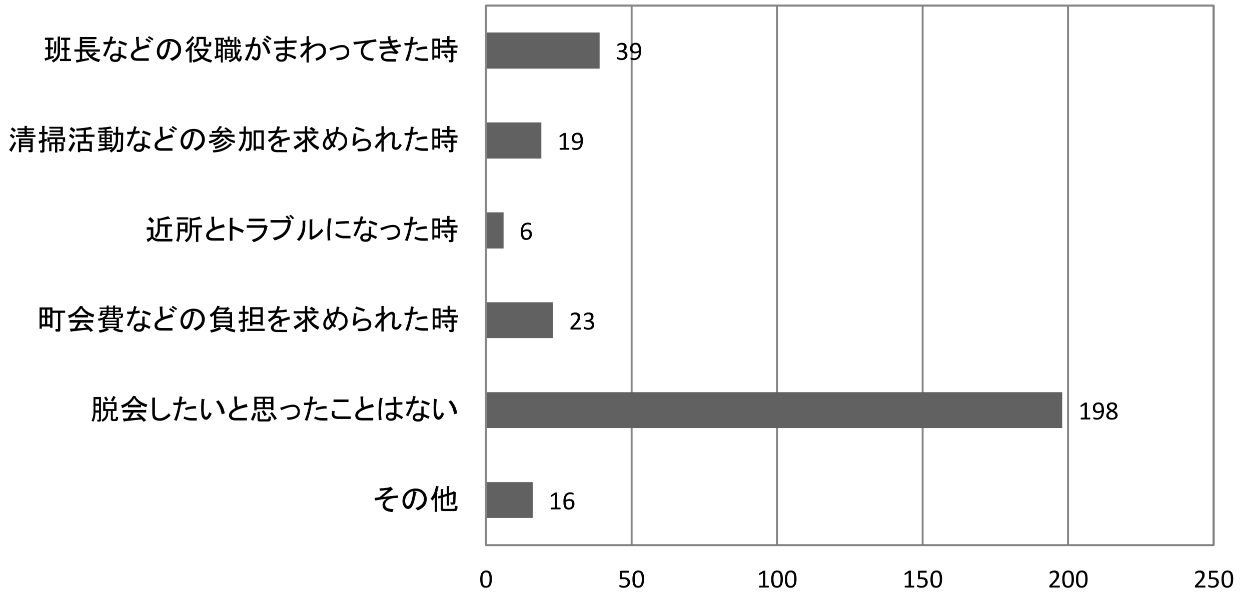
【その他記載欄】
・弘前の住民だから
・町会に加入しないという考えがなかった
・引っ越してきたら必然的に
・草刈りとか町内環境の維持や老人・子供は支援したいから
・家族にすすめられたから
・マンションで自動的に加入
・親睦を深めたい
・必要だと思ったから
・親が入ったから
・地域を知る。行政からの連絡を知る
・新築した時より、加入は必要と思い続けている
・強制加入だったから
・子どもが小さい時、予防接種等市広報にのってたから
・職場の方針
・ゴミ出しのため
・当番制があるから
・地域の方と知り合うきっかけ作り

加入して良かったと感じる点はありますか。 6



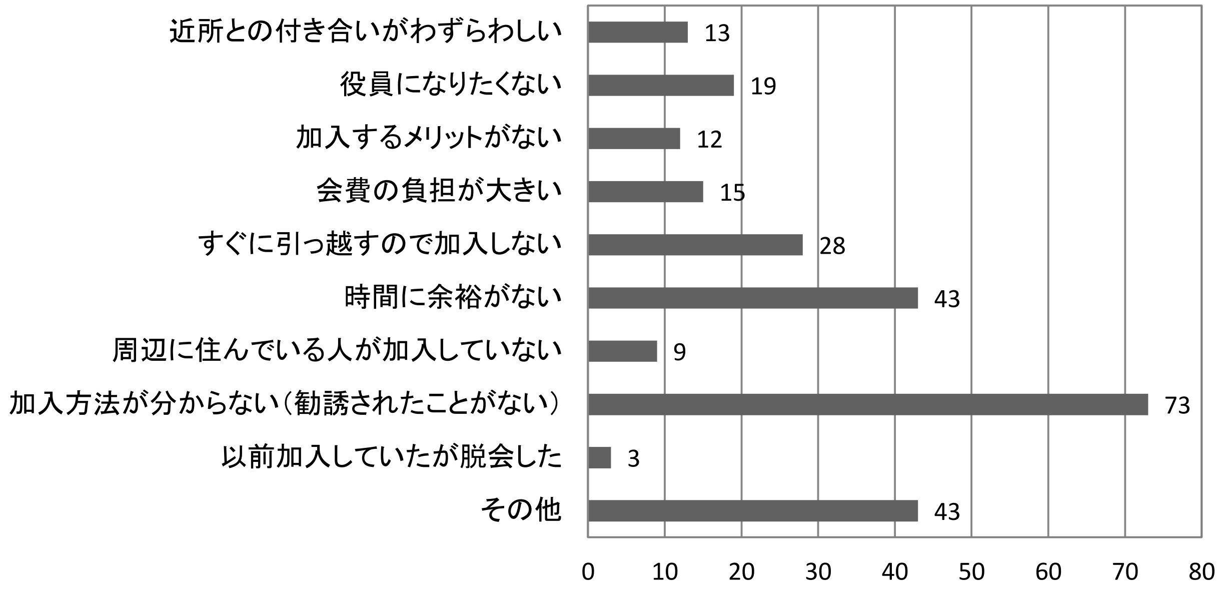
【その他記載欄】
・引越してきたばかりでよくわからない　計2
・昔はいろいろ参加したが、今はお年寄りばかりで活動がない
・子どもが小学生の時、子ども会のラジオ体操に参加できた
・独居の母を見守ってもらっていると感じる
・まだこっちに来たばかり
・加入したくない
・特にない
・回覧板などで地域のことを知ることができる
・除雪など地域の声を伝えてくれている
・ない。脱会したい

7 町会を脱会した、もしくは脱会したいと思ったことはありますか。



【その他記載欄】
- ・引越してきたばかりでよくわからない
- ・町内の世話役（当番）ができなくなった時
- ・町会費を集める時
- ・しかたなく
- ・回覧板を回すのが面倒くさいと思った時
- ・ない
- ・管理費に町会費が含まれているので自動的に引き落としになる
- ・まだ関わりがほとんどないので
- ・必要だと思う
- ・今の現状では何ひとつ進歩もなく、ただ会費だけ払っている感じ
- ・昔から加入しているため、それが当たり前だと思う
- ・特にない
- ・今は義父母がメインなのでよくわからない
- ・これから参加する

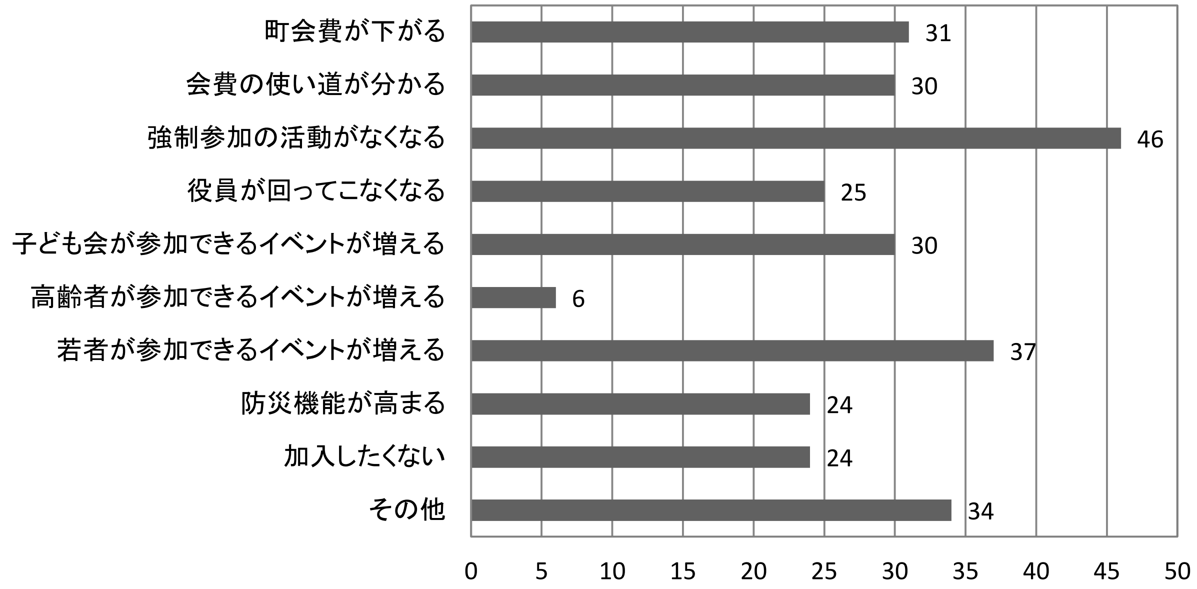
8 町会に加入しない理由は何ですか。
（問３で「いいえ」の人のみ）



【その他記載欄】
- ・引越して来たばかりだから　計11
- ・引っ越して来たばかりでわからない　計3
- ・町会自体の内容がよくわからない　計2
- ・よく分からない　計2
- ・マンションに住んでいるのでわからない
- ・たぶんこれから案内が来るのでしょう
- ・仕事の関係で首都圏に住んでいるため
- ・家族が加入していると思うが、自分は意識したことがなかった
- ・若い女性が入っても雑用ばかり押し付けられるのではと不安
- ・町会が何かわからない
- ・親が加入している。今の町会はさほど活発に活動してるとは思えない
- ・アパートなので加入の必要がなかったから
- ・親が加入していたけどやめて、それ以来そのまま
- ・県外で働いているから
- ・以前加入していたが、町会が廃止されてしまった
- ・回覧を持ってくる人がイヤ
- ・役員の報酬が高い、町会費が高い
- ・費用や負担、活動内容がわからないので。加入方法がわからないので
- ・引っ越してきたばかりなのでわからない。人づきあいが苦手
- ・これから引っ越すためまだ加入していない
- ・引っ越してきたばかりで町会があるのかもわからない
- ・若いから
- ・ない
- ・世帯主じゃない
- ・大学生であるため
- ・これから加入予定

9 どうなれば町会に加入しようと思いますか。

（問３で「いいえ」の人のみ）

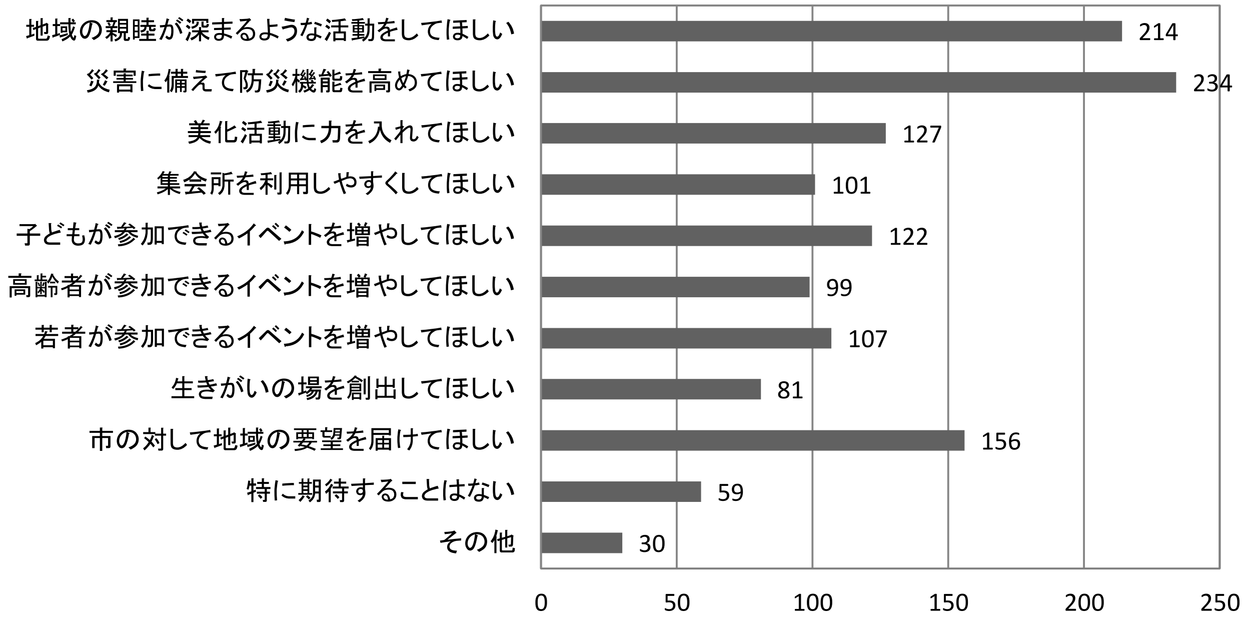


【その他記載欄】

・分からない　計3
・時間があれば　計2
・？　計2
・若者を受け入れる体制が町会内で整っている
・一ヶ月百円だったら加入しても良い
・メリットが明確に分かれば
・長期の定住が見込まれた時
・親が加入
・活動が分かる。歓迎される
・町会からの勧めが直接あれば
・加入しようと思わない
・大学との両立ができれば
・上記の明確化
・4年くらいでいなくなるので
・自分の時間の余裕ができる
・声掛けがあれば
・何をやっているのか、町会のメンバーがどういう人なのかわかれば
・どんなことをしているのかパンフレットや資料があればよいと思う
・町会に知っている人がいる（近所の人もみんな入っている）
・閉鎖性がなくなり、年功序列もなく、若くても女性でも、地域を良くしようとする意見があれば吸い上げる等役に立てるのであれば
・住み慣れてから考える
・どんなでも加入しようと思う
・興味がない
・転勤がなければ
・いい町になる
・声が届く

10 町会にどのようなことを期待しますか。

（複数回答可）



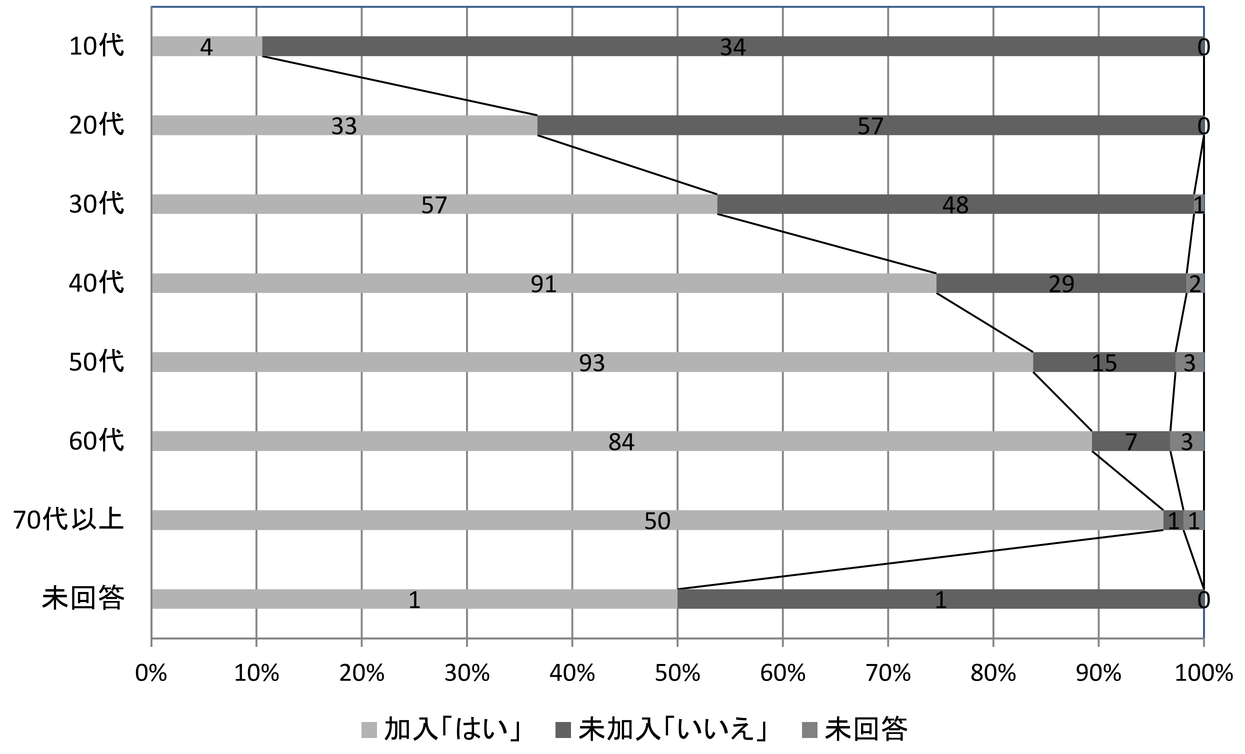
【その他記載欄】

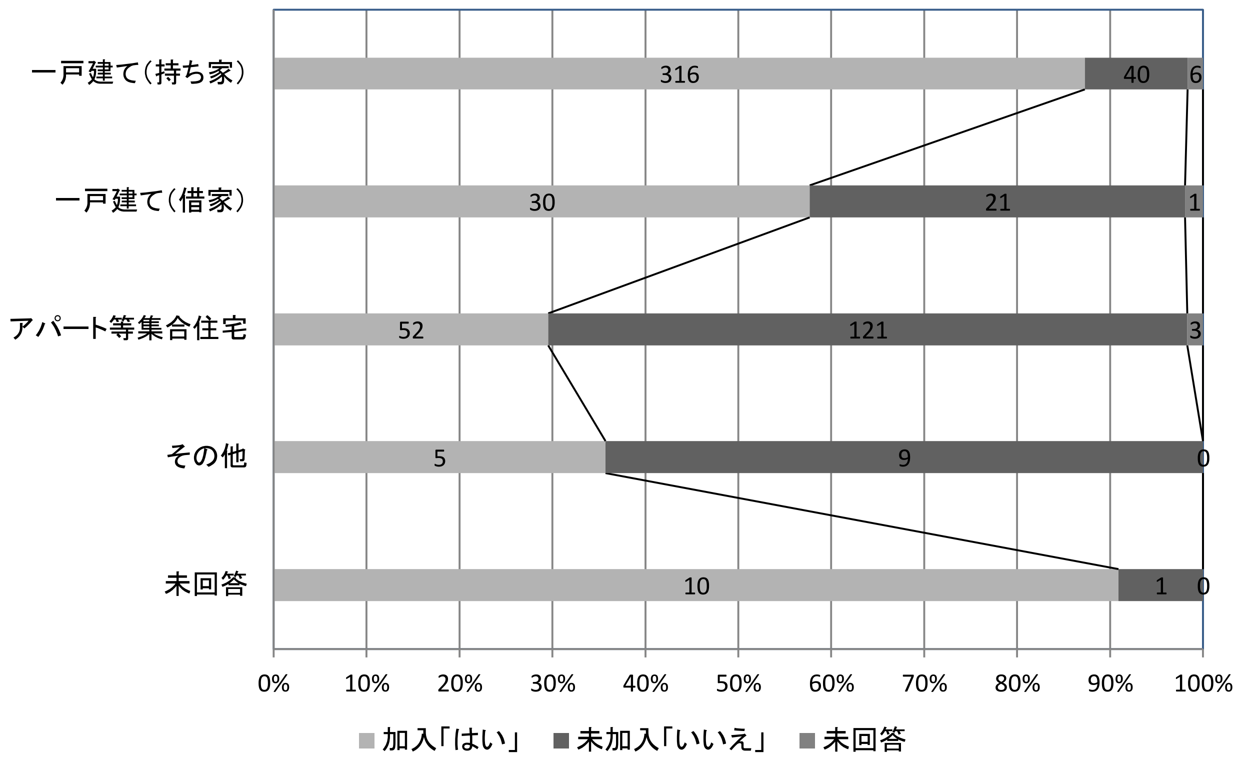
・住んでいる所の人が少なすぎる
・まつりに参加してみたい
・宵宮を盛大に行ってほしい
・独居の高齢者見守りを続けてほしいです
・プライベートな時間を重視してほしい
・除排雪、流雪溝の設置等の要望
・神社はあるがそもそも集会所がない
・除雪に呼びかけて欲しい。業者への指導
・仕事で活動に参加できない世帯への配慮
・個々人のやってみたいことを表現できる場になれば
・町がもっと良くなるための意見交換の場を増やしてほしい
・当町会は子ども会もとても多く活発に活動している
・市老連などに加入して地域の連携を考えてほしい
・年寄りも若い人もみんなが参加できるように協力する人が増えてほしい
・市民のために尽くして欲しい、学校周りの除雪を徹底してほしい
・収支がきちんと分かる。一軒一軒、一人一人の事情を理解してくれる
・継続して無理なく活動ができる体制・仕組みづくり
・総会での酒を飲むくらいなら、決算書を出してほしい。除雪が来ない
・1人暮らしの老人が多く除雪のことを考えてほしい
・地域も高齢化してきている、連携、防災などに力を入れるべき。財源は苦しそう。補助は？
・コンビニ等の便利な環境の配備・維持、住みにくい環境の中では、どんなに親睦があったりイベントがあっても効果が薄い
・防犯、子どもパトロール
・行政への提案
・全てやっている
・雪対策
・今の状態で良いと思う
・今まで通りの活動で充分感謝している
・ごみステーション（箱）を用意してほしい

分析編

年齢別の加入率

年齢別に見た問３「町会に加入していますか」
「はい」「いいえ」の割合



住居形態別の加入率

住居形態別に見た問３「町会に加入していますか」
「はい」「いいえ」の割合